

評価規準の作成，評価方法等の工夫改善
のための参考資料
(小学校 体育)

平成23年11月

国立教育政策研究所
教育課程研究センター

評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料 (小学校 体育)

はじめに

平成20年3月に告示された小学校学習指導要領は，平成23年度から全面実施されています。

新しい学習指導要領のねらいを実現するためには，各学校における児童や地域の実態等に応じた適切な教育課程の編成・実施，指導方法等の工夫が重要です。また，学習指導要領に示す内容が児童一人一人に確実に身に付いているかどうかを適切に評価し，その後の学習指導の改善に生かしていくとともに学校の教育活動全体の改善に結び付けていくことが重要です。

この新しい学習指導要領の下での学習評価については，平成22年3月の中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会報告では，目標に準拠した評価を着実に実施することとされています。また，同年5月の文部科学省初等中等教育局長通知「小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について」では，観点別学習状況の評価の観点とその趣旨等が示されています。

国立教育政策研究所教育課程研究センターでは，この報告や通知を受け，評価規準，評価方法等の工夫改善に関する調査研究等を行い，平成22年11月に「評価規準の作成のための参考資料」，平成23年3月に「評価方法等の工夫改善のための参考資料」を作成し，このたび，学校現場で活用しやすいように両資料を合冊するとともに，教科等ごとに分冊にしました。

本資料は，各学校において学習評価を進める際の参考として役立てていただくことを目的として，評価規準作成に係るものは，新しい学習指導要領の各教科等の目標，学年（分野）別の目標及び内容，文部科学省初等中等教育局長通知に示された評価の観点及びその趣旨等を踏まえ，評価規準に盛り込むべき事項及び評価規準の設定例を示しています。

また，評価方法等の工夫改善に係るものは，単元（題材）の評価に関する事例に沿って，評価規準の設定を含めた指導と評価の計画，具体的な評価方法，評価対象とした具体的な児童の学習状況等について示しています。

各学校におかれては，本資料や都道府県教育委員会等が示す評価に関する資料を参考としながら，評価規準の設定，評価方法等の工夫改善を図り，新しい学習指導要領の下での学習評価を適切に行うことを期待します。

最後に，本調査研究協力者の方々をはじめとして本書の作成にご協力くださった方々に心から感謝の意を表します。

平成23年11月

国立教育政策研究所
教育課程研究センター長
神 代 浩

目次

第1編 総説	1
第1章 学習評価の在り方について	3
1 新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の基本的な考え方	
2 新学習指導要領の下での指導要録における観点別学習状況，評定，特別活動及び外国語活動の記録	
第2章 評価規準の設定等について（第2編関係）	7
1 評価規準の設定について	
2 資料の構成等について	
第3章 評価方法の工夫改善について（第3編関係）	11
1 評価方法の工夫改善について	
2 評価時期等の工夫について	
3 各学校における指導と評価の工夫改善について	
4 第3編の資料で紹介する評価方法等の事例の特徴	
第2編 評価規準に盛り込むべき事項等（※）	21
第1 教科目標，評価の観点及びその趣旨等	
第2 内容のまとめりととの評価規準に盛り込むべき事項及び評価規準の設定例	
第3編 評価に関する事例	45
1 評価規準の設定について	
2 各事例のポイント	
事例1 ゴール型（バスケットボール）（第5学年）	51
キーワード 運動領域における指導と評価の全体像	
事例2 リズムダンス（第3学年）	59
キーワード 「運動への関心・意欲・態度」の評価	
事例3 多様な動きをつくる運動遊び（第1学年）	65
キーワード 「運動についての思考・判断」の評価	
事例4 ハードル走（第6学年）	71
キーワード 「運動の技能」の評価	
事例5 毎日の生活と健康（第3学年）	77
キーワード 保健領域における指導と評価の全体像	
事例6 育ちゆく体とわたし（第4学年）	85
キーワード 健康・安全についての思考・判断の評価	
（参考資料）	91
1 評価規準，評価方法等の工夫改善に関する調査研究について（平成22年4月14日，国立教育政策研究所長裁定）	
2 評価規準，評価方法等の工夫改善に関する調査研究協力者	
3 小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（平成22年5月11日付け文部科学省初等中等教育局長通知）（抄）	
※本冊子では，改訂後の常用漢字表（平成22年11月30日内閣告示）に基づいて表記しています。（学習指導要領及び初等中等教育局長通知等の引用部分を除く）	

第 1 編

総説

第 1 編 総 説

第 1 章 学習評価の在り方について

1 新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の基本的な考え方

平成 20 年に告示された学習指導要領（以下「新学習指導要領」という。）の下で行われる学習評価について、平成 22 年 3 月に中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会報告「児童生徒の学習評価の在り方について」（以下「報告」という。）がとりまとめられた。

- 【報告で示された学習評価の改善に係る 3 つの基本的な考え方】 -----
- 目標に準拠した評価による観点別学習状況の評価や評定の着実な実施
 - 学力の重要な要素を示した新学習指導要領等の趣旨の反映
 - 学校や設置者の創意工夫を生かす現場主義を重視した学習評価の推進

※報告の全文は、文部科学省ホームページに掲載

(http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/gaiyou/attach/1292216.htm)

新学習指導要領の下での学習評価については、児童の「生きる力」の育成を目指し、児童一人一人の資質や能力をより確かに育むようにするため、学習指導要領に示す目標に照らしてその実現状況をみる評価を着実に実施し、児童一人一人の進歩の状況や教科の目標の実現状況を的確に把握し、学習指導の改善に生かすことが重要であるとともに、学習指導要領に示す内容が確実に身に付いたかどうかの評価を行うことが重要である。

また、今回の観点別学習状況の評価の改善は、特に、学力の重要な要素を示した新学習指導要領等の趣旨の反映と関連している。

学校教育法の一部改正を受けて改訂された新学習指導要領の総則に示された学力の 3 つの要素を踏まえて、評価の観点に関する考え方が整理された結果、これまでの観点の構成と比べると、「思考・判断」が「思考・判断・表現」となり、「技能・表現」が「技能」として設定されることとなった。

さらに、各学校や設置者の創意工夫を一層生かしていくことが求められており、各学校では、組織的な取組を推進し、学習評価の妥当性、信頼性等を高めることが重要である。

2 新学習指導要領の下での指導要録における観点別学習状況，評定，特別活動及び外国語活動の記録

文部科学省は，新学習指導要領の下での指導要録の作成の参考となるよう，平成22年5月11日付けで文部科学省初等中等教育局長通知「小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について」（以下「改善通知」という。）を発出した。

この改善通知では，報告を受け，各設置者による指導要録の様式の決定や各学校における指導要録の作成の参考となるよう，学習評価を行うに当たっての配慮事項，小学校，中学校ごとに各教科の学習の記録，特別活動及び外国語活動の記録など各欄の記入方法等を示すとともに，各学校における指導要録の作成に当たっての配慮事項等を示している。

-- 【改善通知の主な内容】

（1）学習評価の改善に関する基本的な考え方について

学習評価を通じて，学習指導の在り方を見直すことや個に応じた指導の充実を図ること，学校における教育活動を組織として改善することが重要であり，新学習指導要領の下での学習評価の改善を図っていくためには以下の基本的な考え方に沿って学習評価を行うことが必要である。

- ① きめの細かな指導の充実や児童生徒一人一人の学習の確実な定着を図るため，学習指導要領に示す目標に照らしてその実現状況を評価する，目標に準拠した評価を引き続き着実に実施すること。
- ② 新学習指導要領の趣旨や改善事項等を学習評価において適切に反映すること。
- ③ 学校や設置者の創意工夫を一層生かすこと。

（2）学習評価における観点について

新学習指導要領を踏まえ，「関心・意欲・態度」，「思考・判断・表現」，「技能」及び「知識・理解」に評価の観点を整理し，各教科の特性に応じて観点を示しており，設置者や学校においては，これに基づく適切な観点を設定する必要がある。

改善通知に示された評価の観pointsの趣旨については以下のように整理することができる。

① 「関心・意欲・態度」

「関心・意欲・態度」の観点は，これまでと同様，各教科の学習に即した関心や意欲，学習への態度等を対象としたものであり，その趣旨に変更はない。

② 「思考・判断・表現」

「思考・判断・表現」の観点のうち「表現」については，基礎的・基本的な知識・技能を活用しつつ，各教科の内容に即して考えたり，判断したりしたことを，児童生徒の説明・論述・討論などの言語活動等を通じて評価することを意味している。

つまり「表現」とは，これまでの「技能・表現」で評価されていた「表現」ではなく，思考・判断した過程や結果を言語活動等を通じて児童生徒がどのよ

うに表出しているかを内容としている。

③「技能」

「技能」の観点では、従前の「技能・表現」が対象としていた内容を引き継ぐことになる。これまで「技能・表現」については、例えば社会科では資料から情報を収集・選択して、読み取ったりする「技能」と、それらを用いて図表や作品などにまとめたりする際の「表現」とをまとめて「技能・表現」として評価してきた。

今回の改訂で設定された「技能」については、これまで「技能・表現」として評価されていた「表現」をも含む観点として設定されることとなった。

④「知識・理解」

「知識・理解」の観点は、これまでと同様、各教科において習得した知識や重要な概念を理解しているかどうかを内容としたものであり、その趣旨に変更はない。

改善通知においては、各設置者が観点を設定する際に参考となるよう、各教科の評価の観点及びその趣旨並びにそれらを学年別（又は分野別）に示したものを提示している。観点及びその趣旨等は、これまでと同様、各学校における評価規準の工夫・改善を図る際にも参考となるものである。

（３）観点別学習状況及び評定の記入方法について

改善通知に示された小学校児童指導要録における観点別学習状況及び評定の記入方法は、次のとおりである。

【小学校児童指導要録】

[各教科の学習の記録]

I 観点別学習状況

新学習指導要領に示す各教科の目標に照らして、その実現状況を観点ごとに評価し、次のように区別して記入する。

「十分満足できる」状況と判断されるもの : A

「おおむね満足できる」状況と判断されるもの : B

「努力を要する」状況と判断されるもの : C

II 評定（第3学年以上）

新学習指導要領に示す各教科の目標に照らして、その実現状況を総括的に評価し、次のように区別して記入する。

「十分満足できる」状況と判断されるもの : 3

「おおむね満足できる」状況と判断されるもの : 2

「努力を要する」状況と判断されるもの : 1

(4) 特別活動について

改善通知には、学習指導要領の目標及び特別活動の特質等に沿って、各学校において評価の観点を定めることができるようにすることとし、各活動・学校行事ごとに評価することが示されている。

また、特別活動の記録の記入方法は、各学校が自ら定めた特別活動全体に係る評価の観点を記入した上で、各活動・学校行事ごとに、評価の観点に照らして十分満足できる活動の状況にあると判断される場合に、○印を記入することが示されている。

(5) 外国語活動について

改善通知では、評価の観点を記入した上で、それらの観点に照らして、児童の学習状況に顕著な事項がある場合にその特徴を記入する等、児童にどのような力が身に付いたかを文章で記述することが示されている。

※改善通知は、本資料末尾の参考資料及び文部科学省ホームページに掲載
(http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/1292898.htm)

これらを踏まえ、本センターでは、各学校における児童の学習の効果的・効率的な評価に資するため、平成22年5月から評価規準、評価方法等の工夫改善に関する調査研究を行い、同年11月に「評価規準の作成のための参考資料」を、平成23年3月に「評価方法等の工夫改善のための参考資料」をとりまとめた。本資料は、2つの参考資料を包含したものである。

第2章 評価規準の設定等について（第2編関係）

1 評価規準の設定について

各学校における観点別学習状況の評価が効果的に行われるようにするため、各教科の評価の観点及びその趣旨を参考として、評価規準の工夫・改善を図ることが重要である。

学習指導要領に示す目標に照らしてその実現状況をみる評価（目標に準拠した評価）を着実に実施するためには、各教科の目標だけでなく、領域や内容項目レベルの学習指導のねらいが明確になっている必要がある。そして、学習指導のねらいが児童の学習状況として実現されたというのは、どのような状態になっているかが具体的に想定されている必要がある。

このような状況を具体的に示したものが評価規準であり、各学校において設定するものである。

各学校において、学習評価を行うために評価規準を設定することは、児童の学習状況を判断する際の目安が明らかになり、指導と評価を着実に実施することにつながる。

また、学習評価の工夫改善を進めるに当たっては、学習評価をその後の学習指導の改善に生かすとともに、学校における教育活動全体の改善に結び付けることが重要である。その際、学習指導の過程や学習の結果を継続的、総合的に把握することが必要である。

そのためには、評価規準を適切に設定するとともに、評価方法の工夫改善を進めること、評価結果について教師同士で検討すること、実践事例を着実に継承していくこと、授業研究等を通じ教師一人一人の力量の向上を図ること等に、校長のリーダーシップの下で、学校として、組織的・計画的に取り組むことが必要である。

一方、年間指導計画を検討する際、それぞれの単元（題材）において、観点別学習状況の評価に係る最適の時期や方法を観点ごとに整理することが重要である。これにより、評価すべき点を見落としていないかを確認するだけでなく、必要以上に評価機会を設けることで評価資料の収集・分析に多大な時間を要するような事態を防ぐことができ、各学校において効果的・効率的な学習評価を行うことにつながると考えられる。

以上のような考え方を踏まえ、本資料第2編では、各学校において評価規準を設定する際の参考となるよう、「評価規準に盛り込むべき事項」及び「評価規準の設定例」を掲載している。

これらや各教育委員会が作成した学習評価関係資料を参考にしつつ、各学校において適切な評価規準が設定されることが期待される。

文部省指導資料から、評価規準について解説した部分を参考として紹介する。

(参考) 評価規準の設定 (抄)

(文部省「小学校教育課程一般指導資料」(平成5年9月)より)

新しい指導要録(平成3年改訂)では、観点別学習状況の評価が効果的に行われるようにするために、「各観点ごとに学年ごとの評価規準を設定するなどの工夫を行うこと」と示されています。

これまでの指導要録においても、観点別学習状況の評価を適切に行うため、「観定の趣旨を学年別に具体化することなどについて工夫を加えることが望ましいこと」とされており、教育委員会や学校では目標の達成の度合いを判断するための基準や尺度などの設定について研究が行われてきました。

しかし、それらは、ともすれば知識・理解の評価が中心になりがちであり、また「目標を十分達成(+)」、「目標をおおむね達成(空欄)」及び「達成が不十分(-)」ごとに詳細にわたって設定され、結果としてそれを単に数量的に処理することに陥りがちであったとの指摘がありました。

今回の改訂においては、学習指導要領が目指す学力観に立った教育の実践に役立つようにすることを改訂方針の一つとして掲げ、各教科の目標に照らしてその実現の状況进行评估する観点別学習状況を各教科の学習の評価の基本に据えることとしました。したがって、評価の観点についても、学習指導要領に示す目標との関連を密にして設けられています。

このように、学習指導要領が目指す学力観に立つ教育と指導要録における評価とは一体のものであるとの考え方に立って、各教科の目標の実現の状況を「関心・意欲・態度」、「思考・判断」、「技能・表現(又は技能)」及び「知識・理解」の観点ごとに適切に評価するため、「評価規準を設定する」ことを明確に示しているものです。

「評価規準」という用語については、先に述べたように、新しい学力観に立って子供たちが自ら獲得し身に付けた資質や能力の質的な面、すなわち、学習指導要領の目標に基づく幅のある資質や能力の育成の実現状況の評価を目指すという意味から用いたものです。

2 資料の構成等について

(1) 資料の構成等について

「第2編 評価規準に盛り込むべき事項等」の構成は以下のとおりである。

・各教科の構成

原則として、教科ごとに次のような内容から構成されている。

- 第1 教科目標、評価の観点及びその趣旨等
 - 1 教科目標

- 2 評価の観点及びその趣旨
- 3 内容のまとまり

第2 内容のまとまりごとの評価規準に盛り込むべき事項及び評価規準の設定例

I 第○学年（○○分野）

- 1 学年目標（分野の目標）
- 2 評価の観点の趣旨
- 3 学習指導要領の内容，内容のまとまりごとの評価規準に盛り込むべき事項及び評価規準の設定例

・特別活動の構成

特別活動については，次の内容から構成されている。

- 第1 目標，評価の観点及びその趣旨等
 - 1 目標
 - 2 評価の観点及びその趣旨
 - 3 内容のまとまり
- 第2 内容のまとまりごとの評価規準に盛り込むべき事項

（2）各教科における評価規準に盛り込むべき事項及び評価規準の設定例

目標に準拠した評価を着実に実施するためには，各教科の目標だけでなく，領域や内容項目レベルの学習指導のねらいが明確になっている必要がある。そして，学習指導のねらいが児童の学習状況として実現されたというのは，どのような状態になっているかが具体的に想定されている必要がある。

以上の考え方を踏まえ，改善通知に示された各教科の観点別学習状況の評価が効果的に行われるようにするために，各学校において評価規準を設定する際の参考となるよう，「評価規準に盛り込むべき事項及び評価規準の設定例」を示している。

第1に，学習指導要領の学年（又は分野）目標を実現するために，各教科の内容のまとまりごとに「評価規準に盛り込むべき事項」を示している。

「評価規準に盛り込むべき事項」は，新学習指導要領の各教科の目標，学年（又は分野）の目標及び内容の記述を基に，改善通知で示されている各教科の評価の観点及びその趣旨，学年（又は分野）別の評価の観点の趣旨を踏まえて作成している。

ここでの「内容のまとまり」とは，学習指導要領に示す領域や内容項目等をそのまとまりごとに整理したものであり，各教科における「内容のまとまり」は，次のとおりである。

教 科	内容のまとめ
国 語	「A 話すこと・聞くこと」「B 書くこと」「C 読むこと」の各領域
社 会	内容の（１），（２）・・・の各大項目
算 数	「A 数と計算」「B 量と測定」「C 図形」「D 数量関係」の各領域
理 科	「A 物質・エネルギー」「B 生命・地球」の各区分
生 活	（１）～（９）の各項目
音 楽	「A 表現・歌唱」「A 表現・器楽」「A 表現・音楽づくり」「B 鑑賞」
図画工作	「A 表現・（１）造形遊び」「A 表現・（２）絵や立体，工作」「B 鑑賞（１）」
家 庭	「A 家族生活と家族」，「B 日常の食事と調理の基礎」，「C 快適な衣服と住まい」，「D 身近な消費生活と環境」の内容の（１），（２）・・・の各項目
体 育	（運動領域）：「A」「B」の・・・の各運動領域 （保健領域）内容の（１），（２）・・・の各大項目

第２に，各学校において単元や題材ごとの評価規準や学習活動に即した評価規準を設定するに当たって参考となるよう，「評価規準に盛り込むべき事項」をより具体化したものを「評価規準の設定例」として示している。

「評価規準の設定例」は，原則として，新学習指導要領の各教科の目標，学年（又は分野）の目標及び内容のほかに，当該部分の学習指導要領解説（文部科学省刊行）の記述を基に作成している。

なお，「評価規準に盛り込むべき事項及び評価規準の設定例」は，評価の観点別に「おおむね満足できる」状況を示すものである。

（３）特別活動の評価規準に盛り込むべき事項

特別活動については，改善通知において，評価の観点及びその趣旨が示されている。

これを踏まえ，小学校では，「学級活動（１）」，「学級活動（２）」「児童会活動」「クラブ活動」「学校行事（１）」～「学校行事（５）」をそれぞれ内容のまとめとして，「評価規準に盛り込むべき事項」を示している。

特別活動の「内容のまとめごとの評価規準に盛り込むべき事項」は，改善通知において，「各活動・学校行事ごとに，評価の観点に照らして十分満足できる活動の状況にあると判断される場合に，○印を記入する」とされていることに対応して，「十分満足できる」活動の状況を示した。その記述は，原則として新学習指導要領及びその解説（文部科学省刊行）を基に作成している。

第3章 評価方法等の工夫改善について（第3編関係）

1 評価方法の工夫改善について

各学校では、各教科の学習活動の特質、評価の観点や評価規準、評価の場面や児童の発達段階に応じて、観察、児童との対話、ノート、ワークシート、学習カード、作品、レポート、ペーパーテスト、質問紙、面接などの様々な評価方法の中から、その場面における児童の学習の状況を的確に評価できる方法を選択していくことが必要である。上記のような評価方法に加えて、児童による自己評価や児童同士の相互評価を工夫することも考えられる。

評価を適切に行うという点のみでいえば、できるだけ多様な評価を行い、多くの情報を得ることが重要であるが、他方、このことにより評価に追われてしまえば、十分に指導ができなくなるおそれがある。児童の学習状況を適切に評価し、その評価を指導に生かす点に留意する必要がある。

なお、ペーパーテストは、評価方法の一つとして有効であるが、ペーパーテストにおいて得られる結果が、目標に準拠した評価における学習状況の全てを表すものではないことについては、改めて認識する必要がある。

そこで、例えば、ワークシート等への記述内容は、「知識・理解」の評価だけでなく、「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」の評価にも活用することが可能であり、児童の資質や能力を多面的に把握できるように工夫し、活用することが考えられる。

2 評価時期等の工夫について

報告では、評価時期に関して、以下の2点について述べられている。

- ・授業改善のための評価は日常的に行われることが重要である。一方で、指導後の児童の状況を記録するための評価を行う際には、単元等のある程度長い区切りの中で適切に設定した時期において「おおむね満足できる」状況等にあるかどうかを評価することが求められる。
- ・「関心・意欲・態度」については、表面的な状況のみに着目することにならないよう留意するとともに、教科の特性や学習指導の内容等も踏まえつつ、ある程度長い区切りの中で適切な頻度で「おおむね満足できる」状況等にあるかどうかを評価するなどの工夫を行うことも重要である。

各学校で年間指導計画を検討する際、それぞれの単元（題材）において、観点別学習状況の評価に係る最適の時期や方法を観点ごとに整理することが重要である。これにより、評価すべき点を見落としていないかを確認す

るだけでなく、必要以上に評価機会を設けて評価資料の収集・分析に多大な時間を要するような事態を防ぐことができ、各学校において効果的・効率的な学習評価を行うことにつながると考えられる。

3 各学校における指導と評価の工夫改善について

(1) 指導と評価の一体化

新学習指導要領は、基礎的・基本的な知識・技能の習得と思考力、判断力、表現力等をバランスよく育てることを重視している。各教科の指導に当たっては、児童の主体的な活動を生かしながら、目標の確実な実現を目指す指導の在り方が求められる。

このバランスのとれた学力を育成するためには、学習指導の改善を進めると同時に、学習評価においては、観点ごとの評価をバランスよく実施することが必要である。

さらに、学習評価の工夫改善を進めるに当たっては、学習評価をその後の学習指導の改善に生かすとともに、学校における教育活動全体の改善に結び付けることが重要である。その際、学習指導の過程や学習の結果を継続的、総合的に把握することが必要である。

各学校では、児童の学習状況を適切に評価し、評価を指導の改善に生かすという視点を一層重視し、教師が指導の過程や評価方法を見直して、より効果的な指導が行えるよう指導の在り方について工夫改善を図っていくことが重要である。

(2) 学習評価の妥当性、信頼性等

報告では、各学校や設置者の創意工夫を生かし、現場主義を重視した学習評価として、各学校では、組織的・計画的な取組を推進し、学習評価の妥当性、信頼性等を高めるよう努めることが重要であるとされている。ここでいう学習評価の「妥当性」は、評価結果が評価の対象である資質や能力を適切に反映しているものであることを示す概念とされている。

この「妥当性」を確保していくためには、評価結果と評価しようとした目標の間に適切な関連があること（学習評価が学習指導の目標に対応するものとして行われていること）、評価方法が評価の対象である資質や能力を適切に把握するものとしてふさわしいものであること等が求められるとされている。

また、改善通知では、学校や設置者において、学習評価の妥当性、信頼性等を高める取組が求められている。

妥当性、信頼性等を高めるためには、各学校において、次のような取組が有効と考えられる。

まず、学習評価を進めるに当たっては、指導の目標及び内容と対応した

形で評価規準を設定することや評価方法を工夫する必要がある。

特に、評価方法を検討する際には、評価の観点で示される資質や能力等
を評価するのにふさわしい方法を選択することが、評価の妥当性、信頼性
等を高めることになる。

また、評価方法を評価規準と組み合わせて設定することが必要であり、
評価規準と対応するように評価方法を準備することによって、評価方法の
妥当性、信頼性等が高まるものと考えられる。

(3) 学校全体としての組織的・計画的な取組

学習評価の工夫改善を進めるに当たっては、評価規準を適切に設定する
とともに、評価方法の工夫改善を進めること、評価結果について教師同士
で検討すること、授業研究等を通じ教師一人一人の力量の向上を図ること
等について、校長のリーダーシップの下、学校として、組織的・計画的に
取り組むことが必要である。

①教師の共通理解と力量の向上

学校全体として評価についての力量を高めるためには、学校としての
評価の方針、方法、体制、結果などについて、校長のリーダーシップの
下、日頃から教師間の共通理解を図る必要がある。このように、評価に
関する情報の共有や交換により、経験年数等に左右されず教師が共通の
認識をもって評価に当たることができるようにすることが重要である。

さらに、複数の教師で、どのように学習評価を進めれば指導に生かす
評価の充実が図れるのか、教師にとって過大な負担とならないかなどに
ついて確認し合うことが、効果的で効率的な評価を行うことにつながる。

以上のことを学校として組織的に実施するために、校内研究・研修の
在り方を一層工夫する必要がある。

その上で、これまでの実践の蓄積を生かしていくことが大切であり、
学校として組織的・計画的に取り組むことが、評価の妥当性、信頼性等
を高めることになる。

②保護者や児童への情報の提供

改善通知では、保護者や児童に対して、学習評価に関する仕組み等
について事前に説明したり、評価結果の説明を充実したりするなどして学
習評価に関する情報をより積極的に提供することも重要とされている。

どのような評価規準、評価方法により評価を行ったのかといった情報
を保護者や児童に分かりやすく説明し、共通理解を図ることが重要とな
る。信頼される評価を行うためには、評価が目的に応じて、保護者や児
童などの関係者の間でおおむね妥当であると判断できるものであること
も重要な意味をもつ。

4 第3編の資料で紹介する評価方法等の事例の特徴

(1) 各教科の事例について

①単元（題材）の評価に関する事例の提示

本資料では、原則として、教科ごとに4事例（体育は6事例）を提示している。

事例の提示に当たっては、以下の5点に留意した。

- 1) 事例1は、1単元（題材）における指導と評価の計画を示しながら、当該教科での各観点の特徴を踏まえた評価の留意点を説明している。
- 2) 「単元（題材）の評価規準」などを示すとともに、それらがどの「評価規準に盛り込むべき事項」や「評価規準の設定例」を参考に設定されたかが分かるようにしている。
- 3) 「指導と評価の計画」の中に、当該単元（題材）において、どのような評価方法を選択し、組み合わせたかが分かるようにするとともに、教科により、必要に応じて、ワークシートや作品などの評価方法として活用したものを資料として提示したり、具体的に工夫した点についての説明を加えたりして、多様な方法を紹介している。
- 4) 「おおむね満足できる」状況、「十分満足できる」状況、「努力を要する」状況と判断した児童の具体的な状況の例などを示している。特に、「十分満足できる」状況という評価になるのは、児童が実現している学習の状況が質的な高まりや深まりをもっているとは判断されるときであるが、それは具体的にはどのような状況であるかを示している。また、「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立てや働きかけを示したり、「努力を要する」状況に至ることのないよう配慮した点を示している。
- 5) 当該単元（題材）において、観点ごとにどのような総括を行ったのかについて、その考え方や具体例などを示している。

②効果的・効率的な評価

ある単元（題材）において、あまりにも多くの評価規準を設定したり、多くの評価方法を組み合わせたりすることは、評価を行うこと自体が大きな負担となり、その結果を後の学習指導の改善に生かすことも十分でなくなるおそれがある。例えば、1単位時間の中で4つの観点全てについて評価規準を設定し、その全てを評価し学習指導の改善に生かしていくことは現実的には困難であると考えられる。教師が無理なく児童の学習状況を的確に評価できるように評価規準を設定し、評価方法を選択することが必要である。

また、評価の実践を踏まえ、必要に応じて評価規準や評価方法について検討し、見直しを行っていくことも効果的である。

本資料では、教科ごとに複数の事例を紹介しているが、効果的・効率的な評価を進める上で参考となるよう以下の3点に配慮した。

- 1) 評価結果を記録する機会を過度に設定することのないよう、各観点で1単元(題材)内で平均すると1単位時間当たり1～2回の評価回数となるよう指導と評価の計画を示した。
- 2) ノートやレポート、ワークシート、作品など、授業後に教師が確認しながら評価を行えるような方法と、授業中の見取りを適切に組み合わせ、全員の学習状況を適切に見取りつつ、それぞれの児童の特性にも配慮した評価方法が採用できるよう配慮した。
- 3) 評価が円滑に実施できていないと教師が捉えている観点をはじめとして、それぞれの観点において、どのような児童の姿や記述等を評価対象とすればよいかを明確に示した。

③総括

観点別学習状況の評価を総括する時期を、単元末、学期末、学年末とした場合、どの段階で、どの評価情報に基づいて総括するかによって、結果に違いが生じることも考えられる。(例えば、学年末に総括する際、単元末の評価結果を年間を通して総括するか、一度学期ごとに総括した評価結果から総括するかで結果が異なる場合もあり得る。)

また、評価情報の蓄積の方法は、次のようなものが考えられる。

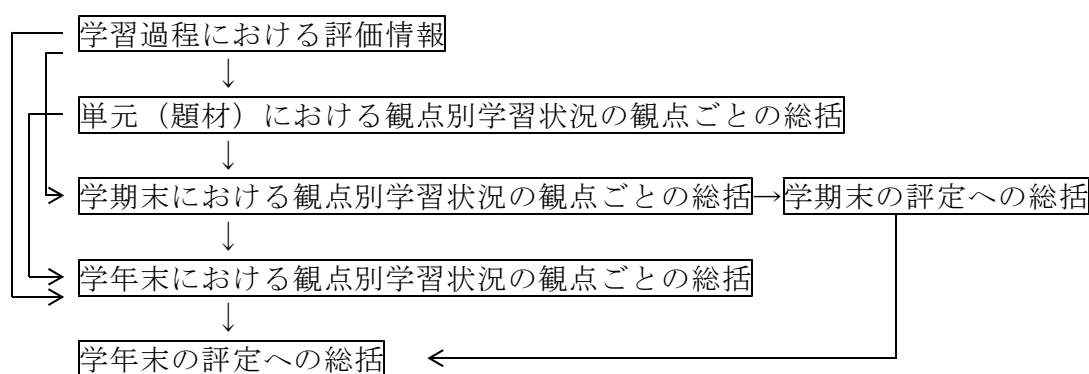
- ・評価のA, B, Cを蓄積する方法

学習活動に即した評価規準を観点ごとに設け、「十分満足できる」状況と判断されるものをA, 「おおむね満足できる」状況と判断されるものをB, 「努力を要する」状況と判断されるものをCなどのようにアルファベットや記号で記録し、その結果を蓄積していく方法で、総括においてはA, B, Cの数を基に判断することになる。

- ・評価を数値で表して蓄積する方法

学習の実現状況を数値で表したものを蓄積していく方法である。例えば、A=3, B=2, C=1というように数値で表し、蓄積する。総括の際は、蓄積した数値の合計点や平均値などを用いることになる。

観点別学習状況の評価の観点ごとの総括の他、評定への総括は、学期末や学年末などに行うことが考えられる。具体的な総括の流れとしては、以下の図に示したように、いくつかの例が考えられる。



1) 観点別学習状況の評価の観点ごとの総括

単元(題材)における観点ごとの総括は、教科ごとに事例の中でも取り上げている。学期末や学年末における観点ごとの評価の総括、評定への総括は、「学習評価の工夫改善に関する調査研究」(平成16年3月、国立教育政策研究所)を基に考え方を示している。

なお、各学校における総括の具体的な考え方や方法等は、これらを参考にしつつ、より一層工夫していくことが必要である。

ア 単元(題材)における観点ごとの評価の総括

単元(題材)においては、学習過程における評価情報を観点ごとに総括する。観点ごとの評価記録が複数ある場合の総括の方法としては、次のようなものが考えられる。

(ア) 評価結果のA, B, Cの数

ある観点でいくつかのまとまりごとに何回か行った評価結果のA, B, Cの数が多いものが、その観点の学習の実現状況を最もよく表しているとする考え方に立つ総括方法である。例えば、3回評価を行った結果が「ABB」ならばBと総括する。なお、「AABB」の総括結果をAとするかBとするかなど、同数の場合や3つの記号が混在する場合の総括の仕方をあらかじめ決めておく必要がある。

(イ) 評価結果のA, B, Cを数値に表す

ある観点でいくつかのまとまりごとに何回か行った評価結果A, B, Cを、例えば、 $A=3$, $B=2$, $C=1$ のように数値によって表して、合計したり、平均したりすることで総括する方法である。例えば、総括の結果をBとする判断の基準を $[1.5 \leq \text{平均値} \leq 2.5]$ とすると、「ABB」の平均値は、約 $2.3[(3+2+2) \div 3]$ で総括結果はBとなる。

このほか、本資料では、観点によって特定の評価機会における結果について重み付けした例なども紹介している。

イ 学期末における観点ごとの評価の総括

学期末における観点ごとの評価の総括は、単元(題材)ごとに総括した観点ごとの評価結果を基に行う場合と、学習過程における評価情報から総括する場合が考えられる。

なお、総括の方法は、ア(ア)及び(イ)と同様であると考えられる。

ウ 学年末における観点ごとの評価の総括

学年末における観点ごとの総括については、学期末に総括した観点ごとの評価結果を基に行う場合と、単元(題材)ごとに総括した観点ごとの評価結果を基に行う場合などが考えられる。

なお、総括の方法は、ア(ア)及び(イ)と同様であると考えられる。

2) 観点別学習状況の評価の評定への総括

評定が学習指導要領に示す各教科の目標に照らして学習の実現状況を総括的に評価するものであるのに対し、観点別学習状況は学習指導要領に示す各教科の目標に照らして学習の実現状況を分析的に評価するものであり、観点別学習状況の評価が評定を行うための基本的な要素となる。

なお、評定への総括の場面は、学期末や学年末などに行われることが多い。学年末に評定へ総括する場合には、学期末に総括した評定の結果を基にする場合と、学年末に観点ごとに総括した評価の結果を基にする場合が考えられる。

観点別学習状況の評価の評定への総括は、各観点の評価結果をA, B, Cの組合せ、又は、A, B, Cを数値で表したものに基づいて総括し、その結果を小学校では3段階で表す。

A, B, Cの組合せから評定に総括する場合、各観点とも同じ評価がそろう場合は、小学校については、「AAAA」であれば3, 「BBBB」であれば2, 「CCCC」であれば1とするのが適当であると考えられる。それ以外の場合は、各観点のA, B, Cの数の組合せから適切に評定する必要がある。

なお、観点別学習状況の評価結果はA, B, Cなどで表されるが、そこで表された学習の実現状況には幅があるため、機械的に評定を算出することは適当ではない場合も予想される。

また、評定は3, 2, 1という数値で表されるが、これを児童の学習の実現状況を3つに分類したものとして捉えるのではなく、常にこの結果の背景にある児童の具体的な学習の実現状況を思い描き、適切に捉えることが大切である。

評定への総括に当たっては、このようなことも十分に検討する必要がある。

そして、評価に対する妥当性、信頼性等を高めるために、各学校では観点別学習状況の評価の観点ごとの総括及び評定への総括の考え方や方法について共通理解を図り、児童及び保護者に十分説明し理解を得ることが大切である。

◎各教科の事例を読むに当たって

□各教科における学習評価

各学校で評価規準を設定する際に、第2編の「評価規準に盛り込むべき事項」や「評価規準の設定例」をどのように活用するか、また、設定する際の留意点等について解説している。

□各教科の事例

事例1は、単元（題材）の目標、単元（題材）の評価規準、指導と評価の計画、観点別評価の進め方、観点別評価の総括の順に記述されており、単元（題材）の評価規準の設定から総括までの一連の流れが分かるようにしている。

事例2～4（体育については6）については、それぞれ説明する内容に沿った項目、配列等になっている。

また、全ての事例にキーワードを付し、各事例で紹介する内容のポイントが分かるようにしている。

さらに、学習指導要領の内容と第2編で示している「評価規準の設定例」等の関連する箇所が分かるようにしている。

教科名 事例△

単元（題材）名

第△学年 ◇内容のまとめり

キーワード

◇は、当該事例で扱う学習指導要領の内容と評価規準の設定例等との関連を確認できるよう、本編で示している内容のまとめりを記しています。

（２）特別活動の事例について

特別活動は、各教科と異なり、全校又は学年を単位として行う活動があり、また、学級担任以外の教師が指導することが多い。

このため、参考資料（特別活動編）においては、学習指導要領に示された各活動・学校行事ごとに工夫 例を交えながら評価の進め方や留意点等について記述している。特に、指導と評価の計画例では、改善通知で示されている評価の観点や、第２編で示している「評価規準に盛り込むべき事項」を活用している。

（３）外国語活動の事例について

学習評価及び指導要録の改善通知では、外国語活動の記録について、「評価の観点を記入した上で、それらの観点到照らして、児童の学習状況に顕著な事項がある場合にその特徴を記入する等、児童にどのような力が身に付いたかを文章で記述する」ことが示されている。また、評価の観点については、設置者は、小学校学習指導要領等示す外国語活動の目標を踏まえ、同通知を参考に設定すること、各学校において観点到追加して記入できるようにすることが示されている。

これを踏まえて、各学校における評価の観点到照らした学習評価の円滑な実施に資するため、本センターでは、小学校外国語活動における評価方法等の工夫に関する調査研究を行い、その成果をとりまとめた。

ここでは、外国語活動の学習評価を行う際の留意点のほかに、「英語ノート」（平成２１～２３年度文部科学省配布）に掲載された指導案に沿った事例や、「英語ノート」に掲載された指導案とは異なる活動に基づく事例を紹介している。

第 2 編

評価規準に盛り込むべき事項等

第2編 評価規準に盛り込むべき事項等

第1 教科目標、評価の観点及びその趣旨等

1 教科目標

心と体を一体としてとらえ、適切な運動の経験と健康・安全についての理解を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てるとともに健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。

2 評価の観点及びその趣旨

学習指導要領を踏まえ、体育科の特性に応じた評価の観点及びその趣旨は以下のとおりである。

運動や健康・安全への 関心・意欲・態度	運動や健康・安全 についての思考・判断	運動の技能	健康・安全についての 知識・理解
運動に進んで取り組むとともに、友達と協力し、安全に気を付けようとする。また、身近な生活における健康・安全について関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとする。	自己の能力に適した課題の解決を目指して、運動の仕方を工夫している。また、身近な生活における健康・安全について、課題の解決を目指して考え、判断し、これらを表している。	運動を楽しく行うための基本的な動きや技能を身に付けている。	身近な生活における健康・安全について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。

3 内容のまとめり

体育科においては、学習指導要領の内容を以下のように内容のまとめりとした。

<運動領域>

- 第1学年及び第2学年：「A 体づくり運動」、「B 器械・器具を使つての運動遊び」、「C 走・跳の運動遊び」、「D 水遊び」、「E ゲーム」、「F 表現リズム遊び」
- 第3学年及び第4学年：「A 体づくり運動」、「B 器械運動」、「C 走・跳の運動」、「D 浮く・泳ぐ運動」、「E ゲーム」、「F 表現運動」
- 第5学年及び第6学年：「A 体づくり運動」、「B 器械運動」、「C 陸上運動」、「D 水泳」、「E ボール運動」、「F 表現運動」

<保健領域>

- 第3学年：「G 保健 (1) 毎日の生活と健康」
- 第4学年：「G 保健 (2) 育ちゆく体とわたし」
- 第5学年：「G 保健 (1) 心の健康」「G 保健 (2) けがの防止」
- 第6学年：「G 保健 (3) 病気の予防」

第2 内容のまとめりごとの評価規準に盛り込むべき事項及び評価規準の設定例

<運動領域>

I 第1学年及び第2学年

1 学年目標

- (1) 簡単なきまりや活動を工夫して各種の運動を楽しくできるようにするとともに、その基本的な動きを身に付け、体力を養う。
- (2) だれとでも仲よくし、健康・安全に留意して意欲的に運動をする態度を育てる。

2 第1学年及び第2学年の評価の観点の趣旨

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
運動に進んで取り組むとともに、だれとでも仲よく、健康・安全に留意しようとする。	運動の仕方を工夫している。	運動を楽しく行うための基本的な動きを身に付けている。

3 学習指導要領の内容、内容のまとまりごとの評価規準に盛り込むべき事項及び評価規準の設定例

(1)「A 体づくり運動」

【学習指導要領の内容】

- (1) 次の運動を行い、体を動かす楽しさや心地よさを味わうとともに、体の基本的な動きができるようにする。
 - ア 体ほぐしの運動では、心と体の変化に気付いたり、体の調子を整えたり、みんなでかかわり合ったりするための手軽な運動や律動的な運動をすること。
 - イ 多様な動きをつくる運動遊びでは、体のバランスをとったり移動をしたりするとともに、用具の操作などを行うこと。
- (2) 運動に進んで取り組み、きまりを守り仲よく運動をしたり、場の安全に気を付けたりすることができるようにする。
- (3) 体づくりのための簡単な運動の行い方を工夫できるようにする。

【「A 体づくり運動」の評価規準に盛り込むべき事項】

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
体づくり運動に進んで取り組むとともに、順番やきまりを守り仲よく運動をしようとしたり、運動をする場の安全に気を付けようとしたりしている。	体づくりのための運動の行い方を工夫している。	多様な動きをつくる運動遊びを楽しく行うための体の基本的な動きや各種の運動の基礎となる動きを身に付けている。

【「A 体づくり運動」の評価規準の設定例】

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動に進んで取り組もうとしている。 ・運動の順番やきまりを守り、友達と仲よく運動をしようとしている。 ・友達と協力して、用具の準備や片付けをしようとしている。 ・運動をする場や用具の使い方などの安全に気を付けようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体ほぐしの運動の行い方を知るとともに、友達と一緒に運動をしたり用具を使って運動をしたりするなど、運動の行い方を選んでいる。 ・多様な動きをつくる運動遊びの行い方を知るとともに、運動をする場や使用する用具などを変えながら、いろいろな運動の仕方を見付けている。 ・多様な動きをつくる運動遊びの動き方を知るとともに、友達のよい動きを見付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な動きをつくる運動遊びでは、体のバランスをとったり移動をしたりする動きや用具を操作したり力試しをしたりする動きができる。

※なお、「体ほぐしの運動」は、技能の習得・向上を直接のねらいとするものではないことから、「運動の技能」の観点から削除している。

(2)「B 器械・器具を使つての運動遊び」

【学習指導要領の内容】

- (1) 次の運動を楽しく行い、その動きができるようにする。
 - ア 固定施設を使った運動遊びでは、登り下りや懸垂移行、渡り歩きや跳び下りをする。
 - イ マットを使った運動遊びでは、いろいろな方向への転がり、手で支えての体の保持や回転をすること。
 - ウ 鉄棒を使った運動遊びでは、支持しての上がり下り、ぶら下がりや易しい回転をすること。
 - エ 跳び箱を使った運動遊びでは、跳び乗りや跳び下り、手を着いてのまたぎ乗りや跳び乗りをすること。
- (2) 運動に進んで取り組み、きまりを守り仲よく運動をしたり、場の安全に気を付けたりすることができるようにする。
- (3) 器械・器具を用いた簡単な遊び方を工夫できるようにする。

【「B 器械・器具を使つての運動遊び」の評価規準に盛り込むべき事項】

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
器械・器具を使つての運動遊びに進んで取り組むとともに、順番やきまりを守り仲よく運動をしようとしたり、運動をする場の安全に気を付けようとしたりしている。	器械・器具を用いた運動遊びの行い方を工夫している。	器械・器具を使つての運動遊びを楽しく行うための基本的な動きや各種の運動の基礎となる動きを身に付けている。

【「B 器械・器具を使つての運動遊び」の評価規準の設定例】

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
<ul style="list-style-type: none"> ・器械・器具を使つての運動遊びに進んで取り組もうとしている。 ・運動の順番やきまりを守り、友達と仲よく運動をしようとしている。 ・友達と協力して、器械・器具の準備や片付けをしようとしている。 ・運動をする場や器械・器具の使い方などの安全に気を付けようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・固定施設や器械・器具を使った運動遊びの行い方を知るとともに、運動をする場や使用する器械・器具などを変えながら、いろいろな運動の仕方を見付けている。 ・器械・器具を使つての運動遊びの動き方を知るとともに、友達のよい動きを見付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・固定施設を使った運動遊びでは、登り下りや懸垂移行、渡り歩きや跳び下りなどができる。 ・マットを使った運動遊びでは、いろいろな方向への転がり、手で支えての体の保持や回転などができる。 ・鉄棒を使った運動遊びでは、支持しての上がり下り、ぶら下がりや易しい回転などができる。 ・跳び箱を使った運動遊びでは、跳び乗りや跳び下り、手を着いてのまたぎ乗りや跳び乗りなどができる。

(3)「C 走・跳の運動遊び」

【学習指導要領の内容】

- (1) 次の運動を楽しく行い、その動きができるようにする。
 - ア 走の運動遊びでは、いろいろな方向に走ったり、低い障害物を走り越えたりすること。
 - イ 跳の運動遊びでは、前方や上方に跳んだり、連続して跳んだりすること。

- (2) 運動に進んで取り組み、きまりを守り仲よく運動をしたり，勝敗を受け入れたり，場の安全に気を付けたりすることができるようにする。
- (3) 走ったり跳んだりする簡単な遊び方を工夫できるようにする。

【「C 走・跳の運動遊び」の評価規準に盛り込むべき事項】

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
走・跳の運動遊びに進んで取り組むとともに，順番やきまりを守り勝敗を受け入れて仲よく運動をしようしたり，運動をする場の安全に気を付けようとしていたりしている。	走ったり，跳んだりする運動遊びの行い方を工夫している。	走・跳の運動遊びを楽しく行うための基本的な動きや各種の運動の基礎となる動きを身に付けている。

【「C 走・跳の運動遊び」の評価規準の設定例】

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
<ul style="list-style-type: none"> ・ 走・跳の運動遊びに進んで取り組もうとしている。 ・ 運動の順番やきまりを守り，勝敗の結果を受け入れて，友達と仲よく運動をしようとしている。 ・ 友達と協力して，用具の準備や片付けをしようとしている。 ・ 運動をする場や用具の使い方などの安全に気を付けようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 走の運動遊びや跳の運動遊びの行い方を知るとともに，運動をする場や使用する用具などを変えながら，いろいろな運動の仕方を見付けたり，競走（争）の仕方を選んだりしている。 ・ 走ったり跳んだりする動き方を知るとともに，友達のよい動きを見付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 走の運動遊びでは，いろいろな方向に走ったり，低い障害物を走り越えたりすることなどができる。 ・ 跳の運動遊びでは，前方や上方に跳んだり，連続して跳んだりすることなどができる。

(4) 「D 水遊び」

【学習指導要領の内容】

- (1) 次の運動を楽しく行い，その動きができるようにする。
- ア 水に慣れる遊びでは，水につかったり移動したりすること。
- イ 浮く・もぐる遊びでは，水に浮いたりもぐったり，水中で息を吐いたりすること。
- (2) 運動に進んで取り組み，仲よく運動をしたり，水遊びの心得を守って安全に気を付けたりすることができるようにする。
- (3) 水中での簡単な遊び方を工夫できるようにする。

【「D 水遊び」の評価規準に盛り込むべき事項】

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
水遊びに進んで取り組むとともに，順番やきまりを守り仲よく運動をしようしたり，水遊びの心得を守って安全に気を付けようとしていたりしている。	水中での運動遊びの行い方を工夫している。	水遊びを楽しく行うための基本的な動きや各種の運動の基礎となる動きを身に付けている。

【「D 水遊び」の評価基準の設定例】

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
<ul style="list-style-type: none"> ・水遊びに進んで取り組もうとしている。 ・運動の順番を守り、友達と仲よく運動をしようとしている。 ・友達と協力して、補助具の準備や片付けをしようとしている。 ・水遊びの心得を守り、安全に気を付けようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水に慣れる遊びや浮く・もぐる遊びの行い方を知るとともに、運動をする場や使用する用具などを変えながら、いろいろな運動の仕方を見付けている。 ・水につかったときの動き方や水に浮いたりもぐったりする動き方を知るとともに、友達のよい動きを見付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水に慣れる遊びでは、水につかったり移動したりすることなどができる。 ・浮く・もぐる遊びでは、水に浮いたりもぐったり、水中で息を吐いたりすることなどができる。

(5)「E ゲーム」

【学習指導要領の内容】

(1) 次の運動を楽しく行い、その動きができるようにする。

ア ボールゲームでは、簡単なボール操作やボールを持たないときの動きによって、的に当てるゲームや攻めと守りのあるゲームをすること。

イ 鬼遊びでは、一定の区域で、逃げる、追いかける、陣地を取り合うなどをすること。

(2) 運動に進んで取り組み、きまりを守り仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、場の安全に気を付けたりすることができるようにする。

(3) 簡単な規則を工夫したり、攻め方を決めたりすることができるようにする。

【「E ゲーム」の評価基準に盛り込むべき事項】

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
<p>ゲームに進んで取り組むとともに、順番やきまりを守り、勝敗を受け入れて仲よく運動をしようとしたり、運動をする場の安全に気を付けようとしたりしている。</p>	<p>簡単なゲームの規則を工夫したり、攻め方を決めたりしている。</p>	<p>ゲームを楽しく行うための簡単なボール操作や動きを身に付けている。</p>

【「E ゲーム」の評価基準の設定例】

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームに進んで取り組もうとしている。 ・運動の順番やきまりを守り、勝敗の結果を受け入れて、友達と仲よく運動をしようとしている。 ・友達と協力して、用具の準備や片付けをしようとしている。 ・ゲームを行う場や用具の使い方などの安全に気を付けようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボールゲームや鬼遊びの行い方を知るとともに、得点の方法などの規則を選んでいる。 ・ボールゲームや鬼遊びの動き方を知るとともに、攻め方を選んだり見付けたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボールゲームでは、的に当てるゲームや攻めと守りのあるゲームにおいて、簡単なボール操作やボールを持たないときの動きができる。 ・鬼遊びでは、一定の区域で、逃げる、追いかける、陣地を取り合うなどの動きができる。

(6)「F 表現リズム遊び」

【学習指導要領の内容】

- (1) 次の運動を楽しく行い、題材になりきったりリズムに乗ったりして踊ることができるようにする。
 - ア 表現遊びでは、身近な題材の特徴をとらえ全身で踊ること。
 - イ リズム遊びでは、軽快なリズムに乗って踊ること。
- (2) 運動に進んで取り組み、だれとでも仲よく踊ったり、場の安全に気を付けたりすることができるようにする。
- (3) 簡単な踊り方を工夫できるようにする。

【「F 表現リズム遊び」の評価規準に盛り込むべき事項】

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
表現リズム遊びに進んで取り組むとともに、だれとでも仲よく踊ろうとしたり、運動をする場の安全に気を付けようとしていたりしている。	簡単な踊り方を工夫している。	題材になりきったりリズムに乗ったりして楽しく踊るための動きや各種の運動の基礎となる動きを身に付けている。

【「F 表現リズム遊び」の評価規準の設定例】

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
<ul style="list-style-type: none"> ・表現リズム遊びに進んで取り組もうとしている。 ・きまりを守り、だれとでも仲よく踊ろうとしている。 ・運動をする場の安全に気を付けようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現遊びやリズム遊びの行い方を知るとともに、動きを広げるためのいろいろな動きを見付けている。 ・題材やリズムの特徴を知るとともに、それに合った動きを選んだり、友達のよい動きを見付けたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現遊びでは、身近な題材の特徴を捉え全身で踊ることができる。 ・リズム遊びでは、軽快なリズムに乗って踊ることができる。

Ⅱ 第3学年及び第4学年

1 学年目標

- (1) 活動を工夫して各種の運動を楽しくできるようにするとともに、その基本的な動きや技能を身に付け、体力を養う。
- (2) 協力、公正などの態度を育てるとともに、健康・安全に留意し、最後まで努力して運動をする態度を育てる。

2 第3学年及び第4学年の評価の観点の趣旨

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
運動に進んで取り組むとともに、きまりを守り互いに協力し、健康・安全に留意しようとする。	自己の能力に適した課題をもち、運動の仕方を工夫している。	運動を楽しく行うための基本的な動きや技能を身に付けている。

3 学習指導要領の内容、内容のまとめりごとの評価規準に盛り込むべき事項及びその設定例

(1)「A 体づくり運動」

【学習指導要領の内容】

- (1) 次の運動を行い、体を動かす楽しさや心地よさを味わうとともに、体の基本的な動きができるようにする。
 - ア 体ほぐしの運動では、心と体の変化に気付いたり、体の調子を整えたり、みんなでかかわり合ったりするための手軽な運動や律動的な運動をすること。
 - イ 多様な動きをつくる運動では、体のバランスや移動、用具の操作などとともに、それらを組み合わせること。
- (2) 運動に進んで取り組み、きまりを守り仲よく運動をしたり、場や用具の安全に気を付けたりすることができるようにする。
- (3) 体づくりのための運動の行い方を工夫できるようにする。

【「A 体づくり運動」の評価規準に盛り込むべき事項】

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
体づくり運動に進んで取り組むとともに、きまりを守り、仲よく運動をしようしたり、運動をする場や用具の安全を確かめようとしていたりしている。	運動のねらいに合った課題をもち、体づくりのための運動の行い方を工夫している。	多様な動きをつくる運動を楽しむ行うための体の基本的な動きやそれらを組み合わせた動き、各種の運動の基礎となるよい動きを身に付けている。

【「A 体づくり運動」の評価規準の設定例】

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動に進んで取り組もうとしている。 ・用具の使い方や運動の行い方のきまりを守り、友達と励まし合って運動をしようとしている。 ・友達と協力して、用具の準備や片付けをしようとしている。 ・運動する場や用具の使い方などの安全を確かめようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体ほぐしの運動の行い方を知るとともに、友達と一緒に運動をしたり用具を使って運動をしたりするなど、運動の行い方を選んでいる。 ・多様な動きをつくる運動の行い方を知るとともに、友達のよい動きを見付け自分の運動に取り入れたり、動きの組み合わせ方を選んだりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な動きをつくる運動では、体のバランスや移動、用具の操作、力試しの動きとともに、それらを組み合わせた動きができる。

※なお、「体ほぐしの運動」は、技能の習得・向上を直接のねらいとするものではないことから、「運動の技能」の観点から削除している。

(2)「B 器械運動」

【学習指導要領の内容】

- (1) 次の運動の楽しさや喜びに触れ、その技ができるようにする。
 - ア マット運動では、基本的な回転技や倒立技をすること。
 - イ 鉄棒運動では、基本的な上がり技や支持回転技、下り技をすること。
 - ウ 跳び箱運動では、基本的な支持跳び越し技をすること。
- (2) 運動に進んで取り組み、きまりを守り仲よく運動をしたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすることができるようにする。
- (3) 自己の能力に適した課題をもち、技ができるようにするための活動を工夫できるようにする。

【「B 器械運動」の評価規準に盛り込むべき事項】

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
器械運動の楽しさや喜びに触れることができるよう、進んで取り組むとともに、きまりを守り、仲よく運動をしようとしたり、運動する場や器械・器具の安全を確かめようとしたりしている。	自分の力に合った課題をもち、技ができるようにするための運動の行い方を工夫している。	器械運動の基本的な技を身に付けている。

【「B 器械運動」の評価規準の設定例】

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
<ul style="list-style-type: none"> ・技ができる楽しさや喜びに触れることができるよう、器械運動に進んで取り組もうとしている。 ・器械・器具の使い方や運動の行い方のきまりを守り、友達と励まし合って運動をしようとしている。 ・友達と協力して、器械・器具の準備や片付けをしようとしている。 ・運動する場や器械・器具の使い方などの安全を確かめようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な技の動き方や技のポイントを知るとともに、自分の力に合った課題を選んでいる。 ・基本的な技の練習の仕方を知るとともに、自分の力に合った練習方法や練習の場を選んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マット運動では、自分の力に合った基本的な回転技や倒立技ができる。 ・鉄棒運動では、自分の力に合った基本的な上がり技や支持回転技、下り技ができる。 ・跳び箱運動では、自分の力に合った基本的な支持跳び越し技ができる。

(3) 「C 走・跳の運動」

【学習指導要領の内容】

- (1) 次の運動を楽しく行い、その動きができるようにする。
 - ア かけっこ・リレーでは、調子よく走ること。
 - イ 小型ハードル走では、小型ハードルを調子よく走り越えること。
 - ウ 幅跳びでは、短い助走から踏み切って跳ぶこと。
 - エ 高跳びでは、短い助走から踏み切って跳ぶこと。
- (2) 運動に進んで取り組み、きまりを守り仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、場や用具の安全に気を付けたりすることができるようにする。
- (3) 自己の能力に適した課題をもち、動きを身に付けるための活動や競争の仕方を工夫できるようにする。

【「C 走・跳の運動」の評価規準に盛り込むべき事項】

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
走・跳の運動に進んで取り組むとともに、きまりを守り勝敗を受け入れて仲よく運動をしようとしたり、運動する場や用具の安全を確かめようとしたりしている。	自分の力に合った課題をもち、動きを身に付けるための運動の行い方や競走（争）の仕方を工夫している。	走・跳の運動を楽しく行うための基本的な動きや各種の運動の基礎となるよい動きを身に付けている。

【「C 走・跳の運動」の評価規準の設定例】

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
<ul style="list-style-type: none"> ・走・跳の運動に進んで取り組もうとしている。 ・運動の行い方のきまりを守り、友達と励まし合って練習や競走（争）をしようとしたり、勝敗の結果を受け入れようとしたりしている。 ・友達と協力して、用具の準備や片付けをしようとしている。 ・運動する場や用具の使い方などの安全を確かめようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・走の運動や跳の運動の動き方や動きのポイントを知るとともに、自分の力に合った課題を選んでいる。 ・走の運動や跳の運動の動きを身に付けるための練習の仕方を知るとともに、自分の力に合った練習方法や練習の場を選んでいる。 ・仲間との競走（争）の仕方を知るとともに、競走（争）の規則を選んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・かけっこ・リレーでは、調子よく走ることができる。 ・小型ハードル走では、小型ハードルを調子よく走り越えることができる。 ・幅跳びでは、短い助走から調子よく踏み切って遠くへ跳ぶことができる。 ・高跳びでは、短い助走から調子よく踏み切って高く跳ぶことができる。

(4) 「D 浮く・泳ぐ運動」

【学習指導要領の内容】

- (1) 次の運動を楽しく行い、その動きができるようにする。
 - ア 浮く運動では、いろいろな浮き方やけ伸びをすること。
 - イ 泳ぐ運動では、補助具を使つてのキックやストローク、呼吸をしながらの初歩的な泳ぎをすること。
- (2) 運動に進んで取り組み、仲よく運動をしたり、浮く・泳ぐ運動の心得を守って安全に気を付けたりすることができるようにする。
- (3) 自己の能力に適した課題をもち、動きを身に付けるための活動を工夫できるようにする。

【「D 浮く・泳ぐ運動」の評価規準に盛り込むべき事項】

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
浮く・泳ぐ運動に進んで取り組むとともに、仲よく運動をしようとしたり、水泳の心得を守って安全を確かめようとしたりしている。	自分の力に合った課題をもち、動きを身に付けるための運動の行い方を工夫している。	浮く・泳ぐ運動を楽しく行うための基本的な動きや各種の運動の基礎となるよい動きを身に付けている。

【「D 浮く・泳ぐ運動」の評価規準の設定例】

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
<ul style="list-style-type: none"> ・浮く・泳ぐ運動に進んで取り組もうとしている。 ・友達と励まし合ったり、補助し合ったりして練習をしようとしている。 ・友達と協力して、補助具などの準備や片付けをしようとしている。 ・浮く・泳ぐ運動の心得を守り、安全を確かめようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・浮く運動や泳ぐ運動の動き方や動きのポイントを知るとともに、自分の力に合った課題を選んでいる。 ・浮く運動や泳ぐ運動の動きを身に付けるための練習の仕方を知るとともに、自分の力に合った練習方法や練習の場を選んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・浮く運動では、いろいろな浮き方やけ伸びをすることができる。 ・泳ぐ運動では、補助具を使つてのキックやストローク、呼吸をしながらの初歩的な泳ぎができる。

(5)「E ゲーム」

【学習指導要領の内容】

(1) 次の運動を楽しく行い、その動きができるようにする。

ア ゴール型ゲームでは、基本的なボール操作やボールを持たない時の動きによって、易しいゲームをすること。

イ ネット型ゲームでは、ラリーを続けたり、ボールをつないだりして易しいゲームをすること。

ウ ベースボール型ゲームでは、蹴る、打つ、捕る、投げるなどの動きによって、易しいゲームをすること。

(2) 運動に進んで取り組み、規則を守り仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、場や用具の安全に気を付けたりすることができるようにする。

(3) 規則を工夫したり、ゲームの型に応じた簡単な作戦を立てたりすることができるようにする。

【「E ゲーム」の評価規準に盛り込むべき事項】

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
ゲームに進んで取り組むとともに、規則を守り勝敗を受け入れて仲よく運動しようとしたり、運動する場や用具の安全を確かめようとしたりしている。	規則を工夫したり、ゲームの型に応じた簡単な作戦を立てたりしている。	易しいゲームを楽しく行うための基本的なボール操作や簡単な動きを身に付けている。

【「E ゲーム」の評価規準の設定例】

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームに進んで取り組もうとしている。 ・規則を守り、友達と励まし合って練習やゲームをしようとしたり、勝敗の結果を受け入れようとしたりしている。 ・友達と協力して、用具の準備や片付けをしようとしている。 ・ゲームを行う場や用具の使い方などの安全を確かめようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴール型ゲームやネット型ゲーム、ベースボール型ゲームの行い方を知るとともに、易しいゲームを行うためのゲームの規則を選んでいる。 ・ゲームの型の特徴に合った攻め方を知るとともに、簡単な作戦を立てている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴール型ゲームでは、易しいゲームにおいて、基本的なボール操作やボールを持たない時の動きができる。 ・ネット型ゲームでは、易しいゲームにおいて、ラリーを続けたり、ボールをつないだりするための動きができる。 ・ベースボール型ゲームでは、易しいゲームにおいて、蹴る、打つ、捕る、投げるなどの動きができる。

(6)「F 表現運動」

【学習指導要領の内容】

(1) 次の運動の楽しさや喜びに触れ、表したい感じを表現したりリズムの特徴をとらえたりして踊ることができるようにする。

ア 表現では、身近な生活などの題材からその主な特徴をとらえ、対比する動きを組み合わせたり繰り返したりして踊ること。

イ リズムダンスでは、軽快なリズムに乗って全身で踊ること。

(2) 運動に進んで取り組み、だれとでも仲よく練習や発表をしたり、場の安全に気を付けたりすることができるようにする。

(3) 自己の能力に適した課題を見付け、練習や発表の仕方を工夫できるようにする。

【「F 表現運動」の評価規準に盛り込むべき事項】

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
表現運動の楽しさや喜びに触れることができるよう、進んで取り組むとともに、だれとでも仲よく運動をしようとしたり、運動する場の安全を確かめようとしたりしている。	自分の力に合った課題をもち、練習や発表の仕方を工夫している。	表したい感じを表現したりリズムの特徴を捉えたりして踊るための動きを身に付けている。

【「F 表現運動」の評価規準の設定例】

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
<ul style="list-style-type: none"> ・表したい感じを表現したりリズムの特徴を捉えたりして踊る楽しさや喜びに触れることができるよう、表現運動に進んで取り組もうとしている。 ・運動の行い方のきまりを守り、友達と励まし合って練習や発表、交流をしようとしている。 ・運動する場の安全を確かめようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現やリズムダンスの動きのポイントを知るとともに、自分に合った課題や題材を選んでいる。 ・よい動きを知るとともに、友達のよい動きを自分の踊りに取り入れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現では、身近な生活などの題材からその主な特徴をとらえ、対比する動きを組み合わせたり繰り返したりして踊ることができる。 ・リズムダンスでは、軽快なリズムに乗って全身で踊ることができる。

Ⅲ 第5学年及び第6学年

1 学年目標

- (1) 活動を工夫して各種の運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにするとともに、その特性に応じた基本的な技能を身に付け、体力を高める。
- (2) 協力、公正などの態度を育てるとともに、健康・安全に留意し、自己の最善を尽くして運動をする態度を育てる。

2 第5学年及び第6学年の評価の観点の趣旨

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、進んで運動に取り組むとともに、協力、公正などの態度を身に付け、健康・安全に留意しようとする。	自己の能力に適した課題の解決の仕方や運動の取り組み方を工夫している。	運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。

3 学習指導要領の内容、内容のまとまりごとの評価規準に盛り込むべき事項及び評価規準の設定例

(1) 「A 体づくり運動」

【学習指導要領の内容】

- (1) 次の運動を行い、体を動かす楽しさや心地よさを味わうとともに、体力を高めることができるようにする。

- ア 体ほぐしの運動では、心と体の関係に気付いたり、体の調子を整えたり、仲間と交流したりするための手軽な運動や律動的な運動をすること。
- イ 体力を高める運動では、ねらいに応じて、体の柔らかさ及び巧みな動きを高めるための運動、力強い動き及び動きを持続する能力を高めるための運動をすること。
- (2) 運動に進んで取り組み、助け合って運動をしたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。
- (3) 自己の体の状態や体力に応じて、運動の行い方を工夫できるようにする。

【「A 体づくり運動」の評価規準に盛り込むべき事項】

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
体を動かす楽しさや心地よさを味わったり、体力を高めたりすることができるよう、進んで取り組むとともに、約束を守り助け合って運動をしようとしていたり、運動する場や用具の安全に気を配ろうとしていたりしている。	自分の体の状態や体力に応じて、運動の行い方を工夫している。	体力を高める運動について、ねらいに合った動き（動作）を身に付けている。

【「A 体づくり運動」の評価規準の設定例】

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かす楽しさや心地よさを味わったり、自分の体力に応じて体力を高めたりすることができるよう、体づくり運動に進んで取り組もうとしている。 ・約束を守り、仲間と助け合って運動をしようとしている。 ・用具の準備や片付けで、分担された役割を果たそうとしている。 ・運動する場を整備したり、用具の安全を保持したりすることに気を配ろうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体ほぐしの運動のねらいを知るとともに、ねらいに応じた運動の行い方を選んでいる。 ・体力を高める運動のねらいや行い方を知るとともに、自分の体力に合った運動の行い方を選んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体力を高める運動では、体の柔らかさ及び巧みな動きを高めるための運動、力強い動き及び動きを持続する能力を高めるための運動のねらいに合った動きができる。

※なお、「体ほぐしの運動」は、技能の習得・向上を直接のねらいとするものではないことから、「運動の技能」の観点から削除している。

(2) 「B 器械運動」

【学習指導要領の内容】

- (1) 次の運動の楽しさや喜びに触れ、その技ができるようにする。
- ア マット運動では、基本的な回転技や倒立技を安定して行うとともに、その発展技を行ったり、それらを繰り返したり組み合わせたりすること。
- イ 鉄棒運動では、基本的な上がり技や支持回転技、下り技を安定して行うとともに、その発展技を行ったり、それらを繰り返したり組み合わせたりすること。
- ウ 跳び箱運動では、基本的な支持跳び越し技を安定して行うとともに、その発展技を行うこと。
- (2) 運動に進んで取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、場や器械・器具の安全に気を配ったりすることができるようにする。
- (3) 自己の能力に適した課題の解決の仕方や技の組み合わせ方を工夫できるようにする。

【「B 器械運動」の評価規準に盛り込むべき事項】

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
器械運動の楽しさや喜びに触れることができるよう、進んで取り組むとともに、約束を守り助け合って運動をしようしたり、運動する場や器械・器具の安全に気を配ろうとしたりしている。	自分の力に合った課題の解決を目指して、練習の仕方や技の組み合わせ方を工夫している。	マット運動、鉄棒運動、跳び箱運動について、安定した基本的な技やその発展技を身に付けている。

【「B 器械運動」の評価規準の設定例】

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
<ul style="list-style-type: none"> ・技を高めたり、組み合わせたりする楽しさや喜びに触れることができるよう、器械運動に進んで取り組もうとしている。 ・約束を守り、友達と助け合って技の練習をしようとしている。 ・器械・器具の準備や片付けで、分担された役割を果たそうとしている。 ・運動する場を整備したり、器械・器具の安全を保持したりすることに気を配ろうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の解決の仕方を知るとともに、自分の課題に合った練習の場や方法を選んでいる。 ・技をつなぐ方法を知るとともに、自分の力に合った技を組み合わせている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マット運動では、繰り返したり組み合わせたりするための自分の力に合った安定した基本的な回転技や倒立技、及びその発展技ができる。 ・鉄棒運動では、繰り返したり組み合わせたりするための自分の力に合った安定した基本的な上がり技や支持回転技、下り技、及びその発展技ができる。 ・跳び箱運動では、自分の力に合った安定した基本的な支持跳び越し技、及びその発展技ができる。

(3) 「C 陸上運動」

【学習指導要領の内容】

- (1) 次の運動の楽しさや喜びに触れ、その技能を身に付けることができるようにする。
 - ア 短距離走・リレーでは、一定の距離を全力で走ること。
 - イ ハードル走では、ハードルをリズムカルに走り越えること。
 - ウ 走り幅跳びでは、リズムカルな助走から踏み切って跳ぶこと。
 - エ 走り高跳びでは、リズムカルな助走から踏み切って跳ぶこと。
- (2) 運動に進んで取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。
- (3) 自己の能力に適した課題の解決の仕方、競争や記録への挑戦の仕方を工夫できるようにする。

【「C 陸上運動」の評価規準に盛り込むべき事項】

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
陸上運動の楽しさや喜びに触れることができるよう、進んで取り組むとともに、約束を守り助け合って運動をしようしたり、運動する場や用具の安全に気を配ろうとしたりしている。	自分の力に合った課題の解決を目指して、練習や競走（争）の仕方、記録への挑戦の仕方を工夫している。	短距離走・リレー、ハードル走、走り幅跳び、走り高跳びについて、競走（争）したり、記録を高めたりするための基本的な技能を身に付けている。

【「C 陸上運動」の評価規準の設定例】

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
<ul style="list-style-type: none"> ・競争したり，目標記録に挑戦したりする楽しさや喜びに触れることができるよう，陸上運動に進んで取り組もうとしている。 ・約束を守り，友達と助け合って練習や競走（争）をしようとしている。 ・用具の準備や片付け，計測や記録などで，分担された役割を果たそうとしている。 ・運動する場を整備したり，用具の安全を保持したりすることに気を配ろうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の解決の仕方を知るとともに，自分の課題に合った練習の場や方法を選んでいる。 ・仲間との競走（争）や自分の記録への挑戦の仕方を知るとともに，自分の力に合った競走（争）のルールや記録への挑戦の仕方を選んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・短距離走・リレーでは，一定の距離を全力で走ることができる。 ・ハードル走では，ハードルをリズムカルに走り越えることができる。 ・走り幅跳びでは，リズムカルな助走から踏み切って跳ぶことができる。 ・走り高跳びでは，リズムカルな助走から踏み切って跳ぶことができる。

(4)「D 水泳」

【学習指導要領の内容】

- (1) 次の運動の楽しさや喜びに触れ，その技能を身に付けることができるようにする。
 - ア クロールでは，続けて長く泳ぐこと。
 - イ 平泳ぎでは，続けて長く泳ぐこと。
- (2) 運動に進んで取り組み，助け合っ水泳をしたり，水泳の心得を守って安全に気を配ったりすることができるようにする。
- (3) 自己の能力に適した課題の解決の仕方や記録への挑戦の仕方を工夫できるようにする。

【「D 水泳」の評価規準に盛り込むべき事項】

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
水泳の楽しさや喜びに触れることができるよう，進んで取り組むとともに，友達と助け合っ水泳をしようしたり，水泳の心得を守って安全に気を配ろうしたりしている。	自分の力に合った課題の解決を目指して，練習の仕方や記録への挑戦の仕方を工夫している。	クロール，平泳ぎについて，続けて長く泳ぐための基本的な技能を身に付けている。

【「D 水泳」の評価規準の設定例】

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
<ul style="list-style-type: none"> ・続けて長く泳ぐ楽しさや喜びに触れることができるよう，水泳に進んで取り組もうとしている。 ・友達と助け合いながら協力して練習をしようとしている。 ・補助具の準備や片付けなど，分担された役割を果たそうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の解決の仕方を知るとともに，自分の課題に合った練習の場や方法を選んでいる。 ・記録への挑戦の仕方を知るとともに，自分の力に合った距離や記録への挑戦の仕方を選んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クロールでは，手と足の動きに呼吸を合わせながら，続けて長く泳ぐことができる。 ・平泳ぎでは，手と足の動きに呼吸を合わせながら，続けて長く泳ぐことができる。

・体の調子を確認してから泳ぐなど水泳の心得を守り、安全を保持することに気を配ろうとしている。		
--	--	--

(5)「E ボール運動」

【学習指導要領の内容】

- (1) 次の運動の楽しさや喜びに触れ、その技能を身に付けることができるようにする。
 - ア ゴール型では、簡易化されたゲームで、ボール操作やボールを受けるための動きによって、攻防をすること。
 - イ ネット型では、簡易化されたゲームで、チームの連係による攻撃や守備によって、攻防をすること。
 - ウ ベースボール型では、簡易化されたゲームで、ボールを打ち返す攻撃や隊形をとった守備によって、攻防をすること。
- (2) 運動に進んで取り組み、ルールを守り助け合って運動をしたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。
- (3) ルールを工夫したり、自分のチームの特徴に応じた作戦を立てたりすることができるようにする。

【「E ボール運動」の評価規準に盛り込むべき事項】

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
ボール運動の楽しさや喜びに触れることができるよう、進んで取り組むとともに、ルールを守り助け合って運動をしようとしていたり、運動する場や用具の安全に気を配ろうとしていたりしている。	ルールを工夫したり、自分のチームの特徴に合った作戦を立てたりしている。	ゴール型、ネット型、ベースボール型について、簡易化されたゲームで攻防をするためのボール操作やボールを持たないときの動きを身に付けている。

【「E ボール運動」の評価規準の設定例】

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
<ul style="list-style-type: none"> ・集団対集団で競い合う楽しさや喜びに触れることができるよう、ボール運動に進んで取り組もうとしている。 ・ルールやマナーを守り、友達と助け合って練習やゲームをしようとしている。 ・用具の準備や片付けで、分担された役割を果たそうとしている。 ・運動をする場を整備したり、用具の安全を保持したりすることに気を配ろうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴール型やネット型、ベースボール型のゲームの行い方を知るとともに、簡易化されたゲームを行うためのルールを選んでいる。 ・チームの特徴に応じた攻め方を知るとともに、自分のチームの特徴に合った作戦を立てている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴール型では、簡易化されたゲームで、攻守が入り交じった攻防をするためのボール操作やボールを受けるための動きができる。 ・ネット型では、簡易化されたゲームで、チームの連係による攻撃や守備をするための動きができる。 ・ベースボール型では、簡易化されたゲームで、ボールを打ち返す攻撃や隊形をとった守備をするための動きができる。

(6)「F 表現運動」

【学習指導要領の内容】

- (1) 次の運動の楽しさや喜びに触れ、表したい感じを表現したり踊りの特徴をとらえたりして踊ることができるようにする。

ア 表現では、いろいろな題材から表したいイメージをとらえ、即興的な表現や簡単なひとまとまりの表現で踊ること。

イ フォークダンスでは、踊り方の特徴をとらえ、音楽に合わせて簡単なステップや動きで踊ること。

(2) 運動に進んで取り組み、互いのよさを認め合い助け合って練習や発表をしたり、場の安全に気を配ったりすることができるようにする。

(3) 自分やグループの課題の解決に向けて、練習や発表の仕方を工夫できるようにする。

【「F 表現運動」の評価規準に盛り込むべき事項】

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
表現運動の楽しさや喜びに触れることができるよう、進んで取り組むとともに、互いのよさを認め合い助け合って練習や発表をしようとしたり、運動する場の安全に気を配ろうとしたりしている。	自分やグループの課題の解決を目指して、練習や発表の仕方を工夫している。	表現やフォークダンスについて、表したい感じを表現したり踊りの特徴を捉えたりして踊るための動きを身に付けている。

【「F 表現運動」の評価規準の設定例】

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
<ul style="list-style-type: none"> ・ 表したい感じを表現したり踊りの特徴を捉えたりして踊る楽しさや喜びに触れることができるよう、表現運動に進んで取り組もうとしている。 ・ 約束を守り、友達と助け合って練習や発表、交流をしようとしている。 ・ 運動をする場の安全を保持することに気を配ろうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題の解決の仕方を知るとともに、自分やグループの課題に応じた動きを選んだり、構成を変えたりしている。 ・ 自分やグループのよさを知るとともに、練習や発表会、交流会で自分やグループのよさを生かす動きを見付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 表現では、いろいろな題材から表したいイメージを捉え、即興的な表現や簡単なひとまとまりの表現で踊ることができる。 ・ フォークダンスでは、踊り方の特徴を捉え、音楽に合わせて簡単なステップや動きで踊ることができる。

<保健領域>

I 第3学年

1 学年目標

- (1) 健康な生活について理解できるようにし、身近な生活において健康で安全な生活を営む資質や能力を育てる。

2 第3学年の評価の観点の趣旨

健康・安全への 関心・意欲・態度	健康・安全についての 思考・判断	健康・安全についての 知識・理解
健康な生活について関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとする。	健康な生活について、課題の解決を目指して実践的に考え、判断し、それらを表している。	健康な生活について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。

3 学習指導要領の内容、内容のまとまりごとの評価規準に盛り込むべき事項及び評価規準の設定例

「G 保健 (1) 毎日の生活と健康」

【学習指導要領の内容】

- (1) 健康の大切さを認識するとともに、健康によい生活について理解できるようにする。
- ア 心や体の調子がよいなどの健康の状態は、主体の要因や周囲の環境の要因がかかわっていること。
- イ 毎日を健康に過ごすには、食事、運動、休養及び睡眠の調和のとれた生活を続けること、また、体の清潔を保つことなどが必要であること。
- ウ 毎日を健康に過ごすには、明るさの調節、換気などの生活環境を整えることなどが必要であること。

【「G 保健 (1) 毎日の生活と健康」の評価規準に盛り込むべき事項】

健康・安全への 関心・意欲・態度	健康・安全についての 思考・判断	健康・安全についての 知識・理解
健康な生活について関心をもち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	健康な生活について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、実践的に考え、判断し、それらを表している。	健康の状態、1日の生活の仕方、身の回りの環境について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。

【「G 保健 (1) 毎日の生活と健康」の評価規準の設定例】

健康・安全への 関心・意欲・態度	健康・安全についての 思考・判断	健康・安全についての 知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 健康な生活について、教科書や資料などを見たり、自分の生活を振り返ったりするなどの学習活動に進んで取り組もうとしている。 健康な生活について、課題の解決に向けての話し合いや発表などの学習活動に進んで取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康な生活について、教科書や資料などを基に、課題や解決の方法を見付けたり、選んだりするなどして、それらを説明している。 健康な生活について、学習したことを自分の生活と比べたり、関係を見付けたりするなどして、それらを説明している。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康の状態は、主体の要因や周囲の環境の要因がかかわっていることについて理解したことを言ったり、書いたりしている。 1日の生活の仕方について理解したことを言ったり、書いたりしている。 身の回りの環境について理解

	る。	したことを言ったり，書いたりしている。
--	----	---------------------

Ⅱ 第4学年

1 学年目標

- (1) 体の発育・発達について理解できるようにし，身近な生活において健康で安全な生活を営む資質や能力を育てる。

2 第4学年の評価の観点の趣旨

健康・安全への 関心・意欲・態度	健康・安全についての 思考・判断	健康・安全についての 知識・理解
体の発育・発達について関心をもち，意欲的に学習に取り組もうとする。	体の発育・発達について，課題の解決を目指して実践的に考え，判断し，それらを表している。	体の発育・発達について，課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。

3 学習指導要領の内容，内容のまとまりごとの評価規準に盛り込むべき事項及び評価規準の設定例

「G 保健 (2) 育ちゆく体とわたし」

【学習指導要領の内容】

- (2) 体の発育・発達について理解できるようにする。

ア 体は，年齢に伴って変化すること。また，体の発育・発達には，個人差があること。

イ 体は，思春期になると次第に大人の体に近づき，体つきが変わったり，初経，精通などが起こったりすること。また，異性への関心が芽生えること。

ウ 体をよりよく発育・発達させるには，調和のとれた食事，適切な運動，休養及び睡眠が必要であること。

【「G 保健 (2) 育ちゆく体とわたし」の評価規準に盛り込むべき事項】

健康・安全への 関心・意欲・態度	健康・安全についての 思考・判断	健康・安全についての 知識・理解
体の発育・発達について関心をもち，学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	体の発育・発達について，課題の解決を目指して，知識を活用した学習活動などにより，実践的に考え，判断し，それらを表している。	体の年齢に伴う変化や個人差，思春期の体の変化，よりよく発育・発達させるための生活について，課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。

【「G 保健 (2) 育ちゆく体とわたし」の評価規準の設定例】

健康・安全への 関心・意欲・態度	健康・安全についての 思考・判断	健康・安全についての 知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・体の発育・発達について，教科書や資料などを見たり，自分の生活を振り返ったりするなどの学習活動に進んで取り組もうとしている。 ・体の発育・発達について，課題の解決に向けての話し合いや発表などの学習活動に進んで 	<ul style="list-style-type: none"> ・体の発育・発達について，教科書や友達の話などを基に，課題や解決の方法を見付けたり，選んだりするなどして，それらを説明している。 ・体の発育・発達について，学習したことを自分の成長や生活と比べたり，関係を見付け 	<ul style="list-style-type: none"> ・体の年齢に伴う変化や個人差について理解したことを言ったり，書いたりしている。 ・思春期の体の変化について理解したことを言ったり，書いたりしている。 ・体をよりよく発育・発達させるための生活について理解し

取り組もうとしている。	たりするなどして、それらを説明している。	たことを言ったり、書いたりしている。
-------------	----------------------	--------------------

Ⅲ 第5学年

1 学年目標

- (1) 心の健康について理解できるようにし、身近な生活において健康で安全な生活を営む資質や能力を育てる。
- (2) けがの防止について理解できるようにし、身近な生活において健康で安全な生活を営む資質や能力を育てる。

2 第5学年の評価の観点の趣旨

健康・安全への 関心・意欲・態度	健康・安全についての 思考・判断	健康・安全についての 知識・理解
心の健康やけがの防止について関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。	心の健康やけがの防止について、課題の解決を目指して実践的に考え、判断し、それらを表している。	心の健康やけがの防止について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。

3 学習指導要領の内容、内容のまとめりとごとの評価規準に盛り込むべき事項及び評価規準の設定例

「G 保健 (1) 心の健康」

【学習指導要領の内容】

- (1) 心の発達及び不安、悩みへの対処について理解できるようにする。
 - ア 心は、いろいろな生活経験を通して、年齢に伴って発達すること。
 - イ 心と体は、相互に影響し合うこと。
 - ウ 不安や悩みへの対処には、大人や友達に相談する、仲間と遊ぶ、運動をするなどいろいろな方法があること。

【「G 保健 (1) 心の健康」の評価規準に盛り込むべき事項】

健康・安全への 関心・意欲・態度	健康・安全についての 思考・判断	健康・安全についての 知識・理解
心の健康について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	心の健康について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、実践的に考え、判断し、それらを表している。	心の発達、心と体の相互の影響、不安や悩みへの対処について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。

【「G 保健 (1) 心の健康」の評価規準の設定例】

健康・安全への 関心・意欲・態度	健康・安全についての 思考・判断	健康・安全についての 知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 心の健康について、教科書や資料などを見たり、自分の生活を振り返ったりするなどの学習活動に進んで取り組もうとしている。 心の健康について、課題の解 	<ul style="list-style-type: none"> 心の健康について、教科書や友達の話などを基に、課題や解決の方法を見付けたり、選んだりするなどして、それらを説明している。 心の健康について、学習した 	<ul style="list-style-type: none"> 心の発達について理解したことを言ったり、書いたりしている。 心と体の相互の影響について理解したことを言ったり、書いたりしている。

決に向けての話し合いや発表などの学習活動に進んで取り組もうとしている。	ことを自分の生活と比べたり、関係を見付けたりするなどして、それらを説明している。	・不安や悩みへの対処について理解したことを言ったり、書いたりしている。
-------------------------------------	--	-------------------------------------

「G 保健 (2) けがの防止」

【学習指導要領の内容】

(2) けがの防止について理解するとともに、けがなどの簡単な手当ができるようにする。

ア 交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがの防止には、周囲の危険に気付くこと、的確な判断の下に安全に行動すること、環境を安全に整えることが必要であること。

イ けがの簡単な手当は、速やかに行う必要があること。

【「G 保健 (2) けがの防止」の評価規準に盛り込むべき事項】

健康・安全への 関心・意欲・態度	健康・安全についての 思考・判断	健康・安全についての 知識・理解
けがの防止について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	けがの防止について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、実践的に考え、判断し、それらを表している。	交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがの防止、けがの手当について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。

【「G 保健 (2) けがの防止」の評価規準の設定例】

健康・安全への 関心・意欲・態度	健康・安全についての 思考・判断	健康・安全についての 知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・けがの防止について、教科書や資料などを見たり、自分の生活を振り返ったりするなど学習活動に進んで取り組もうとしている。 ・けがの防止について、課題の解決に向けての話し合いや発表などの学習活動に進んで取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・けがの防止について、教科書や資料を基に、課題や解決の方法を見付けたり、選んだりするなどして、それらを説明している。 ・けがの防止について、学習したことを自分の生活と比べたり、関係を見付けたりするなどして、それらを説明している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがとその防止について理解したことを言ったり、書いたりしている。 ・けがの手当について理解したことを言ったり、書いたりしている。

IV 第6学年

1 学年目標

(1) 病気の予防について理解できるようにし、身近な生活において健康で安全な生活を営む資質や能力を育てる。

2 第6学年の評価の観点の趣旨

健康・安全への 関心・意欲・態度	健康・安全についての 思考・判断	健康・安全についての 知識・理解
病気の予防について関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。	病気の予防について、課題の解決を目指して実践的に考え、判断し、それらを表している。	病気の予防について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。

3 学習指導要領の内容、内容のまとまりごとの評価規準に盛り込むべき事項及び評価規準の設定例

「G 保健 (3) 病気の予防」

【学習指導要領の内容】

(3) 病気の予防について理解できるようにする。

ア 病気は、病原体、体の抵抗力、生活行動、環境がかかわりあって起こること。

イ 病原体が主な要因となって起こる病気の予防には、病原体が体に入るのを防ぐことや病原体に対する体の抵抗力を高めることが必要であること。

ウ 生活習慣病など生活行動が主な要因となって起こる病気の予防には、栄養の偏りのない食事をとること、口腔の衛生を保つことなど、望ましい生活習慣を身に付ける必要があること。

エ 喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、健康を損なう原因となること。

オ 地域では、保健にかかわる様々な活動が行われていること。

【「G 保健 (3) 病気の予防」の評価規準に盛り込むべき事項】

健康・安全への 関心・意欲・態度	健康・安全についての 思考・判断	健康・安全についての 知識・理解
病気の予防について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	病気の予防について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、実践的に考え、判断し、それらを表している。	病気の起こり方とその予防の方法、地域の保健活動について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。

【「G 保健 (3) 病気の予防」の評価規準の設定例】

健康・安全への 関心・意欲・態度	健康・安全についての 思考・判断	健康・安全についての 知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・病気の予防について、教科書や資料などを見たり、自分の生活を振り返ったりするなどの学習活動に進んで取り組もうとしている。 ・病気の予防について、課題の解決に向けての話し合いや発表などの学習活動に進んで取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・病気の予防について、教科書や調べたことを基に、課題や解決の方法を見付けたり、選んだりするなどして、それらを説明している。 ・病気の予防について、学習したことを自分の生活と比べたり、関係を見付けたりするなどして、それらを説明している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・病気の起こり方について理解したことを言ったり、書いたりしている。 ・病原体がもとになって起こる病気の予防について理解したことを言ったり、書いたりしている。 ・生活行動がかかわって起こる病気の予防について理解したことを言ったり、書いたりしている。 ・喫煙、飲酒、薬物乱用と健康について理解したことを言ったり、書いたりしている。 ・地域の様々な保健活動の取組について理解したことを言ったり、書いたりしている。

第 3 編

評価に関する事例

第3編 評価に関する事例

体育科は、運動領域と保健領域で構成されている。運動領域は、「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の技能」の3観点で評価する。第2編では、6つの内容のまとまり（各領域）ごとにそれぞれの観点の評価規準の設定例を示している。保健領域は、「健康・安全への関心・意欲・態度」「健康・安全についての思考・判断」「健康・安全についての知識・理解」の3観点で評価する。第2編では、学年ごとに1から2の内容のまとまり（学習項目）ごとにそれぞれの観点の評価規準の設定例を示している。このように運動領域と保健領域では、内容のまとまりの構成や評価の観点等が異なるため、分けて記載する。

1 評価規準の設定について

<運動領域>

（1）評価規準の設定における基本的な考え方

運動領域の指導内容は、学習指導要領において、AからFまでの各領域ごとに、2学年ごとのまとまりとして示されている。そのため、評価規準を設定する際には、学習指導要領の内容から各学年における単元を計画し、具体の授業を構想する必要がある。このことから運動領域における評価規準は、はじめにAからFまでの各領域に対応した「内容のまとまりごとの評価規準」を基に、運動種目等（例 第5学年及び第6学年の「E ボール運動」であれば「ア ゴール型」等）に対応した「単元の評価規準」を設定する。

「内容のまとまりごとの評価規準」は、2学年にわたっての指導によって、各領域の内容が身に付いた姿を示すものと位置付けられることから、「単元の評価規準」を設定する際のよりどころとなるものである。これらは、第2編における「評価規準に盛り込むべき事項」を用いて設定する。次に「単元の評価規準」は、実際の指導計画と照らし合わせた上で、第2編における「評価規準の設定例」を基に、必要に応じて修正し、設定する。

また、実際に授業を行う際には、児童の実態や地域の環境、学校の施設や運動場の広さ等により単元構成や指導方法が異なることから、各学校において「学習活動に即した評価規準」を作成し、評価することとなる。

（2）評価規準の設定例等の活用

①各学校における評価規準の作成の手順

手順1

- 「単元の評価規準」を作成
- 第2編における「評価規準の設定例」を必要に応じて修正し、作成する。

手順2

- 「学習活動に即した評価規準」を作成
- 指導計画に基づき、単元の評価規準を具体化して作成する。

作成上の留意点としては、次のようなことがある。

「学習活動に即した評価規準」については、実際の授業における学習場面で評価しやすいよう「単元の評価規準」をより具体化して設定する。特に「運動の技能」については、児童のどのような動きを評価するのかについて明確にしておく必要がある。その際、1単位時間ごとに評価する項目を多く設定しすぎると評価が困難となる。そのため、無理のない評価が行えるように「いつ」「何を」評価するのかという「指導と評価の計画」を立てておくことが大切である。

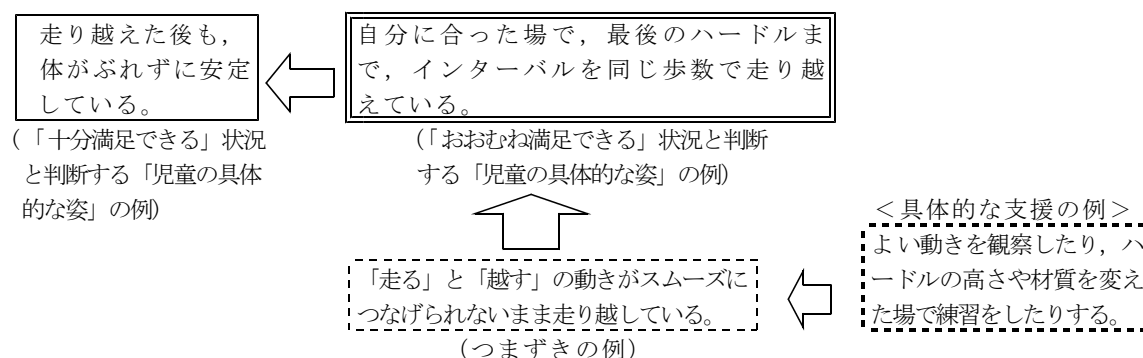
②児童の学習状況を適切に把握するために

「おおむね満足できる」状況や「十分満足できる」状況を判断する際、参考となるのが「児童の具体的な姿」である。活動している児童たちの様子をイメージしたり、実際の児童たちの様子を観察したりして、「児童の具体的な姿」をある程度想定しておくことで、適切な評価がしやすくなる。また、学習活動における典型的なつまずきの例を把握しておくことで適切な支援を行うことができる。

「児童の具体的な姿」を生かした評価と支援の例

(学習活動に即した評価規準)

自分に合った易しい場において、インターバルを決まった歩数で最後まで走り越すことができる



上記の例は、「児童の具体的な姿」の一例である。このように「児童の具体的な姿」を想定しておくことで、児童の学習状況について適切に把握することができるとともに、つまずきのある「努力を要する」状況と判断される児童に対して「おおむね満足できる」状況になるよう具体的な手だてにより支援しやすくなる。その際に、教師間で「児童の具体的な姿」を共有しておくことが評価の信頼性を確保することにつながる。

なお、ここでいう「十分満足できる」状況とは、「おおむね満足できる」状況から質的に高まっている状況を示している。上記の例では「自分に合った易しい場でインターバルを、同じ歩数で走り越している」児童の姿から「体がぶれずに安定して」走り越すことができている姿に動きの質の高まりが見られているものである。

<保健領域>

(1) 評価規準の設定における基本的な考え方

保健領域の学習指導要領は、身近な生活における健康・安全に関する内容について理解できるようにすることが示されている。これは健康・安全への知識・理解だけでなく、健康・安全についての関心・意欲・態度や思考・判断などの資質や能力を含んだものとされている。そこで、単元の目標は3つに分けて示すこととし、評価についても3観点で評価することとする。その際、知識を活用する学習活動を取り入れるなどの指導方法の工夫を踏まえた評価を行うことに留意する。

また、保健領域においては、学習指導要領の内容のまとまりと単元がほぼ一致する。そのため、第2編で示した「評価規準に盛り込むべき事項」が「単元の評価規準」、「評価規準の設定例」が「学習活動に即した評価規準」の参考になるように作成している。

(2) 評価規準の設定例等の活用

各単元について、指導と評価の計画を作成して評価規準を設定する際には、次のような留意点が考えられる。

評価規準	留 意 点
単元の評価規準	・学習指導要領を踏まえ、単元の目標を明確にするとともに、「評価規準に盛り込むべき事項」を活用し、観点ごとに作成する。
学習活動に即した評価規準	・具体的な授業をイメージして「評価規準に盛り込むべき事項」や「評価規準の設定例」を参考に観点ごとに作成する。 ・「学習活動に即した評価規準」を作成する際には、「単元の評価規準」との整合性をとるように留意する。

「健康・安全への関心・意欲・態度」については、単元の内容について関心をもち、学習活動に進んで取り組もうとしている状況を示している。学習活動については、調べ学習などの個人で取り組む活動と、話し合いなどの集団で取り組む活動を例示している。それらを踏まえて、事例5では、学習内容について教科書や資料を見たり、自分の生活を振り返ったり、課題の解決に向けての話し合いや発表などの活動において注意を向けたり、注目をしたりして、進んで取り組もうとしているなどの評価規準等を設定している。

「健康・安全についての思考・判断」については、単元の内容について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、実践的に考え、判断し、それらを表している状況を示している。それらを踏まえて、事例5では、学習内容について資料を基に、健康に関する課題や解決方法を見付けたり、選んだりし、それらを友達に説明している、事例6では、学習したことと自分の生活とを比べたり、関係付けたりし、それらをワークシートに記述し説明しているなどの評価規準等を設定している。

「健康・安全についての知識・理解」については、単元の内容としての基礎的な事項について、理解したことを言ったり、書いたりしている状況を示している。評価規準の作成に当たっては、学習指導要領及び解説に基づいて、授業で何を教えるのか明確にすることが求められる。それらを踏まえて、事例5では、学習内容についてグループや学級全体で話したり、ワークシートに書いたりしているなどの評価規準等を設定している。

2 各事例のポイント

事例1 「ゴール型（バスケットボール）」

運動領域における指導と評価の全体像（第5学年）

第5学年の「ボール運動」領域の「ゴール型（バスケットボール）」において、「指導と評価の全体像」を示した事例を紹介する。ここでは、指導と評価の計画や学年間の単元の系統性の示し方を取り上げるとともに、各観点の評価の進め方の具体例、観点別評価の総括の具体例を紹介している。

事例2 「リズムダンス」

「運動への関心・意欲・態度」の評価（第3学年）

第3学年の「表現」領域の「リズムダンス」において、主に「運動への関心・意欲・態度」の観点の評価を中心に取り上げている。ここでは、授業時の行動観察や学習カードの活用により、「運動への関心・意欲・態度」の評価を進める際の評価方法の具体例を紹介している。

事例3 「多様な動きをつくる運動遊び」

「運動についての思考・判断」の評価（第1学年）

第1学年の「体づくり運動」領域の「多様な動きをつくる運動遊び」において、主に「運動についての思考・判断」の観点の評価を中心に取り上げている。ここでは、学習カードの活用や授業時の行動観察、聞き取りにより「運動についての思考・判断」の評価を進める際の評価方法の具体例を紹介している。

事例4 「ハードル走」 「運動の技能」の評価（第6学年）

第6学年の「陸上運動」領域の「ハードル走」において、主に「運動の技能」の観点の評価を中心に取り上げている。ここでは、技能をしっかりと高めることにより、指導と評価の一体化を推進する具体例を紹介している。

事例5 「毎日の生活と健康」 保健領域における指導と評価の全体像（第3学年）

本事例では、単元として総括するまでの一連の流れについて単元の評価基準と学習活動に即した評価基準を設定し、それに基づいた指導と評価の計画を示している。また、3つの観点別評価の進め方と具体的な評価方法、観点別評価の配慮事項、総括について紹介している。

事例6 「育ちゆく体とわたし」 健康・安全についての思考・判断の評価（第4学年）

本事例では、思考力・判断力を育成することに重点を置いた学習指導案等を示し、主に「健康・安全についての思考・判断」の観点の評価を中心に取り上げている。思考力・判断力は、知識の習得を踏まえて知識を活用する学習活動を通じて育成されることが考えられることから、習得した知識と自分の成長や生活とを比べたり関係を見付けたりする学習活動を取り入れ、主にその時の観察やワークシートに記入されたことがらに基づいて評価を進める具体例を紹介している。

体育科（運動領域） 事例 1

単元名 ゴール型（バスケットボール）

第5学年 E ボール運動

キーワード：

運動領域における
指導と評価の全体像

1 単元の目標

- (1) 簡易化されたゲームで、ボール操作やボールを受けるための動きによって、攻防をすることができるようにする。 (技能)
- (2) 運動に進んで取り組み、ルールを守り助け合って運動をしたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。 (態度)
- (3) ルールを工夫したり、効果的な作戦を立てたりすることができるようにする。 (思考・判断)

2 単元の評価規準

	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・集団対集団で競い合う楽しさや喜びに触れることができるようゴール型のゲームに進んで取り組みようとしている。 ・ルールやマナーを守り、友達と助け合って練習やゲームをしようとしている。 ・用具の準備や片付けで、分担された役割を果たそうとしている。 ・運動をする場を整備したり、用具の安全を保持したりすることに気を配ろうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴール型のゲームの行い方を知るとともに、簡易化されたゲームを行うためのルールを選んでいる。 ・効果的な攻め方を知るとともに、チームに合った作戦を選んでいる。 ・<u>チームの特徴に応じた攻め方を知るとともに、自分のチームの特徴に応じた作戦を立てている。(第6学年時)</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴール型では、簡易化されたゲームで、攻守が入り交じった攻防をするためのボール操作やボールを受けるための動きができる。 <p>この事例では、児童の実態を踏まえ、<u>左の評価規準</u>は第6学年時に評価することとする。</p>

学習活動に即した評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ①集団対集団で競い合うための練習やゲームに進んで取り組みようとしている。 ②ルールやマナーを守り、友達と助け合って練習やゲームをしようとしている。 ③用具の準備や片付けで、分担された役割を果たそうとしている。 ④運動をする場の危険物を取り除いたり、用具の安全を保持したりすることに気を配ろうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①ゴール型（バスケットボール）のゲームの行い方を知っている。 ②みんながゴール型の楽しさや喜びに触れることができるよう、プレー上の制限、得点の仕方などのルールを選んでいる。 ③効果的な攻め方を知り、チームに合った作戦を選んでいる。 ○<u>チームの特徴に応じた攻め方を知り、自分のチームの特徴に応じた作戦を立てている。(第6学年時)</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ①近くにいるフリーの味方にパスすることができる。 ②仲間からボールを受けることのできる場所に動くことができる。 ③パスを受けてシュートすることができる。
--------------	--	---	--

3 指導と評価の計画

(1) 指導と評価の計画 (8時間)

第5学年 ゴール型 (バスケットボール)				
時間	主なねらい・学習活動	学習活動に即した評価規準 (評価方法)		
		運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
1	1 オリエンテーション 学習の進め方を知り、学習の見通しをもつ。 ・ルールの確認 ・グループ決め役割分担 2 試しのゲーム 3 振り返り・片付け ・学習カードの活用の仕方についての確認	③用具の準備や片付けで、分担された役割を果たそうとしている。 (観察)	学習指導要領では、2年間のまとまりごとに目標及び内容が示されているため、各単元における指導は、2年間を見通して計画する必要がある。それに合わせ「指導と評価の計画」もおおよそ2年間を見通して立てている。 ①ゴール型 (バスケットボール) のゲームの行い方を知っている。(観察)	
2	1 用具や場の準備, 準備運動 2 学習課題の確認 ゲームで見付けた課題の解決に向けて取り組む。	①集団対集団で競い合うための練習やゲームに進んで取り組もうとしている。 (観察, 学習カード)		ゲームを簡易化するねらいに合った工夫が大切であることを示している。
3	※ゲームは全て簡易化されたゲーム 3 ゲーム① 4 課題解決についての話し合い ・ルールの工夫 ・効果的な攻め方についての話し合い	課題を見付けるために、ゲームに進んで取り組もうとしていることを評価することとした。	②みんながゴール型の楽しさや喜びに触れることができるよう、プレー上の制限、得点の仕方などのルールを選んでいる。 (観察, 学習カード)	
4	5 チームでの練習 6 ゲーム②	④運動をする場の危険物を取り除いたり、用具の安全を保持したりすることに気を配ろうとしている。(観察)		①近くにいるフリーの味方にパスをすることができる。 (観察)
5 (本時)	7 振り返り・片付け			②仲間からボールを受けることのできる場所に動くことができる。 (観察)

6	1 用具や場の準備 2 学習課題の確認 効果的な攻め方を生かした攻防ができるようにする。	① 集団対集団で競い合うための練習やゲームに進んで取り組もうとしている。 (観察, 学習カード)	効果的な攻め方を選んだことを踏まえて、チームで練習に進んで取り組もうとしていることを評価することとした。
7	3 ゲーム① 4 作戦の話合いや練習 ・効果的な攻め方についての話合い ・作戦を踏まえた練習	① ルールやマナーを守り、友達と助け合って練習やゲームをしようとしている。 (観察)	③ 効果的な攻め方を知り、チームに合った作戦を選んでいる。 (観察, 学習カード)
8	5 ゲーム② 6 振り返り・片付け		③ パスを受けてシュートすることができる。 (観察)

第6学年 ゴール型（サッカー）

※第6学年の学習活動は省略

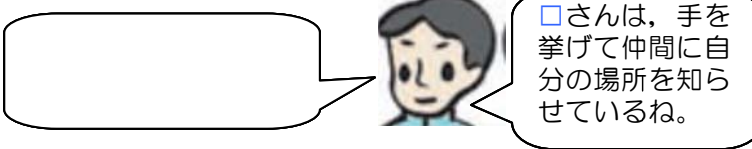
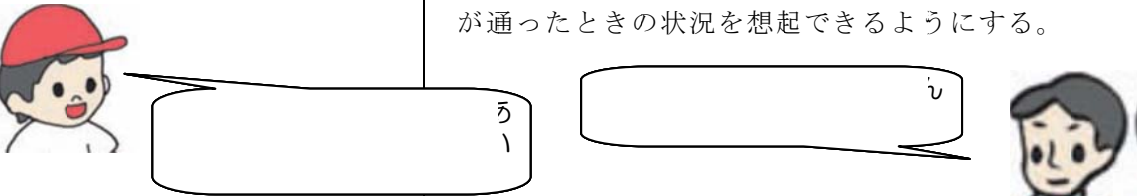


	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
学習活動に即した評価基準	① 集団対集団で競い合う楽しさや喜びに触れることができるようボール運動に進んで取り組もうとしている。 ② ルールやマナーを守り、友達と助け合って練習やゲームをしようとしている。 ③ 用具の準備や片付けで、分担された役割を果たそうとしている。 ④ 運動をする場を整備したり、用具の安全を保持したりすることに気を配ろうとしている。	① ゴール型（サッカー）のゲームの行い方を知っている。 ② みんながゴール型の楽しさや喜びに触れることができるようコート広さ、プレー上の制限、得点の仕方などのルールを選んでいる。 ③ チームの特徴に応じた攻め方を知り、自分のチームの特徴に応じた作戦を立てている。	① フリーの時にドリブルすることができる。 ② ボール保持者とゴールの間に体を入れて相手の得点を防ぐ動きができる。 ③ チームの作戦に基づいた位置どりやボール操作ができる。

2年間にわたる単元の評価基準は、内容のまとまりごとの評価基準を基に設定する。

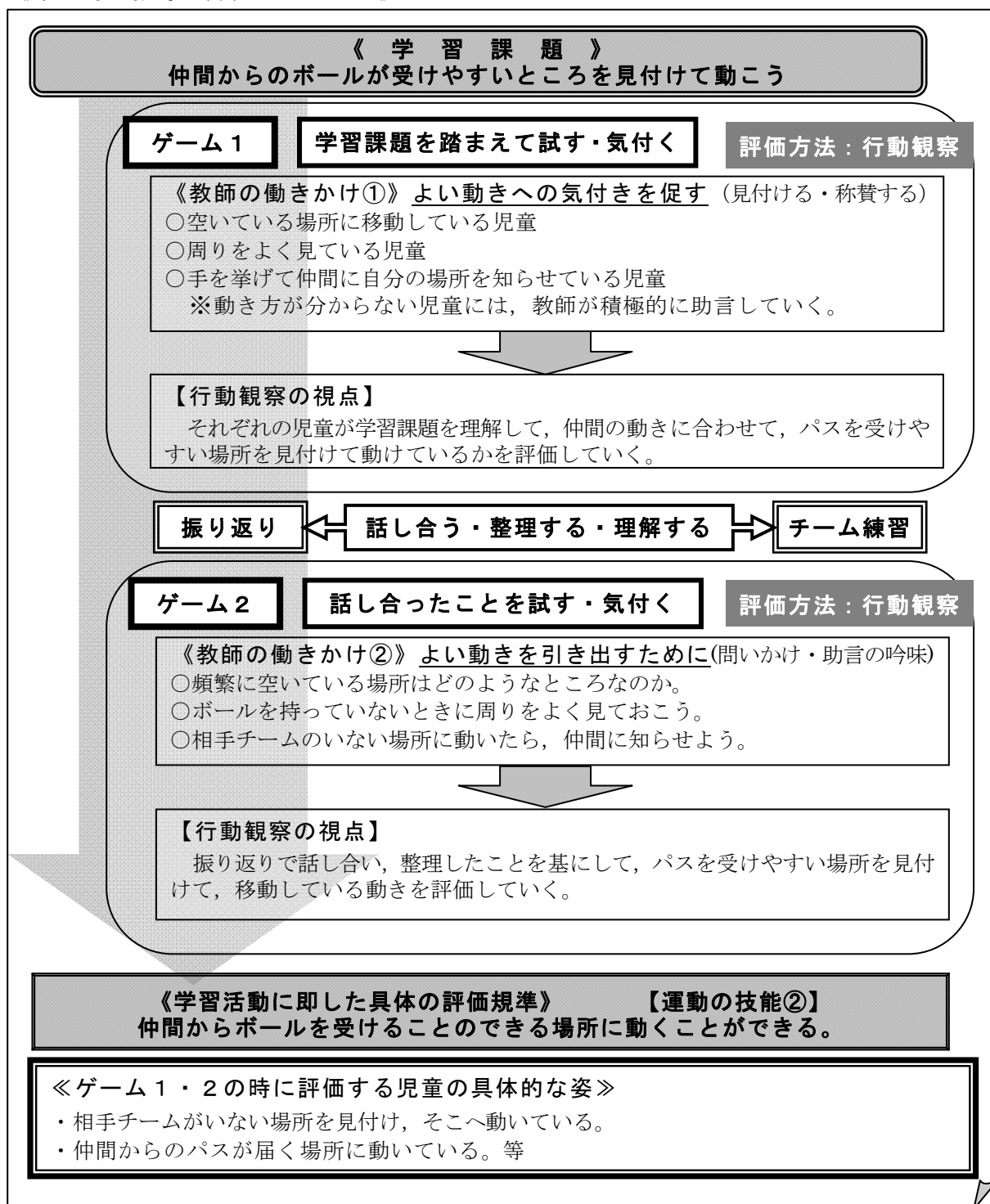
【第5学年及び第6学年】

	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
内容のまとまり 評価基準	ボール運動の楽しさや喜びに触れることができるよう、進んで取り組むとともに、ルールを守り助け合って運動をしようしたり、運動する場や用具の安全に気を配ろうとしたりしている。	ルールを工夫したり、自分のチームの特徴に合った作戦を立てたりしている。	ゴール型、ネット型、ベースボール型について、簡易化されたゲームで攻防をするためのボール操作やボールを持たないときの動きを身に付けている。

(2) 本時の展開 (5 / 8 時間) ※本時では、運動の技能を主として評価する。

本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間からのボールを受けやすいところに移動できるようにする。(技能) ・友達と助け合って練習やゲームをすることができるようにする。(態度) ・効果的な攻め方を知り、チームに合った作戦を選ぶことができるようにする。(思考・判断)
主なねらい・学習活動	教師の働きかけ・評価 (☆)
<p>1 運動の場や用具の準備, ボールを使った準備運動や動きを高めるための補助的な運動をする。</p> <p>2 本時の学習課題の確認をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・徐々に心拍数を高めるようにする。 ・様々な距離や方向からのシュートゲーム, 仲間が捕りやすいところを意識したパスゲーム等, 児童の課題に応じて設定する。
<p>3 簡易化されたゲームをする。 (ゲーム①)</p> <p>○学習課題を意識してゲームをする。</p> <p>4 ゲーム①を振り返って作戦を立てる。</p> <p>○作戦ボードを使って, フリーの味方のつくり方を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・よい動きに気付けるように, 望ましい動きを称賛する。 <div data-bbox="651 824 1406 972">  </div> <ul style="list-style-type: none"> ・作戦ボードで実際にマグネットを動かし, 動きをイメージできるようにする。 ・話合いが滞っているチームには, 「パスゲーム」のパスが通ったときの状況を想起できるようにする。 <div data-bbox="220 1128 1362 1323">  </div>
<p>5 作戦に基づいた練習をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・作戦を生かすためにどのような動きをすればよいかを確認しながら行うよう助言する。 <div data-bbox="256 1464 1337 1574">  </div>
<p>6 簡易化されたゲームをする。 (ゲーム②)</p> <p>7 ゲーム②を振り返る。</p> <p>○作戦について振り返る。</p> <p>8 整理運動・片付けをする。</p> <p>○ストレッチを行い, 筋肉をほぐす。</p>	<div data-bbox="671 1579 1370 1727">  </div> <ul style="list-style-type: none"> ・作戦が成功したときの動きとうまういかなかったときの動きの原因について確認する。 ・リラックスできるように, ゆったりとした音楽をかけながら行う。 ・グループ毎に分担して, 片付けを行う。

《第5時の指導と評価のポイント》



※ 「運動の技能」の評価は、ゲーム①とゲーム②の2回の評価機会を通じて行うが、ゲーム①では学習課題が理解でき、よい動きへの気付きが促され、次の学習活動につながっていくように指導に生かすための評価とする。その上で、ゲーム②では、上に示す児童の具体的な姿を観察し、本時の「運動の技能」の評価とする。

4 観点別評価の進め方

本事例では、児童がボール運動のゴール型の楽しさや喜びに触れられるよう、ルール

や作戦を工夫することを通して、ボール操作やボールを受けるための動きを身に付けることができる学習活動を計画した。ここでは、これらの学習活動に対する観点別評価の進め方について、以下の２点に留意した。

(1)「おおむね満足できる」状況にするための指導の留意点

ア「運動への関心・意欲・態度」

友達と助け合って練習やゲームができるようにするために、教師と児童が掲示物等でルールやマナーを共有できるようにする。また、勝敗の結果を受け入れる態度をとったり、仲間と励まし合って練習やゲームをしたりするなど、望ましい態度や仲間への声かけについても、適宜称賛すると効果的である。

イ「運動についての思考・判断」

ゴール型の楽しさや喜びに触れることができるよう、全員がプレーに参加して得点できるようにルールを工夫する必要がある。その際、プレーヤーの数、コート広さ、プレー上の制限（緩和）、得点の仕方、ボールその他の運動用具や設備などを学習課題に照らして児童が選ぶことができるようにすることが大切である。

また、簡易化されたゲームにおいて、効果的な攻め方を知るにより、チームに合った（できそうな）作戦を選ぶことができるようにすることが大切である。その際、チームの考えを共有するために、個人の学習カードだけでなく、チームとしての学習カードを工夫し、作戦ボード等を活用することが考えられる。

ウ「運動の技能」

簡易化されたゴール型のゲームの楽しさや喜びを味わうことができるように、必要な基本的な技能を身に付けることが大切である。そのため、ゲームを有利に展開できるよう効果的な攻め方を知り、それを基にチームで考えた作戦を実践するための練習を行うことにより、技能が身に付くようにする。また、学級全体で同じような課題（パスがうまくつながらないなど）が見られる場合には、必要に応じて課題を分かりやすくした練習（攻撃３人、守備２人など）を行うことも考えられる。

(2) 評価場面における児童の具体的な姿の想定

それぞれの評価規準に対して、児童の具体的な姿を想定し、評価方法を明らかにして評価することとした。

ア「運動への関心・意欲・態度」

学習活動に即した評価規準	評価方法及び児童の具体的な姿
①集団対集団で競い合うための練習やゲームに進んで取り組もうとしている。 《第２・６時》	《行動の観察》 ・ゲーム中、プレーに関わろうとして動いている。 ・練習するときに仲間に声かけをしている。等 《学習カードの読み取り》 ・楽しさや態度についての記述をしている。等
②ルールやマナーを守り、友達と助け合って練習やゲームをしようとしている。《第７時》	《行動の観察》 ・ローテーションの順番を守っている。 ・勝敗に対して望ましい態度をとっている。 ・仲間に励ましの声かけをしている。等

③用具の準備や片付けで、分担された役割を果たそうとしている。 《第1時》	《行動の観察》 ・ 分担された役割を確認している。 ・ 友達と一緒に用具を運んでいる。等
④運動をする場の危険物を取り除いたり、用具の安全を保持したりすることに気を配ろうとしている。《第4時》	《行動の観察》 ・ 練習・ゲーム時のボールが散乱しないようにしている。 ・ 用具などを決められた場所に片付けている。等

イ「運動についての思考・判断」

学習活動に即した評価規準	評価方法及び児童の具体的な姿
①ゴール型（バスケットボール）のゲームの行い方を知っている。 《第1時》	《行動の観察》 ・ 正しいルールに従ってプレーしている。 ・ ルールにしたがって審判している。等
②みんながゴール型の楽しさや喜びに触れることができるよう、プレー上の制限、得点の仕方などのルールを選んでいる。 《第3時》	《行動の観察》 ・ みんなが楽しく行えるような内容を発言している。 ・ 変更や追加等について、理由を述べている。等 《学習カードの読み取り》 ・ 具体的なルールや変更の理由を記述している。等
③効果的な攻め方を知り、チームに合った作戦を選んでいる。 《第7時》	《行動の観察》 ・ 空いている場所や相手チームの動きなどに気付き、それらを生かした攻め方を選んでいる。等 《学習カード（作戦ボード）の読み取り》 ・ 仲間の動きなどを例示しながら、考えたり伝えたりしている。 ・ 相手チームの動きを予想して、チームの攻め方を考えている。等

ウ「運動の技能」

学習活動に即した評価規準	評価方法及び児童の具体的な姿
①近くにいるフリーの味方にパスをすることができる。 《第4時》	《行動の観察》 ・ フリーの味方を見付けてパスを出している。等
②仲間からボールを受けることのできる場所に動くことができる。《第5時》	《行動の観察》 ・ 相手チームがいない場所へ動いている。 ・ 仲間からのパスが届く場所に動いている。等
③パスを受けてシュートすることができる。《第8時》	《行動の観察》 ・ ゴールの近くでパスを受け、シュートしている。 ・ 相手チームがいないときに、シュートしている。等

以上のような学習活動に即した評価規準に照らして「努力を要する」状況（C）と判断した児童には、即座に支援策を講じるとともに、それ以降の授業についての指導の手だてを考え、適切な指導をしていくことが大切である。そうした継続的な指導の結果、「おおむね満足できる」状況（B）となった場合には、当該児童の第5時の評価結果を補足的に評価することが可能である。

5 観点別評価の総括

「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の技能」の3つの観点について、それぞれを単元ごとに総括する方法を例示する。「十分満足できる」状況をAとする。「おおむね満足できる」状況をBとする。「努力を要する」状況をCとする。

下の表は、事例1の「指導と評価の計画」に基づき、Aが半数以上の場合にはA（A，A，Bの場合はA），Cが半数を越える場合にはC（C，C，B，Bの場合はB），それ以外はBとする考え方に立って総括を行っている。また、AとCが同一観点到混在する場合は、Bに置き換えて集約している。（例 AとCが各1つ→Bが2つ）

重点として評価を行う時間と3段階の評価の例（○数字は評価項目）

観点	時間	第1時	第2時	第3時	第4時	第5時	第6時	第7時	第8時	総括
運動への関心・意欲・態度		③→C	①→B		④→B		①→A	②→A		B
運動についての思考・判断		①→A		②→B				③→C		B
運動の技能					①→B	②→A			③→A	A

体育科（運動領域） 事例2
単元名 リズムダンス

第3学年 F 表現運動

キーワード：
「運動への関心・意欲・
態度」の評価

1 単元の目標

- (1) 軽快なリズムに乗って、全身で踊ることができるようにする。 (技能)
- (2) リズムダンスに進んで取り組み、だれとでも仲よく練習や発表をしたり、場の安全に気を付けたりすることができるようにする。 (態度)
- (3) リズムダンスの動きのポイントやよい動きを知るとともに、自分に合った課題を見付け、練習や発表の仕方を工夫することができるようにする。 (思考・判断)

2 単元の評価規準

	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
単元 の 評 価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> ・リズムの特徴を捉えて踊る楽しさや喜びに触れることができるよう、リズムダンスに進んで取り組みようとしている。 ・運動の行い方のきまりを守り、友達と励まし合って練習や発表、交流をしようとしている。 ・運動する場の安全を確かめようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リズムダンスのリズムの特徴や動きのポイントを知るとともに、自分に合った課題を<u>選んでいる</u>。 ・よい動きを知るとともに、友達のよい動きを自分の踊りに取り入れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・軽快なリズムに乗って、全身で踊ることができる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>第4学年では「見付けている。」状況について、評価することとした。</p> </div>
学習活動に即した評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ①リズムダンスを楽しむための活動に進んで取り組みようとしている。 ②きまりを守り、友達と励まし合ったり教え合ったりして練習や発表、交流をしようとしている。 ③場の安全を確かめて活動しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①ロックやサンバのリズムの特徴や動きのポイントを知るとともに、自分に合ったリズムを選んでいる。 ②友達のよい動きを見付け、まねしたり、自分の踊りに取り入れたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①いろいろなリズムに乗って、全身で弾んで踊ることができる ②友達と調子を合わせて踊ることができる。

3 指導と評価の計画（6時間）

学習指導要領には、2学年のまとまりで指導内容が示されていることから、2学年にわたり指導する場合には、それぞれの学年における指導内容や評価規準を整理し、次のような「指導と評価の計画」に基づき、授業を行っていくことが大切である。

学 年	時 間	主なねらい・学習活動	学習活動に即した評価規準（評価方法）		
			運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
第 3 学 年	1	<p>音楽に合わせて、思い付いた動きで楽しく踊ろう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学習の進め方を知る。 2 曲に合わせて即興で踊る。 3 スキップでの移動やアクセントを付けること、体をねじったり回ったりする動きを知る。 4 振り返り 	③場の安全を確かめて活動しようとしている。（観察）		
	2	<p>ロックの動きのポイントを知り、自分の課題を見付けよう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 スキップでの移動やアクセントを付けること、体をねじったり回ったりする動きを入れながら、即興で踊る。 2 友達と自由にかかわり合って踊る。 3 これまでやった動きを取り入れながら踊る。 4 振り返り 		②友達のよい動きを見付け、まねしたり、自分の踊りに取り入れたりしている。（観察）	
	3 （本時）	<p>サンバのリズムに乗って、全身で弾んで踊ろう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 サンバのリズムに合わせた動きを知る。 2 サンバの「ウンタッタ」のシンコペーションのリズムの特徴を知り、サンバの曲に合わせて即興で踊る。 3 友達と自由にかかわり合ってサンバのリズムに乗って踊る。 4 振り返り 	①リズムダンスを楽しむための活動に進んで取り組もうとしている。（観察・カード）		
	4	<p>自分が踊ってみたいリズム（曲）を選び、友達と動きを考えて踊ろう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 今までの動きで、ロック・サンバの曲に乗って踊る。 2 踊りたい曲を選んで、動きを考えたり友達と合わせたりして踊る。 	②きまりを守り、友達と励まし合ったり教え合ったりして練習や発表、交流しようとしている。（観察）	①ロックやサンバのリズムの特徴や動きのポイントを知るとともに、自分に合ったリズムを選んでいる。（観察・カード）	
	5				

	<p>3 動きのポイントを意識したり，友達のよい動きをまねしたりして踊る。</p> <p>4 振り返り</p>			<p>①いろいろなリズムに乗って，全身で弾んで踊ることができる。</p> <p>(観察)</p>
6	<p>自分の選んだ曲で，友達と一緒に全身で弾んで踊ろう。</p> <p>1 学習した動きのポイントを考えながら，リズムに乗って踊る。</p> <p>2 曲ごとにミニ発表会をする。</p> <p>3 振り返り</p>			<p>②友達と調子を合わせて踊ることができる。</p> <p>(観察)</p>
第4学年	<p>いろいろなリズムに乗って，リズムの違いを感じながら自由に踊って楽しもう。</p> <p>1 ロックやサンバのリズムの曲で即興で踊る。</p> <p>2 ロックの後打ちやサンバの「ウンタッタ」のリズムの特徴を知り，全身で踊る。</p> <p>3 振り返り</p> <p>自分が踊ってみたい好きなリズム(曲)を選び，リズムの特徴を生かした乗り方で，友達と動きを考えて踊ろう。</p> <p>1 自分で選んだ場で，全身で弾んで踊ったり友達と一緒に踊ったりする。</p> <p>2 友達のよい動きを見付けてまねして踊ったり一緒に踊ったりする。</p> <p>3 振り返り</p> <p>ダンスパーティーをしよう。</p> <p>1 自分の選んだ好きな曲で，友達と一緒に全身で弾んで踊ろう。</p> <p>2 友達と調子を合わせたり対応したりして踊る。</p> <p>3 振り返り</p>	<p>○場の安全を確かめて活動しようとしている。</p> <p>○リズムダンスを楽しむための活動に進んで取り組もうとしている。</p> <p>○きまりを守り，友達と励まし合って練習や発表，交流をしようとしている。</p>	<p>○友達のよい動きを見付け，まねしたり，自分の踊りに取り入れたりしている。</p> <p>○ロックやサンバのリズムの特徴や動きのポイントを知らずとも，自分に合ったリズムを選んでいる。</p> <p>○楽しく踊るための自分に合った課題を見付け，練習や発表の仕方を選んでいる。</p>	<p>○即興的に全身で弾んで踊ることができる</p> <p>○友達と調子を合わせたり対応したりして踊ることができる。</p>

4 本時の展開 (3 / 6 時間)

本時の目標

○サンバのリズムに乗って、友達と一緒に全身で弾んで踊ることができるようにする。

(技能)


○リズムダンスに進んで取り組むことができるようにする。

(態度)

○サンバの動きのポイントやよい動きを見付けることができるようにする。

(思考・判断)

※本時では、運動への関心・意欲・態度を主として評価する。

主なねらい・学習活動	教師の働きかけ・評価 (☆)
<p>1 前時までのポイントを確認し、ロックのリズムで即興的に踊って楽しむ。</p> 	<p>・即興的に踊る楽しさが広がるように、よい動きをしている児童を称賛し、踊りのアイデアがふくらむようにする。</p> <p>「おへそも髪の毛も動いているね。」 「ジャンプやスキップも入れているいいね。」 「ストップしたり、ポーズしたりアクセントがあるね。」 「回ったり、体をねじったりするのもかっこいいね。」 「ひざを使って弾んでいるね。」 「ゆっくりの動きや速い動きを入れているね。」</p>
<p>サンバのリズムに乗って、友達と一緒に全身で弾んで踊ろう。</p>	
<p>2 サンバのリズムを知り、サンバのリズムに乗って踊る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サンバのリズムの特徴やステップを知る。 ・サンバの曲に合わせて踊る。 <p>3 前時の学習を思い出し、サンバの曲でも友達と自由にかかわり合って踊る。</p>	<p>・楽しそうに踊れていない児童には、教師も一緒に踊り、動き方を伝える。</p> <p>「おへそを中心に動かしてみよう。」 「足でウンタッタのリズムをとってごらん。」 「今までやった動きを入れてもいいよ。」</p> <p>・曲が流れている間、楽しく進んで踊っている児童を称賛し、様々な楽しい動きを全体に広めていく。</p> <p>「二人で前へ行ったり後ろに行ったりしていて息が合っていたね。」 「場を広く使っているいいね。」 「二人で手を上手に使っているのがすてきだよ。」</p>
<p>4 友達のよい動きを紹介し、まねして踊る。</p>	<p>・友達のよい動きや今までに取り組んだ動きを取り入れながら踊ることを伝える。</p>
<p>☆リズムダンスを楽しむための活動に進んで取り組もうとしている。 【運動への関心・意欲・態度①】(観察)</p>	
<p>5 学習の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しかったことや友達のよい動きを発表する。 ・次時の学習について知る。 	<p>・楽しんでいた児童やリズムに乗ったよい動きをしていた児童を紹介し、称賛する。</p> <p>・次時は自分の好きな曲を選んで踊ることを伝える。</p>

5 観点別評価の進め方

(1)「運動への関心・意欲・態度」の評価について

運動領域では、学習指導要領において、内容として(2)「態度」が明確に示されている。具体的には「進んで運動に取り組む」といった運動への愛好的な態度や「友達と協力したり、ルールを守ったりして運動すること」などの協力・公正に関する態度、「運動の場や用具の安全を確かめる」などの安全に関する態度である。そのため、運動領域では、これらについて評価をする。

児童が運動に進んで取り組んだり、協力して取り組んだりできるような授業をつくり、これらについて計画的に指導するとともに評価を行うことが大切である。

〈観点の趣旨〉

運動に進んで取り組むとともに、友達と協力し、安全に気を付けようとする。

＜評価規準の設定におけるキーワード＞

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
意欲	運動に進んで取り組む	運動に進んで取り組む	〇〇する楽しさや喜びに触れることができるよう、進んで取り組む
公正 ・ 協力	順番やきまりを守り、友達と仲よく友達と協力して、用具の準備や片付け	きまりを守り、友達と励まし合う 友達と協力して、用具の準備や片付け	約束を守り、友達と助け合う 準備や片付けで、分担された役割を果たす
安全	運動する場や用具の使い方などの安全に気を付けようと	運動する場や用具の使い方などの安全を確かめようと	運動する場を整備したり、器械・器具の安全を保持したりすることに気を配ろうと

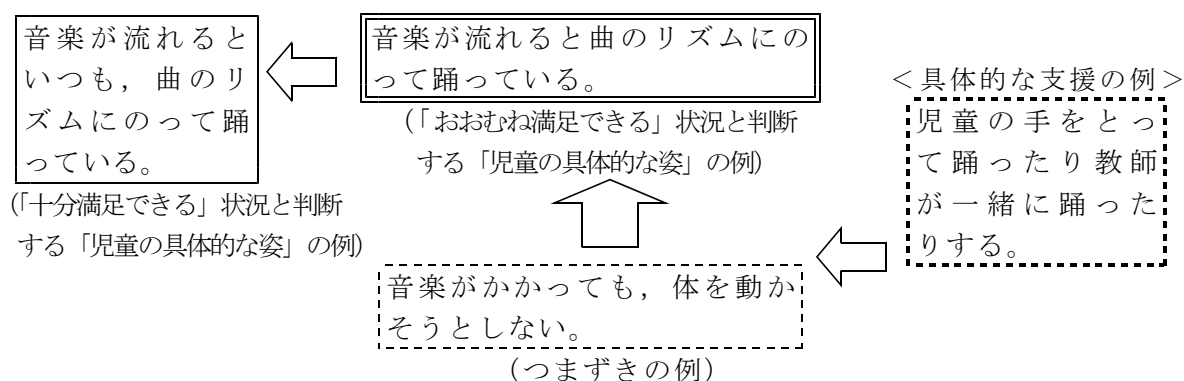
← 運動することそのものに進んで取り組む →

← 動きや技能を高める活動などに進んで取り組む →

(2)「学習活動に即した評価規準」に基づく児童の具体的な姿の例と支援の例

(学習活動に即した評価規準)

リズムダンスを楽しむための活動に進んで取り組もうとしている。



(3)「運動への関心・意欲・態度」の評価方法の例

次に示すのは、運動への関心・意欲・態度の評価方法の例である。①②③については、それぞれが同等な取扱いではなく、①の授業時の観察や②の学習カードへの記述に重きを置きながら評価し、必要な場合には③の聞き取りなどを行うことが考えられる。

①授業時の観察

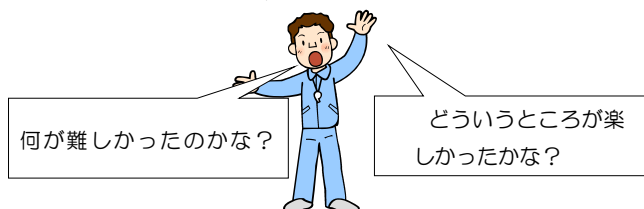
教師は、その授業における「児童の具体的な姿」や「つまずきの例」をある程度想定しながら授業に望むことで、適切な支援を行い、効果的な指導ができる。

②学習カードの活用

- ・児童が書き込みしやすく、さらに振り返りができるように学習カードを作成する。
- ・観察による評価で十分観察できなかった児童がいた場合、カードから授業中の様子を読み取る。

③聞き取り

- ・観察や学習カードによる評価を補うために行う。



(4) 学習カード (例)

※この時間は、「運動への関心・意欲・態度」の観点を中心に見取るためのカード

はずんでおどってノリノリサンバ

○月 △日 (■)
名前 _____

第3時 サンバのリズムに乗って、友だちといっしょに全身ではずんでおどろう。

ア・・・とても イ・・・だいたい ウ・・・あまり

☆今日のリズムダンスは、楽しかったですか。

☆自分からすすんでおどれましたか。

☆友達といっしょになかよくおどることができましたか。

☆安全に気をつけておどることができましたか。

ア	イ	ウ
ア	イ	ウ
ア	イ	ウ
ア	イ	ウ

今日の学習で楽しかったことは・・・

サンバのリズムは楽しかったです。さいしょは先生のまねをしていっしょにやっていたけれど、次は〇ちゃんといっしょにやりました。ふたりでこうたいしながらまねっこしておどったのがたのしかったです。あせびっしょりになりました。

(評価： 授業中の観察では、曲がかかると同時に即興で踊ったり、友達と一緒に踊ったりしていた。また、カードからも楽しく取り組めた様子が分かる→「十分満足できる」状況と判断)

教師の具体的な手立て

なかなか体を動かさない子のために・・・

- ★「先生のまねしてみて。」と言葉がけし、一緒に踊る。
- ★ 先生が手を取り、一緒に楽しく踊る。
- ★「友達の動きをまねしてごらん。」「今のステップかっこいいよ。」「簡単な動きでいいよ。」などの声かけ

だれでも楽しく取り組むための動きの提示

動きのてがかりとなる「ノリノリカード」を掲示することで、進んで取り組むきっかけにする。



このような手だてにより、「おおむね満足できる」状況になるよう支援していくことが大切である。

体育科（運動領域） 事例 3

単元名 多様な動きをつくる運動遊び

第1学年 A 体づくり運動

キーワード：

「運動についての思考・判断」の評価

1 単元の目標

- (1) 体のバランスをとったり移動をしたりするとともに、用具の操作などを行うことができるようにする。(運動)
- (2) 多様な動きをつくる運動遊びに進んで取り組み、きまりを守り仲よく運動をしたり、場の安全に気を付けたりすることができるようにする。(態度)
- (3) 多様な動きをつくる運動遊びの行い方を工夫することができるようにする。(思考・判断)

2 単元の評価規準

	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 多様な動きをつくる運動遊びに進んで取り組もうとしている。 運動の順番やきまりを守り、友達と仲よく運動をしようとしている。 友達と協力して、用具の準備や片付けをしようとしている。 運動をする場や用具の使い方などの安全に気を付けようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な動きをつくる運動遊びの行い方を知るとともに、運動をする場や使用する用具などを変えながら、いろいろな運動の仕方を選んでいく。 多様な動きをつくる運動遊びの動き方を知るとともに、友達のよい動きを見付けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 体のバランスをとったり移動をしたりする動きや用具を操作したり力試しをしたりする動きができる。
学習活動に即した評価規準	<ol style="list-style-type: none"> 多様な動きをつくる運動遊びに進んで取り組もうとしている。 運動の順番やきまりを守って、友達と仲よく運動しようとしている。 友達と協力して、用具の準備や片付けをしようとしている。 運動をする場や用具の使い方などの安全に気を付けようとしている。 	<ol style="list-style-type: none"> 運動遊びの行い方や動き方を知っている。 友達のよい動きを見付けていく。 動きを工夫するために姿勢や人数、方向などの条件や用具の使い方を選んでいく。 	<ol style="list-style-type: none"> 姿勢や方向を変えて、体のバランスをとる動きができる。 用具を操作し、用具に合わせた動きができる。 速さやリズム、方向を変えて、体を移動する動きができる。 力を入れ方を変えて力試しの動きができる。

「いろいろな運動の仕方を見付けていく。」状況は、第2学年で評価することとした。

「運動への関心・意欲・態度の③」及び「運動の技能の③、④」については、後期の単元で評価する。

3 指導と評価の計画（6時間）

本事例は、多様な動きをつくる運動遊びを、第1学年で12時間扱いとして単元を設定したうちの、前期分6時間を想定し、示している。次に示した指導と評価の計画は、後期分を含めた12時間の計画である。また、第2学年までを系統的に示している。

学年	時間	主なねらい・学習活動	学習活動に即した評価規準（評価方法）		
			運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
第1学年前期	1	1 オリエンテーション いろいろな動き方をやってみよう。 ・学習の仕方を知る。 ・用具の使い方や約束の確認 ・試しの運動に取り組む。 2 振り返り・片付け	④運動をする場や用具の使い方などの安全に気を付けようとしている。（観察）		
	2	1 準備運動 2 用具や場の準備 3 学習課題の確認 体のバランスをとる運動遊びや用具を操作する運動遊びに挑戦しよう。	②運動の順番やきまりを守って友達と仲よく運動しようとしている。（観察・学習カード）	①運動遊びの行い方や動き方を知っている。（観察・学習カード）	
	3	4 体のバランスをとる運動遊び 5 用具を操作する運動遊び ・教師が提示した動きに取り組む。 ・ペアやグループで見合って、動きを確かめる。 ・運動遊びで行った動きを使ってゲームをする。 6 振り返り・片付け	①多様な動きをつくる運動遊びに進んで取り組もうとしている。（観察・学習カード）		
	4（本時）			②友達のよい動きを見つけている。（観察・学習カード）	
	5	1 準備運動 2 用具や場の準備 3 学習課題の確認 友達と一緒に、もっと楽しい動きを見付けよう。 4 いくつかの場での、好きな遊びの選択及び動き方の工夫 5 振り返り・片付け		③動きを工夫するために姿勢や人数、方向などの条件や用具の使い方を選んでいる。（観察・学習カード）	②用具を操作し、用具に合わせた動きができる。（観察・学習カード）
	6				①姿勢や方向を変えて、体のバランスをとる動きができる。（観察・学習カード）
第1学年後期	7	1 オリエンテーション いろいろな動き方をやってみよう。 ・学習の仕方を知る。 ・試しの運動に取り組む。 2 振り返り・片付け	③友達と協力して、用具の準備や片付けをしようとしている。（観察・学習カード）	①運動遊びの行い方や動き方を知っている。（観察・学習カード）	
	8	1 準備運動や体ほぐしの運動 2 用具や場の準備 3 学習課題の確認 体を移動する運動遊びや力試しの運動遊びに挑戦しよう。	①多様な動きをつくる運動遊びに進んで取り組もうとしている。（観察・学習カード）		

第 1 学 年 後 期	9	4 体を移動する運動遊び 5 力試しの運動遊び ・教師が提示した動きに取り組む。 ・ペアやグループで見合って、動きを確かめる。 ・運動遊びで行った動きを使ってゲームをする。 6 振り返り・片付け		②友達のよい動きを見付けている。(観察・学習カード)	
	10				③速さやリズム、方向を変えて、体を移動する動きができる。(観察・学習カード)
	11	1 準備運動 2 用具や場の準備 3 学習課題の確認 友達と一緒に、もっと楽しい動きを見付けよう。 4 いくつかの場での、好きな遊びの選択及び動き方の工夫 5 振り返り・片付け			④力の入れ方を変えて力試しの動きができる。(観察・学習カード)
	12			③動きを工夫するために姿勢や人数、方向などの条件や用具の使い方を選んでいる。(観察・学習カード)	

第 2 学 年	1 準備運動や体ほぐしの運動 2 用具や場の準備 3 学習課題の確認 知っている動きを試したり、動き方を工夫したりしてみよう。 4 多様な動きをつくる運動遊び(バランス・移動・用具操作・力試し) ・教師が提示した動きに取り組む。 ・ペアやグループで見合って動きを確かめたり、工夫したりする。 ・運動遊びで行った動きを使ってゲームをする。 5 振り返り・片付け	○多様な動きをつくる運動遊びに進んで取り組もうとしている。 ○運動の順番やきまりを守って、友達と仲よく運動しようとしている。 ○友達と協力して用具の準備や片付けをしようとしている。	○運動遊びの行い方や動き方を知っている。 ○友達のよい動き方を見付けて、自分の動きに取り入れている。 ○自分で選んだ場で、姿勢や人数、方向などの条件や用具の使い方を変えている。	○姿勢や方向を変えて、体のバランスをとる動きができる。 ○速さやリズム、方向を変えて、体を移動する動きができる。 ○用具を操作し、用具に合わせた動きができる。
	1 準備運動や体ほぐしの運動 2 用具や場の準備 3 学習課題の確認 新しい動きや動き方を見付けて、友達とやってみよう。 4 いくつかの場での、好きな遊びの選択及び動き方の工夫 5 振り返り・片付け	○友達とぶつからない十分な間隔があるか、場の安全に気を付けてようとしている。		○力の入れ方を変えて力試しの動きができる。

4 本時の展開（4／6時間）

本時の目標

- 姿勢や方向を変えて体のバランスをとる動きができるようにするとともに、用具を操作し、用具に合わせた動きができるようにする。（運動）
- 多様な動きをつくる運動遊びに進んで取り組み、きまりを守り仲良く運動することができるようにする。（態度）
- 友達のよい動きを見付けることができるようにする。（思考・判断）

※本時では、運動についての思考・判断を主として評価する。

主なねらい・学習活動	教師の働きかけ・評価（☆）
<p>1 準備運動をする。</p> <p>2 場や用具の準備をする。</p> <p>3 本時の学習課題を確認する。</p> <div data-bbox="233 748 722 824" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>友達と一緒に、バランスランドやボールランドに挑戦しよう。</p> </div> <p>4 バランスランドでの遊び方や約束を知る。</p> <p>5 バランスランドで、体のバランスをとる運動遊びをする。</p> <div data-bbox="233 1032 722 1312" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  </div> <p>6 ボールランドの遊び方や約束を知る。</p> <p>7 ボールランドで、用具を操作する運動遊びをする。</p> <div data-bbox="233 1487 722 1800" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  </div> <p>8 学習の振り返りをする。</p> <p>9 整理運動と片付けをする。</p>	<div data-bbox="759 568 1374 658" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; background-color: #f8d7da;"> <p>ここでは、動きをじっくりと楽しんで経験し、動きを確認しながら習得する時間とする。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 心と体をほぐすような運動を取り入れる。 活動の場や用具の使い方など、安全に運動遊びができるよう約束を徹底する。 回る、寝ころぶ、起きるなどの動きは、一人で行ったあとに、ペアで見合ったりグループ内で見合ったりする時間を設定し、動きのよいところを確認したり、姿勢や方向を変えていっしょに行ったりする。 座る、立つなどの動きでは、動きのよいペアやグループを取り上げ、児童がよい動きに気付くことができるようにする。 <div data-bbox="759 1055 1374 1290" style="border: 1px solid black; padding: 10px;">  <p>〇〇さんの動き方はとっても上手だね。腕を引いて、しっかり反動をつけてるね。</p> <p>〇〇さんと△△さんの動き方はとっても上手だったけど、どんなことに気を付けたら上手に回れたのかな？</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ボールを投げて捕るなどの動きは、一人からペア、ペアからグループへと人数を変えながら、活動できるようにする。 一つの動きでも、高さや向きなどを変えて行うよう助言し、いろいろな投げ方や捕り方を経験できるようにする。 ゲーム化することで、児童の関心・意欲を高める。 <div data-bbox="759 1610 1374 1733" style="border: 1px solid black; padding: 10px;">  <p>〇〇さんが言ったように、ボールを真上に投げる時はひざを曲げて弾みをつけるといいね。</p> </div> <div data-bbox="759 1744 1358 1879" style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #fff3cd;"> <p>☆友達のよい動きを見付けている。 【運動についての思考・判断②】 （観察・学習カード）</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 自分や友達の動き方でよかったことを発表したり、学習カードに記入したりする場を設ける。

5 観点別評価の進め方

(1)「運動についての思考・判断」の評価について

運動についての思考・判断の評価では、技能（動き）を身に付けるために、運動する場や練習方法を選んだり、技能（動き）のこつを見付けたり、簡単な作戦を立てたりすることなど、自己やチームの課題解決に向けた取組を評価する。

次の表は、「評価の観点及びその趣旨」と「評価規準の設定例」（第2編）を示したものである。教師は、児童が自己の課題の解決を目指して運動の仕方を工夫できるように、運動する場や練習方法の提示、作戦を立てるなどの時間の設定等、児童が課題解決に向け、行い方などを十分に工夫できる授業をつくる必要がある。また、そのためには、練習の仕方や動き方など「工夫する」ための必要な知識を押さえておくことが前提となる。その上で、「～見付けたり、～選んだり」しているなどの学習状況を評価することになる。

「運動についての思考・判断」の「評価の観点の趣旨」では、「運動の仕方を工夫している。」と示されている。「工夫する」ためには、運動の行い方を確認しながらじっくりと動きに取り組み、もっと楽しく行うために試行錯誤する時間を確保することが大切になってくる。本資料の多様な動きをつくる運動遊びでは、用具や場を変えたり方向やリズムを変えたりして、動きを試しながら自分のできる動きを広げていくことが重要であり、そのために動く方向や人数、用具の使い方などを工夫している姿を評価する。

<評価の観点及びその趣旨>

自己の能力に適した課題の解決を目指して、運動の仕方を工夫している。

<評価規準の設定のキーワード>

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
前提の知識	〇〇の行い方を知るとともに	動き方や技のポイントを知るとともに	課題の解決の仕方を知るとともに
課題解決	友達のよい動き方を見付けている。	自分の力に合った課題を選んでいる。	自分の課題に合った練習の場や方法を選んでいる。
工夫	いろいろな運動の仕方を見付けている。	練習方法や練習の場を選んでいる。	〇〇の挑戦の仕方を選んでいる。

←試しながらできる動きを広げるための工夫→

←動きや技能を高めるための工夫→

(2)「学習活動に即した評価規準」に基づく児童の姿の例と支援の例

(学習活動に即した評価規準)

友達のよい動きを見付けている。

友達の動きのよさを具体的に言える。

(「十分満足できる」状況と判断する「児童の具体的な姿」の例)

よい動きを知り、それに合った動きをしている友達を認識している。

(「おおむね満足できる」状況と判断する「児童の具体的な姿」の例)

<具体的な支援の例>

よい動きの児童を手本にし、気を付けるポイントを助言する。

よい動きが分からず、自分の動きが変わらない。

(つまずきの例)

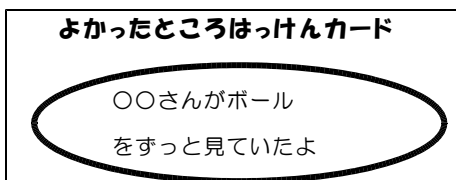
(3)「運動についての思考・判断」の評価方法の例

次に示すのは、運動についての思考・判断の評価方法の例である。①②③については、それぞれが同等な取扱いではなく、①の学習カードへの記述や②の授業時の観察に重きを置きながら評価し、必要な場合には③の聞き取りなどを行うことが考えられる。

① 学習カードの活用

- ・ 友達のよい動き方を見付けたことをはっけんカードに記入できるようにする。
- ・ はっけんカードを学習カードに貼ったり、体育館や教室に掲示する。動きを見合う活動では、相互に個別のカードを交換できるようにする。
- ・ 学習カードには、表1のように思考・判断に関する振り返りをするための項目(評価規準を基にしたもの)を設定する。
- ・ はっけんカードを中心とした学習カードの記入状況を参考にし、評価する。

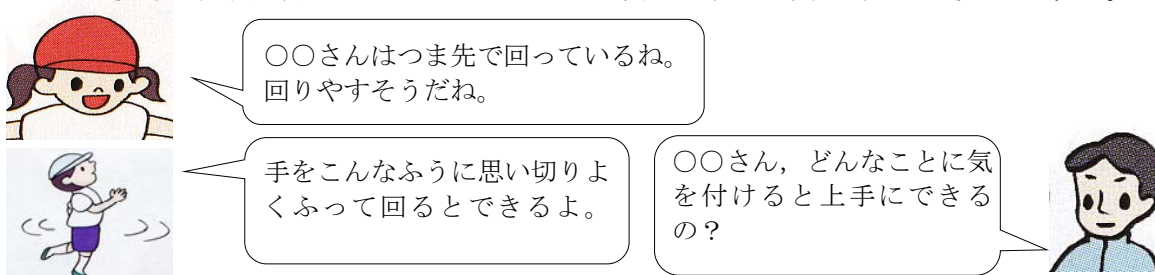
表1



・ うごきかたのこつがわかりましたか。	☆	○	△
・ おともだちのうごきのよいところを見つけることができましたか。	☆	○	△
・ じぶんにあったあそびのぼをえらびましたか。	☆	○	△

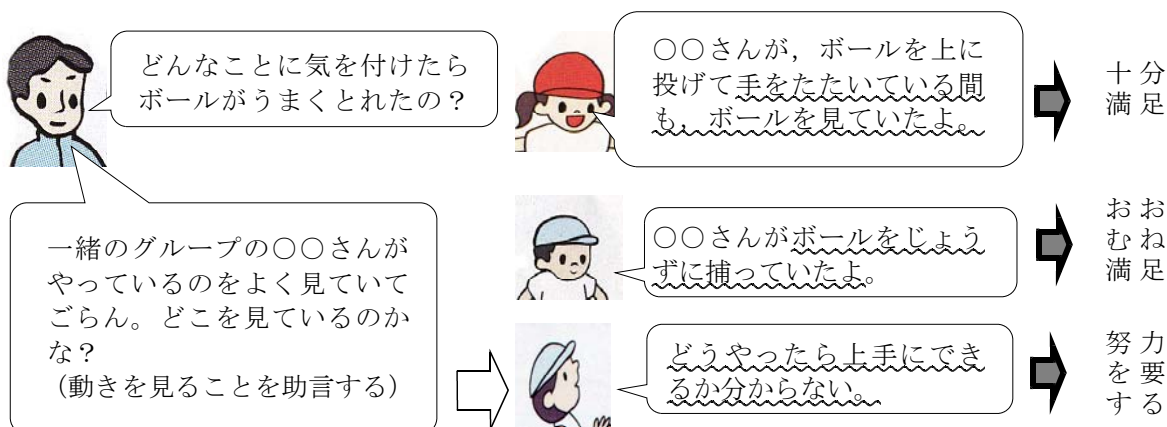
② 授業時の観察

- ・ 児童のつぶやきや、ペア及びグループでの教え合いの中での言葉を聞き取る。
- ・ 教師の発問(動きのポイントやこつに関して)に対する児童の反応を観る。



③ 聞き取り

- ・ 学習カードや観察による評価を補うために直接児童から動きのこつを聞き取る。



- ・ 「努力を要する」状況の児童には、助言や補助などの適切な支援をしながら、聞き取る。

1 単元の目標

- (1) ハードルをリズムカルに走り越えることができるようにする。 (技能)
- (2) ハードル走に進んで取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。 (態度)
- (3) 自分の力に合った課題の解決の仕方、競走（争）や記録への挑戦の仕方を工夫することができるようにする。 (思考・判断)

2 単元の評価規準

	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・競争したり、目標記録に挑戦したりする楽しさや喜びに触れることができるよう、ハードル走に進んで取り組みようとしている。 ・約束を守り、友達と助け合って練習や競走（争）をしようとしている。 ・用具の準備や片付け、計測や記録などで、分担された役割を果たそうとしている。 ・運動する場を整備したり、用具の安全を保持したりすることに気を配ろうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の解決の仕方を知るとともに、自分の課題に合った練習の場や方法を選んでいる。 ・仲間との競走（争）や自分の記録への挑戦の仕方を知るとともに、自分に合った競走（争）のルールや記録への挑戦の仕方を選んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハードルをリズムカルに走り越えることができる。
学習活動に即した評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ①ハードル走を楽しむための活動に進んで取り組みようとしている。 ②約束を守り、友達と助け合って練習や競走（争）をしようとしている。 ③計測や記録など分担された役割を果たそうとしている。 ④場や用具の安全を保持しながら、運動しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①ハードルをリズムカルに走り越えるためのポイントを知るとともに、自分の課題を見付けている。 ②課題の解決の仕方を知るとともに、自分の課題に合った練習の場や用具を選んでいる。 ③自分の記録への挑戦の仕方を知るとともに、自分に合った競走（争）の仕方を選んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①自分に合った易しい場において、インターバルを決まった歩数で最後まで走り越すことができる。 ②ハードルを低く走り越すことができる。

3 指導と評価の計画（6 時間）

学習指導要領には、2 学年のまとまりで指導内容が示されていることから、2 学年にわたり指導する場合には、それぞれの学年における指導内容や指導方法、評価規準を整理し、

下表のような「指導と評価の計画」に基づき、授業を行っていくことが大切である。

学年	時間	主なねらい・学習活動	学習活動に即した評価規準（評価方法）		
			運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
第5学年		1 用具や場の準備 ・用具の準備の仕方や安全な行い方を確認する。 2 学習課題の確認 第1ハードルを決まった足で踏み切って走り越そう。	第5学年では、自分に合ったインターバルを見つけて、3～5歩のリズムでハードルを走り越すことができるようにする。		
		3 グループでの活動 ・自分の踏み切り足を知ることができるよう観察し合う。 4 タイム計測 5 振り返り・片付け	○準備、片付けを協力して行おうとしている。（観察） ○安全を確認しながら活動しようとしている。（観察） ○約束を守り、助け合って運動をしようとしている。（観察）	○課題の解決の仕方を知るとともに、自分の課題に合った練習の場や用具を選んでいる。（観察・学習カード） ○自分に合ったインターバルの長さを見付けている。（観察・学習カード）	○第1ハードルを決まった足で踏み切り、ハードルを走り越えることができる。（観察） ○自分に合った易しい場において、インターバルを3～5歩のリズムで走り越すことができる。（観察）
第6学年		1 用具や場の準備 2 学習課題の確認 自分に合ったインターバルを見つけて、3～5歩で走り越そう。	第6学年では、ハードルをリズムカルに走り越すために、自分に合った課題を選び、課題別グループに分かれて学習する。		
		3 グループでの活動 ・自分に合ったインターバルの長さを、グループで教え合いながら見付ける。 4 タイム計測 5 振り返り・片付け	④場や用具の安全を保持しながら、運動しようとしている。（観察）		
第6学年	1	1 用具や場の準備 2 学習課題の確認 3～5歩のリズムで、ハードルを低く走り越そう。	①ハードル走を楽しむための活動に進んで取り組もうとしている。（観察）		②ハードルを低く走り越すことができる。（観察）
	2	3 グループでの活動 ・ハードル上で踏み切り位置のポイントを知り、観察し合う。 4 タイム計測 5 振り返り・片付け			
	3	1 用具や場の準備 2 学習課題の確認 【共通課題】 自分に合ったインターバルを決まった歩数で最後まで走り越そう。 3 グループでの活動 【個別課題】		①ハードルをリズムカルに走り越えるためのポイントを知るとともに、自分の課題を見付けている。（観察・学習カード）	
	4	■ハードル間をまっすぐ走るために、スコープ等を使ってグループで見合い、教え合う。	②約束を守り、友達と助け合って練習や競走（争）をしようとしている。（観察）	②課題の解決の仕方を知るとともに、自分の課題に合った練習の場や用具を選んでいる。（観察・学習カード）	

	5 (本時)	<p>■振り上げ足の動きや位置を牛乳パックを使ってグループで確認する。</p> <p>■振り上げ足や抜き足の動きや位置を牛乳パックやゴムを使ってグループで確認する。</p> <p>■ハードルを低く走り越すために、踏み切り位置に目印を置いて、グループで確認する。</p> <p>4 タイム計測 5 振り返り・片付け</p>			①自分に合った易しい場において、インターバルを決まった歩数で最後まで走り越すことができる。 (観察)
	6	1 記録会 ・自分の目標記録のクリアを目指して、グループで協力し合い記録会をする。	③計測や記録など分担された役割を果たそうとしている。 (観察)	③自分の記録への挑戦の仕方を知るとともに、自分に合った競走(争)の仕方を選んでいる。 (観察・学習カード)	

4 本時の展開 (5 / 6 時間)

本時の目標

- 自分に合った易しい場において、インターバルを決まった歩数で、最後まで走り越すことができるようにする。 (技能)
- 約束を守り、友達と助け合って練習や競走(争)をすることができるようにする。 (態度)
- 課題の解決の仕方を知るとともに、自分の課題に合った練習の場や用具を選ぶことができるようにする。 (思考・判断)

※本時では、運動の技能を主として評価する。

主なねらい・学習活動	教師の働きかけ・評価 (☆)
1 用具や場の準備をする。 ・準備 ・準備運動 ・学習課題の確認	・走る児童が自分に合ったインターバルの距離を、インターバルカードで示し、同じグループの児童がインターバルメジャーの印に合わせてハードルを設置できるようにする。 ・グループでの観察をしやすいように、課題解決のための用具(スコープ等)をグループごとに用意しておく。 ・主運動にかかわる体の部位のストレッチを行う。
【共通の課題】 自分に合ったインターバルを決まった歩数で、最後まで走り越そう。	
2 課題別グループで練習をする。 ※自分に合った課題を選び、課題別グループに分かれて活動する。 【個別の課題】 ★同じ調子でリズムカルに走り越すための課題 ■インターバルをまっすぐに走る。 ■振り上げ足の動きや位置を確認する。	・各グループにおいて、共通の課題の解決に向けた個別の課題を確認できるようにする。また、課題解決のための用具の使い方を確認する。 ・自分で気付いたことや友達、教師からの言葉の記録ができるように工夫する。 [課題解決のために工夫した用具] →振り上げ足シール・スコープ 振り上げ足にシールを貼ることで、振り上げ足を意識できるようにする。また、振り上げ足の上げ方だけでなく、ハードル間をバランスをくずさずにまっすぐ走れているかどうかを、スコープで観察できるようにする。 →牛乳パック 振り上げ足を下ろす地点に牛乳パックを置き、素早く踏む

	ように意識できるようにする。
<div>■振り上げ足や抜き足の動きや位置を確かめる。</div> <div>★より速くリズムカルに走り越すための課題</div>	→牛乳パックと踏み出しロープ 抜き足を下ろす地点にロープを張り、抜き足の1歩を大きく踏み出すように意識できるようにする。
<div>■ハードルを低く走り越す。</div>	→踏み切り位置マーカー 踏み切り位置を3段階に分け、どの地点から踏み切って走り越しているかを観察できるようにする。
3 タイム計測をする。 4 振り返りと評価をする。 ・学習カードへの記入 ・後片付け ・整理運動	<div>☆自分に合った易しい場において、インターバルを決まった歩数で最後まで走り越すことができる。 【運動の技能①】（観 察）</div> ・うまくなったことやそのこつ、友達からのアドバイスを紹介し、称賛する。

5 観点別評価の進め方

(1)「運動の技能」の評価について

運動の技能の評価では、運動を楽しく行うための基本的な動きや技能を身に付けているかを評価する。

本事例では「ハードルをリズムカルに走り越えられたか。」といった走り方やハードルの越え方などの動きの質の高まりが評価の対象である。つまり、単に何秒で走れたのかといった数値で評価することではないことに留意しておく必要がある。

また、第1学年及び第2学年、第3学年及び第4学年については、単に動きが身に付けばよいということではなく、各種の運動を楽しく行う中で基本的な動きを広く身に付けていくことが大切であることに留意する。

動きの質を高めるためには、どの児童も技能の向上に向けた学習に取り組むことができるように、身体能力（技能及び体力）などの個人差に合わせた学習課題の設定や学習の場づくりなどの工夫をしていくことが大切である。その上で、技能（動き）を身に付けているかを評価することになる。

授業においては、学習課題の設定として、50m走のタイムとハードル走のタイムの差などを用いて得点化し、個々の走能力に応じた目標設定ができるようにすることが考えられる。また、インターバルやハードルの材質、高さを変えるなど、個に応じた学習の場を工夫することも技能の向上に向けた授業づくりの大切なポイントになる。

このように、どの児童にとっても技能の向上につながるような学習条件を整えた上で、インターバルの走り方



本事例では、ウレタン製のバーの中央付近を切ったハードルを製作し、ハードル走への恐怖心をなくす工夫をしている。
※第6学年では、木製のハードルを併用し、中学校でのハードル走につながるように計画している。



〈インターバルカード〉



〈インターバルメジャー〉

※インターバルカードで示された距離に合わせてハードルを移動

やハードルの越え方について学習できるようにし、その動きの質の高まりを評価していくことが、「運動の技能」の評価となる。

次の表は、「評価の観点及びその趣旨」と「評価規準の設定例」等（第2編）を示したものである。「評価規準の設定例」では、動きや技能を具体的に示している。

<評価の観点及びその趣旨>

運動を楽しく行うための基本的な動きや技能を身に付けている。

<評価規準の設定のキーワード>

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
盛り込むべき事項	基本的な動きや各種の運動の基礎となる動き	基本的な動きや各種の運動の基礎となるよい動き	〇〇について、〇〇するための基本的な技能
設定例	〇〇や〇〇をすること（動き）ができる。	〇〇や〇〇をすること（動きや技能）ができる。	〇〇や〇〇をすること（動きや技能）ができる。

← 楽しみながら広く動きを身に付ける →

← 特性に応じた動きや技能を高める →

（2）「学習活動に即した評価規準」に基づく児童の具体的な姿と支援の例

（学習活動に即した評価規準）

自分に合った易しい場において、インターバルを決まった歩数で最後まで走り越すことができる

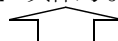
走り越えた後も、体がぶれずに安定している。



自分に合った場で、最後のハードルまで、インターバルを同じ歩数で走り越えている。

（「十分満足できる」状況と判断する「児童の具体的な姿」の例）

（「おおむね満足できる」状況と判断する「児童の具体的な姿」の例）



「走る」と「越す」の動きがスムーズにつなげられないまま走り越している。

（つまずきの例）

<具体的な支援の例>

よい動きを観察したり、ハードルの高さや材質を変えた場で練習をしたりする。



（3）「運動の技能」における指導と評価の一体化について

行動の観察が中心となる運動の技能の評価を適切にするためには、しっかりと技能（動きの質）が高まるように指導することが重要である。そのためには児童が互いに教え合いながら、進んで技能を高める授業づくりが必要となる。以下に、児童にとって技能のポイントが分かりやすく、高まりが実感できる支援の例を紹介する。

①スコープによる動きのポイントの観察

動きの質を高めるためには、動きのこつやポイントを把握しやすいように、音や視覚を生かした教材づくりなどの支援が効果的である。右の写真は、ゴール付近からスタート地点に向かってスコープ（走っている様子が見えるようにボール紙などをくりぬいたもの）をのぞき、走り越してくる友達の



スコープ

振り上げ足（シール）を観察している様子である。振り上げ足スコープをのぞくことで、他の動きを気にすることなく振り上げ足だけに集中できるようになり、各自の課題と照らし合わせて、動きの質が高まっているかどうかを観察することができる。

②牛乳パックと踏み出しロープによる動きの高まりの観察

インターバルを決まった歩数で最後まで走り越すことができるようになるためには、一連の動作がある程度安定して行われるようになる必要がある。例えば、振り上げ足をまっすぐ振り下ろせないために、「走る」と「越す」の動きがスムーズにつながげられないまま走り越している児童には、ハードルの先に牛乳パックを置き、それを踏みつぶすようにする。振り上げ足をまっすぐ下ろす動作は、牛乳パックを踏みつぶす動作とよく似ており、児童にとって理解しやすい。また、振り上げ足に続き、抜き足を下ろす地点に踏み出しロープを置くことは、抜き足の1歩を大きく踏み出す目印となる。この用具を用いることにより、牛乳パックがつぶれる音や牛乳パックのつぶれ方等で動きのよさが観察できる。

つまり、ハードル走のポイントとなる一瞬の動きを音と視覚で捉えることで、動きの質の高まりが実感しやすくなる。



「走る」と「越す」の動きがスムーズにつながっている



・振り上げ足をまっすぐ振り下ろすとともに、抜き足の1歩を大きく踏み出し、ハードルをスムーズに走り越えている。

<つまずきの例>



・振り上げ足をまっすぐ振り下ろすことができず、抜き足がロープより手前についている。

<具体的な支援の例>



よい動きを観察して、「越す+走る」のイメージをもつ。

「牛乳パックを強く踏みつぶす感じ。」で「抜き足の1歩は、ロープを越えるように大きく。」

試す
確かめる



「牛乳パックを踏みつぶす。(越す)」+「走る」

↓
「足はまっすぐ踏みつぶす感じ。」
「走るときの1歩は、ロープを越えて。」

体育科（保健領域） 事例 5

単元名 毎日の生活と健康

第 3 学年 G（1）

キーワード：

保健領域における指導
と評価の全体像

1 単元の目標

- （1）健康な生活について関心をもち、学習活動に意欲的に取り組もうとすることができるようにする。
- （2）健康な生活について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動により、実践的に考え、判断し、それらを表すことができるようにする。
- （3）健康の状態、1日の生活の仕方、身の回りの環境について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解することができるようにする。

2 単元の評価規準

	ア 健康・安全への 関心・意欲・態度	イ 健康・安全についての 思考・判断	ウ 健康・安全についての 知識・理解
単 元 の 評 価 規 準	健康な生活について関心をもち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	健康な生活について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、実践的に考え、判断し、それらを表している。	健康の状態、1日の生活の仕方、身の回りの環境について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。
学 習 活 動 に 即 ち た 評 価 規 準	①健康な生活について、教科書や資料などを見たり、自分の生活を振り返ったりするなどの学習活動に進んで取り組もうとしている。 ②健康な生活について、課題の解決に向けての話し合いや発表などの学習活動に進んで取り組もうとしている。	①健康な生活について、教科書や資料などを基に、課題や解決の方法を見付けたり、選んだりするなどして、それらを説明している。 ②健康な生活について、学習したことを自分の生活と比べたり、関係を見付けたりするなどして、それらを説明している。	①健康の状態は、主体の要因や周囲の環境の要因がかかわっていることについて、言ったり、書いたりしている。 ②毎日を健康に過ごすには、食事、運動、休養及び睡眠の調和のとれた生活を続けることが必要であることについて、言ったり、書いたりしている。 ③毎日を健康に過ごすには、体の清潔を保つことが必要であることについて、書いている。 ④毎日を健康に過ごすには、明るさの調節や換気などの生活環境を整えることが必要であることについて、言ったり、書いたりしている。

※「単元の評価規準」については、第2編で示した「評価規準に盛り込むべき事項」を引用した。また、「学習活動に即した評価規準」は同資料の「評価規準の設定例」を参考に本単元が4時間であることを踏まえて作成した。

3 指導と評価の計画（4時間）

時間	ねらい・学習活動	評価規準			評価方法
		関心 意欲 態度	思考 判断	知識 理解	
1	<p>（ねらい）健康な生活について、教科書や資料などを見たり，自分の生活を振り返ったりするなどの学習活動に進んで取り組もうとし，健康の状態は、主体の要因や周囲の環境の要因がかかわっていることについて理解することができるようにする。</p> <p>1 生活場面のイラストを基に，身近な生活における元気な状態をたくさん出し合い，心や体の健康な状態に対するイメージを広げる活動に取り組む。</p> <p>2 健康な状態は，主体の要因と環境の要因から成り立っていることを資料を基に調べる。</p> <p>3 心や体の健康の状態がこれからの生活につながることにについて知る。</p>	①			<p><関・意・態－①>（学習活動1，2）</p> <p>健康な生活について，教科書や資料などを見たり，自分の生活を振り返ったりするなどの学習活動に進んで取り組もうとしている状況を【観察】で捉える。（ア－①）</p> <p><知・理－①>（学習活動3）</p> <p>健康の状態は，主体の要因や環境の要因がかかわっていることについて，言ったり，書いたりしている状況を【観察・ワークシート】で捉える。（ウ－①）</p>
2	<p>（ねらい）1日の生活の仕方について理解し，教科書や資料などを基に，課題や解決の方法を見付け，それらを説明することができるようにする。</p> <p>1 健康な生活の具体的な事柄について，資料を基に考える。</p> <p>2 健康における主体の要因として，3食をきちんと食べること，早寝早起きをすること，外で活発に運動することなどを生活の中に規則正しく位置付けていくことが大切であることを知る。</p> <p>3 学習を振り返り，自分の生活の課題や解決方法について見付けたことを説明する。</p>		①	②	<p><知・理－②>（学習活動2）</p> <p>毎日を健康に過ごすには，食事，運動，休養及び睡眠の調和のとれた生活を続けることが必要であることについて，言ったり，書いたりしている状況を【観察・ワークシート】で捉える。（ウ－②）</p> <p><思・判－①>（学習活動3）</p> <p>健康な生活について，教科書や資料などを基に，課題や解決の方法を見付けてそれらを説明している状況を【観察】で捉える。（イ－①）</p>

3	<p>(ねらい) 体の清潔について理解し、学習したことと自分の生活と比べたり、関係を見付けたりするなどして、それらを説明することができるようにする。</p> <p>1 手やハンカチ、衣服などの清潔と健康な状態について話し合う。</p> <p>2 手の汚れや、衣服の汚れについての実験を行い、体の清潔について知る。</p> <p>3 学習を振り返り、体の清潔について学習したことを自分の生活に当てはめて、考える。</p>			<p><知・理－③> (学習活動 2)</p> <p>毎日を健康に過ごすには、体の清潔を保つことが必要であることについて、書いていることを【ワークシート】で捉える。(ウ－③)</p> <p>③ <思・判－②> (学習活動 3)</p> <p>健康な生活について、学習したことを自分の生活と比べたり、関係を見付けたりするなどして、それらを説明している状況を【ワークシート】で捉える。(イ－②)</p>
4	<p>(ねらい) 健康な生活について、課題の解決に向けての話し合いや発表などの学習活動に進んで取り組み、身の回りの環境について理解したことを言ったり、書いたりすることができるようにする。</p> <p>1 健康な生活における環境の要因について資料を基に話し合う。</p> <p>2 教室模型を使った実験を通して、換気の意味について調べる。</p> <p>3 自分の生活を見直すことを通して、生活環境を整えるために自分でできることを考える。</p> <p>4 明るさの調節など、生活環境を整えることが、健康な毎日につながることを知る。</p>	②	②	<p><関・意・態－②> (学習活動 1, 2)</p> <p>健康な生活について課題の解決に向けての話し合いや発表などの学習活動に進んで取り組みようとしている状況を【観察】で捉える。(ア－②)。</p> <p><知・理－④> (学習活動 4)</p> <p>毎日を健康に過ごすには、明るさの調節や換気などの生活環境を整えることが必要であることについて、言ったり、書いたりしている状況を【観察・ワークシート】で捉える。(ウ－④)</p>

4 観点別評価の進め方

(1) 基本的な考え方

本単元は、小・中・高等学校を通じて行われる保健学習の最初の単元であり、これから始まる保健学習への期待が膨らむよう、児童の生き生きとした状況が教室中にあふれるような授業の構成をしたい。そこで、導入場面では、健康の概念について、身近な生活における児童の元気な状態を取り上げて、具体的に健康についてのイメージを広げていけるような学習展開とし、評価については関心・意欲・態度を中心とした。

また、本単元は健康な生活とわたし、1日の生活の仕方、身の回りの環境と大きく三つの学習のまとまりで構成されるが、知識を確実に習得し、習得した知識を自分たちの生活に当てはめたり関連付けたりして考えることができるよう、児童が主体的に学習を進められるような授業づくりをし、それを踏まえた評価を進めていくこととした。

単元の評価を、効果的・効率的に進めるために、3観点の評価を重点化する必要がある。そこで、1時間の評価の観点を2観点以下にした。

さらに、評価の信頼性を高めるため、関心・意欲・態度の評価に当たっては、事例における1時間目の1から2までの活動にまたがって計画するなどの工夫をした。例えば、児童全員を一つの活動で評価することが困難な場合には、同じ評価基準で評価できる活動をいくつか設定し、1時間の中で全員の学習状況を評価していくことも考えられる。


本実践例では、単元の前半は話す活動を重視し、単元の後半は書く活動を重視する計画とした。そのため、思考・判断の観点において、単元の前半は観察を中心として、単元の後半はワークシートを中心として評価した。ただし、小学校第3学年であることを踏まえ、単元の後半においても、言語を通して「説明する」ことを評価する際に、書くことのみに限定することなく、ワークシートを中心としつつ、観察で補うことも考えられる。ワークシートによる評価においては、評価する観点に応じた項目を設定することが重要である。例えば、ワークシートにより思考・判断を評価する際には、学習したことと自分の生活とを比べたり、関係を見付けたりするなど、思考の過程が分かるような項目を工夫することが考えられる。

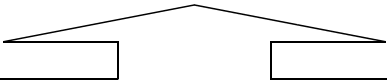
観察による評価においては、どの児童にも当てはまる観察の視点を明確にしておくことなどが重要である。また、場合によっては児童と対話し学習状況を確認するなど、適切な評価ができるよう配慮したい。

（２）観点別評価の実践


各観点における児童の学習状況については、具体的にその状況を捉え、その学習状況にある背景と指導の方向を考えていくことが大切である。

①健康・安全への関心・意欲・態度

学習活動に即した 評価基準	具体的な評価方法の例
アー① 健康な生活について、教科書や資料などを見たり、自分の生活を振り返ったりするなどの学習活動に進んで取り組もうとしている。	<p>第1時に、元気な状態を出し合う場面で、教科書や生活場面のイラストなどの資料で調べたり、ブレインストーミングなどにより、自分の生活について話したりする活動に取り組んでいる状況を観察し、判断していく。</p> <p><「十分満足できる」状況にあると判断するポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブレインストーミングを行っている時に、教師からの働きかけを細かく行わなくても、自ら進んで取り組んでいたりと、集中して取り組んでいたりとしている。 <p><「努力を要する」状況と判断した児童への手立て></p> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>このような状況は、ブレインストーミングの手順や何を言えばよいか分からないといった原因が考えられるため、進め方をわかりやすい言葉で説明したり、具体例を示したりするなどの指導を積極的に行う。</p> </div>

アー②	健康な生活について、課題の解決に向けての話し合いや発表などの学習活動に進んで取り組もうとしている。	<p>第4時に、健康の状態を保つための環境の要因として考えられることについて、自分とは違う視点の意見を真剣に聞いていたり、話し合いや発表などの学習活動に積極的に取り組もうとするなどの状況などを観察し、判断していく。</p> <p>＜「十分満足できる」状況にあると判断するポイント＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級での話し合いの際、メモを取ったり、内容を確認したりするなど、発言を聞き逃さないで集中して取り組んでいる。 <p>＜「努力を要する」状況と判断した児童への手立て＞</p> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>このような状況は、友だちの意見を聞いていなかったり、発表する内容が固まっていなかったりすることが予想されるので、みんなで話すことの大切さについて話したり、資料等で発表する内容を確認したりする。</p> </div>


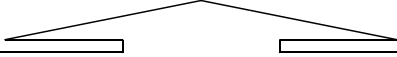

②健康・安全についての思考・判断

学習活動に即した評価規準		具体的な評価方法の例
イー①	①健康な生活について、教科書や資料などを基に、課題や解決の方法を見付けたり、選んだりするなどしてそれらを説明している。	<p>第2時に、健康によい1日の生活の仕方について意見を出す場面で、教科書や資料などを基に、課題の解決の方法として規則正しい生活があるなどの考えを説明している状況を観察し、判断していく。</p> <p>＜「十分満足できる」状況にあると判断するポイント＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活の改善点について、学習したことを基に理由を付け加えたり、他の考え方との相違点や類似点などを付け加えて説明している。 <p>＜「努力を要する」状況と判断した児童への手立て＞</p> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>このような状況は、課題が思いつかない、何をすればよいかわからないなどの原因が考えられるため、児童が選択できるように教師の用意した資料を提示したり、いくつかの課題の解決方法を提示したりする。</p> </div>
イー②	②健康な生活について、学習したことを自分の生活と比べた	<p>第3時に、手やハンカチ、衣服などの清潔と健康の状態について考える場面で、学習したことと自分の生活とのつながりを見付け説明している状況を、ワークシートから判断していく。</p>

	<p>り、関係を見付けたりするなどして、それらを説明している。</p>	<p><「十分満足できる」状況にあると判断するポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習したことと自分の生活とのつながりを踏まえて、健康な生活への改善策まで触れている。 <p><「努力を要する」状況と判断した児童への手立て></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>このような状況は、自分の生活と学習内容が結び付けられないことなどが原因と考えられるため、具体的な生活場面を想起し、自分に置き換えて考えるよう助言する。</p> </div>
--	-------------------------------------	---

③健康・安全についての知識・理解

	学習活動に即した評価規準	具体的な評価方法の例
ウー①	<p>健康の状態は、主体の要因や周囲の環境の要因がかかわっていることについて、言ったり、書いたりしている。</p>	<p>第1時に、現在や今後の明るく楽しい生活につながる健康の状態について、主体や環境の要因から成り立っていることを話合いで発言したり、ワークシートに書いたりした内容から、判断する。</p> <p><「十分満足できる」状況にあると判断するポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康が主体と環境の要因から成り立っていること、健康が明るく楽しい生活につながることなどについて、具体例を挙げて言ったり、書いたりしている。 <p><「努力を要する」状況と判断した児童への手立て></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>このような状況は、健康の状態が主体の要因と環境の要因とで成り立っているといった学習内容が定着していないことが原因として考えられるため、身近な事例を示したり、必要に応じて学習を振り返えらせたりし、個別に説明する。</p> </div>
ウー②	<p>毎日を健康に過ごすには、食事、運動、休養及び睡眠の調和のとれた生活を続けることが必要であることについて、言ったり書いたりして</p>	<p>第2時に、毎日を健康に過ごすには、3食きちんと食べること、早寝早起きをすること、外で活発に運動することなどを生活の中に規則正しく位置付け、続けていくことが必要であることを話合いで発言したり、ワークシートに書いたりした内容から、判断する。</p> <p><「十分満足できる」状況にあると判断するポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事、運動、休養及び睡眠の調和のとれた生活を続けることが必要であることについて、理解したことを具体例を

	いる。	<p>挙げて言ったり，書いたりしている。</p> <p>＜「努力を要する」状況と判断した児童への手立て＞</p> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>このような状況は，調和のとれた生活とそれらを続けることの必要性がうまく結び付いてないことが原因として考えられるため，調和のとれた生活について教科書等で個別に確認し，そのことを続けることで得られる効果等を具体的に説明する。</p> </div>
ウー③	毎日を健康に過ごすには，体の清潔を保つことが必要であることについて，書いている。	<p>第3時に，健康における環境の要因について，体やハンカチ，衣服などの清潔を保つことが必要であることなどを，ワークシートに書いた内容から，判断する。</p> <p>＜「十分満足できる」状況にあると判断するポイント＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境の要因としての体やハンカチ，衣服の清潔を保つことについて，理解したことを具体例を挙げて書いている。 <p>＜「努力を要する」状況と判断した児童への手立て＞</p> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>このような状況は，体やハンカチ，衣服の清潔を保つことと健康の状態がうまく結び付いてないことが原因として考えられるため手やハンカチ，衣服の清潔を保つことと健康の状態との関係を図示するなど，必要に応じて個別に説明する。</p> </div>
ウー④	毎日を健康に過ごすには，明るさの調節や換気などの生活環境を整えることが必要であることについて，言ったり，書いたりしている。	<p>第4時に，健康における環境の要因について，換気や明るさの調節なども含め，身の回りの生活環境として自分の生活に関連付けて発表したり，ワークシートに書いたりした内容から判断する。</p> <p>＜「十分満足できる」状況にあると判断するポイント＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康の状態と生活環境を整えることについて，理解したことを具体例を挙げて言ったり，書いたりしている。 <p>＜「努力を要する」状況と判断した児童への手立て＞</p> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>このような状況は，生活環境を整えることと健康の状態がうまく結び付いていないことが原因として考えられるため，生活環境を整えない場合に起こる健康影響を説明したり，わかりやすいイラストなどで図示するなど，視覚を通して学習内容を整理したりする。</p> </div>

5 観点別評価の総括

本単元では、学習活動に即した評価規準に照らし、「十分満足できる」状況（A）、「おおむね満足できる」状況（B）、「努力を要する」状況（C）により評価を行い、Aが半数以上の場合にはA、Cが半数を超える場合にはC、それ以外はBとする考え方に立って総括を行った。また、AとCが同一観点に混在する場合は、Bに置き換えて集約している。

（例 AとCが各1つ→Bが2つ）

	観 点	学習活動に即した評価規準	第 1 時	第 2 時	第 3 時	第 4 時	単元 の 総括
氏 名	健康・安全 への関心・ 意欲・態度	健康な生活について、教科書や資料などを見たり、自分の生活を振り返ったりするなどの学習活動に進んで取り組もうとしている。	B	—	—	—	A
		健康な生活について、課題の解決に向けての話し合いや発表などの学習活動に進んで取り組もうとしている。	—	—	—	A	
	健康・安全 についての 思考・判断	健康な生活について、教科書や資料などを基に、課題や解決の方法を見付けたり、選んだりするなどしてそれらを説明している。	—	C	—	—	B
		健康な生活について、学習したことを自分の生活と比べたり、関係を見付けたりするなどして、それらを説明している。	—	—	B	—	
	健康・安全 についての 知識・理解	健康の状態は、主体の要因や周囲の環境の要因がかかわっていることについて、理解したことを言ったり、書いたりしている。	C	—	—	—	B
		毎日を健康に過ごすには、食事、運動、休養及び睡眠の調和のとれた生活を続けることが必要であることについて、言ったり、書いたりしている。	—	B	—	—	
		毎日を健康に過ごすには、体の清潔を保つことが必要であることについて、書いている。	—	—	B	—	
		毎日を健康に過ごすには、明るさの調節や換気などの生活環境を整えることが必要であることについて、言ったり、書いたりしている。	—	—	—	A	

☆表内の「—」印は、その時間では評価しないこととする。

体育科（保健領域） 事例 6
単元名 育ちゆく体とわたし

第 4 学年 G（2）

キーワード：
健康・安全についての
思考・判断の評価

1 単元の目標

- (1) 体の発育・発達について関心をもち、学習活動に意欲的に取り組もうとすることができるようにする。
- (2) 体の発育・発達について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動により、実践的に考え、判断し、それらを表すことができるようにする。
- (3) 体の発育・発達、思春期の体の変化、よりよく発育・発達させるための生活について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解することができるようにする。

2 単元の評価規準

	ア 健康・安全への 関心・意欲・態度	イ 健康・安全について の思考・判断	ウ 健康・安全についての 知識・理解
単元 の 評 価 規 準	体の発育・発達について関心をもち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	体の発育・発達について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、実践的に考え、判断し、それらを表している。	体の年齢に伴う変化や個人差、思春期の体の変化、よりよく発育・発達させるための生活について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。
学 習 活 動 に 即 した 評 価 規 準	① 体の発育・発達について、教科書や資料などを見たり、自分の生活を振り返ったりするなどの学習活動に進んで取り組もうとしている。 ② 体の発育・発達について、課題の解決に向けての話し合いや発表などの学習活動に進んで取り組もうとしている。	① 体の発育・発達について、学習したことを自分の生活と比べたり、関係を見付けたりするなどして、それらを説明している。 ② 体の発育・発達について、教科書や資料などを基に、課題や解決の方法を見付けたり選んだりするなどして、それらを説明している。	① 体は、年齢に伴って変化すること、体の変化には、個人差があることについて、言ったり、書いたりしている。 ② 思春期には、体つきに変化が起こり、人によって違いがあるものの、男女の特徴が現れることについて、言ったり、書いたりしている。 ③ 思春期には、初経、精通などが起こること、異性への関心も芽生えること、これらは、個人によって早い遅いはあるもののだれにでも起こる、大人の体に近づく現象であることについて、書いている。 ④ 体をよりよく発育・発達させるための生活の仕方には、調和のとれた食事、適切な運動、休養及び睡眠が必要であることについて、書いている。

3 指導と評価の計画（4 時間）

時間	主な学習活動	評価規準			評価方法
		関心 意欲 態度	思考 判断	知識 理解	
1	1 各自の成長記録を基にグラフを作る。 2 自他のグラフの形を比べ、身長 の伸び方について気付いたことを 話し合う。 3 身長は年齢に伴って変化すること や、体の変化には個人差があるこ とを知るとともに、身長の伸びに に伴い体重も増えていくことを知 る。	① ①		①	〈関・意・態－①〉（学習活動 1, 2） 体の発育・発達について、教科書や資料などを見たり、自分の生活を振り返ったりするなどの学習活動に進んで取り組もうとしている状況を【観察】で捉える。 〈知識・理解－①〉（学習活動 3） 体は、年齢に伴って変化すること、体の変化には、個人差があることについて、言ったり、書いたりしている状況を【観察・ワークシート】で捉える。

2 (本時)	<p>1 「声当てクイズ」「シルエットクイズ」に取り組み、変声や男女の体つきの変化について気付く。</p> <p>2 大人に近づく男女の体つきの変化について考え、グループで話し合う。</p> <p>3 各グループの意見を基に、大人に近づく男女の体つきの特徴について理解し、それにも個人差があることを知る。</p> <p>4 体の成長に関する不安を持っている児童の事例を用い、学習したことを生かして、アドバイスを考える。</p>	①	<p>① 〈思考・判断－①〉(学習活動2, 4) 体の発育・発達について、学習したことを自分の成長や生活と比べたり、関係を見付けたりするなどして、それらを説明している状況を【観察・ワークシート】で捉える。</p> <p>② 〈知識・理解－②〉(学習活動3) 思春期には、体つきに変化が起こり、人によって違いがあるものの、男女の特徴が現れることについて、言ったり、書いたりしている状況を【観察・ワークシート】で捉える。</p>
3	<p>1 異性への関心が芽生える児童の事例を用い、大人に近づく変化としての異性への関心の芽生えについて知る。</p> <p>2 初経・精通を中心に、それらの現象について調べ、グループ内で発表する。</p> <p>3 各グループの発表から、初経、精通は、個人によって早い遅いはあるもののだれにでも起こる大人の体に近づく現象であることを知る。</p>	②	<p>③ 〈関・意・態－②〉(学習活動2) 体の発育・発達について、課題の解決に向けての話し合いや発表などの学習活動に進んで取り組もうとしている状況を【観察】で捉える。</p> <p>④ 〈知識・理解－③〉(学習活動1, 3) 思春期になると、初経、精通などが起こること、異性への関心も芽生えること、これらは、個人によって早い遅いはあるもののだれにでも起こる、大人の体に近づく現象であることについて、書いていることを【ワークシート】で捉える。</p>
4	<p>1 給食の献立表を使って、よりよく発育・発達させるための調和のとれた食事の必要性について気付く。</p> <p>2 資料を使い、体をよりよく発育・発達させるための運動や休養・睡眠の必要性について調べる。</p> <p>3 食事、運動、休養・睡眠それぞれを関係付け、体をよりよく発育・発達させるための生活の仕方について知る。</p> <p>4 学習したことを自分の生活に当てはめて課題を見付け、これからの生活の仕方について、解決方法を考える。</p>	②	<p>④ 〈知識・理解－④〉(学習活動3) 体をよりよく発育・発達させるための生活の仕方には、調和のとれた食事、適切な運動、休養及び睡眠が必要であることについて、書いていることを【ワークシート】で捉える。</p> <p>⑤ 〈思考・判断－②〉(学習活動4) 体の発育・発達について、教科書や友達の話などを基に、課題や解決の方法を見付けたり、選んだりするなどして、それらを説明している状況を【観察・ワークシート】で捉える。</p>

4 本時の指導案 (2 / 4 時)

(1) 本時の目標

- 思春期の体の変化について、学習したことを自分の成長や生活と比べたり、関係を見付けたりするなどして、それらを説明することができるようにする。
- 思春期には、体つきに変化が起こり、人によって違いがあるものの男女の特徴が現れることについて、言ったり、書いたりすることができるようにする。

(2) 展開 ※()内の数字は時間(分)

段階	学習内容と学習活動	教師の関わり ★評価との関連
はじめ (10)	<p>1. 声を聞いて自分の年齢と比べる「声当てクイズ」に答え、大人に近づく変化としての変声について関心をもつ。</p> <p>2. 違う年代の児童生徒のシルエットを見て、男女を答える「シルエットクイズ」に答え、大人に近づく男女の体つきの変化に気付く。</p>	<p>・ 変声に気付くよう、幼児から成人まで違う年代の声を同じ台詞で予め録音しておく。</p> <p>・ 体つきの違いが分かるように、小1男女及び中3の男女の後ろ姿の写真を用意しておく。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校1年生より，中学生の方が分かった。 ・中学生の女子は肩よりお尻の幅が広い。 ・中学生の男子は筋肉っぽい。 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・後ろ姿でもなぜ男女の違いが分かるようになるのかを投げかけ，次の活動への動機付けを行う。
	大人に近づくと，体はどのように変化していくのだろう。	
なか (5)	3. 大人に近づく男女の体つきなどの変化について前半の学習や生活体験などを基に，各自で予想し，男女の変化の特徴について付箋紙に書き，ワークシートに分けて貼っていく。	★思考・判断－① 思春期の体の変化について，学習したことを自分の成長や生活と比べたり，関係を見付けたりするなどして，それらを説明している。
(10)	4. 各自のワークシートを基に，グループで話し合い，大人に近づく男女の体つきの特徴についてグループの意見を出し合う。	・学習課題に沿った学習活動が展開しているかを観察によって評価し，指導に生かす。 ・友だちの意見や教師の助言などで，付け足
	【男子に現れる変化】 <ul style="list-style-type: none"> ・筋肉がついてくる。 ・肩幅が広がる。 ・ひげが生えてくる。 など 【女子に現れる変化】 <ul style="list-style-type: none"> ・腰の幅が広がる。 ・丸みのある体になる。 ・胸が膨らんでくる。 など 【男女に共通して現れる変化】 <ul style="list-style-type: none"> ・わきに毛が生えてくる。 ・変声がある。 など 	○予想できず活動ができない児童への手立て *学習課題を意識させる。 ・家族とお風呂に入ったことがあるよね。 ・学校の先生もヒントになるよ。 など
(10)	5. 各グループからの意見を基に，大人に近づく男女の体つきの特徴についてまとめるとともに，変化の起こり方や特徴は人によって違いがあることを知る。	しや修正があったときは，用意しておいた色の違う付箋紙に記入し，貼るように説明する。 ・現象だけでなく，できる人はそう考えた理由も付け加えてもよいことを伝える。 ・グループでまとめた考えを短冊に書き，黒板に貼っていくようにする。 ★知識・理解－② 思春期には，体つきに変化が起こり，人によって違いがあるものの，男女の特徴が現れることについて，言ったり，書いたりしている。 ・個人差については，起こり方はみな同じかどうか発問し，教科書や資料などを用い理解させる。 ・恥ずかしく感じる児童に対しては，体の変化は誰でも起きることや個人差があることを強調し，発育・発達の大切さを伝えるなど肯定的に受け止められるようにする。
	○思春期には，体つきに変化が起こり，男女の特徴が現れること ○変化の起こり方は，人によって違いがあること	
おわり (10)	6. 体の成長に対する不安を感じている児童の事例を用い，学習したことを生かして，自分の成長や生活と比べたり，関係を見付けたりして，アドバイスを考え，ワークシートに記入する。	★思考・判断－① 思春期の体の変化について，学習したことを自分の成長や生活と比べたり，関係を見付けたりするなどして，それらを説明している。
	<ul style="list-style-type: none"> ・それは，思春期の変化で誰にでも起こることだよ。大人に近づいている証拠だから大丈夫。 ・他の人と違っていてもそれは個人差だから不安に思うことはない。 ・そう思うのは普通だと思うけど，起こり方は人それぞれ違うから，安心して。など 	○考えられずに活動できない児童への手立て *なぜできないのか把握し助言する。 ・どんなことが不安なのかな。 ・今日学んだことは〇〇だったね。 ・不安を少なくするには，今日学習した，どんなことを生かせばいいかな。など

5 「思考・判断」の観点の評価の仕方

保健学習では，基礎的・基本的な内容を実践的に理解できるようにすることが求められている。このことは，グループ活動や実習などを通して単に知識や記憶としてとどめるだけでなく，児童が身近な生活における学習課題を発見し，解決する過程を通して，健康・安全の大切さに気付くことなどを含んでいる。

したがって，保健の授業で実践的に理解できるようにするには，知識を活用する活動を重視する必要がある。本事例は，これらを踏まえ，思春期の体の変化について知識の

習得を重視した上で、知識を活用した学習活動などにより、児童の思考力・判断力等の育成に重点をおいた指導と評価の例である。

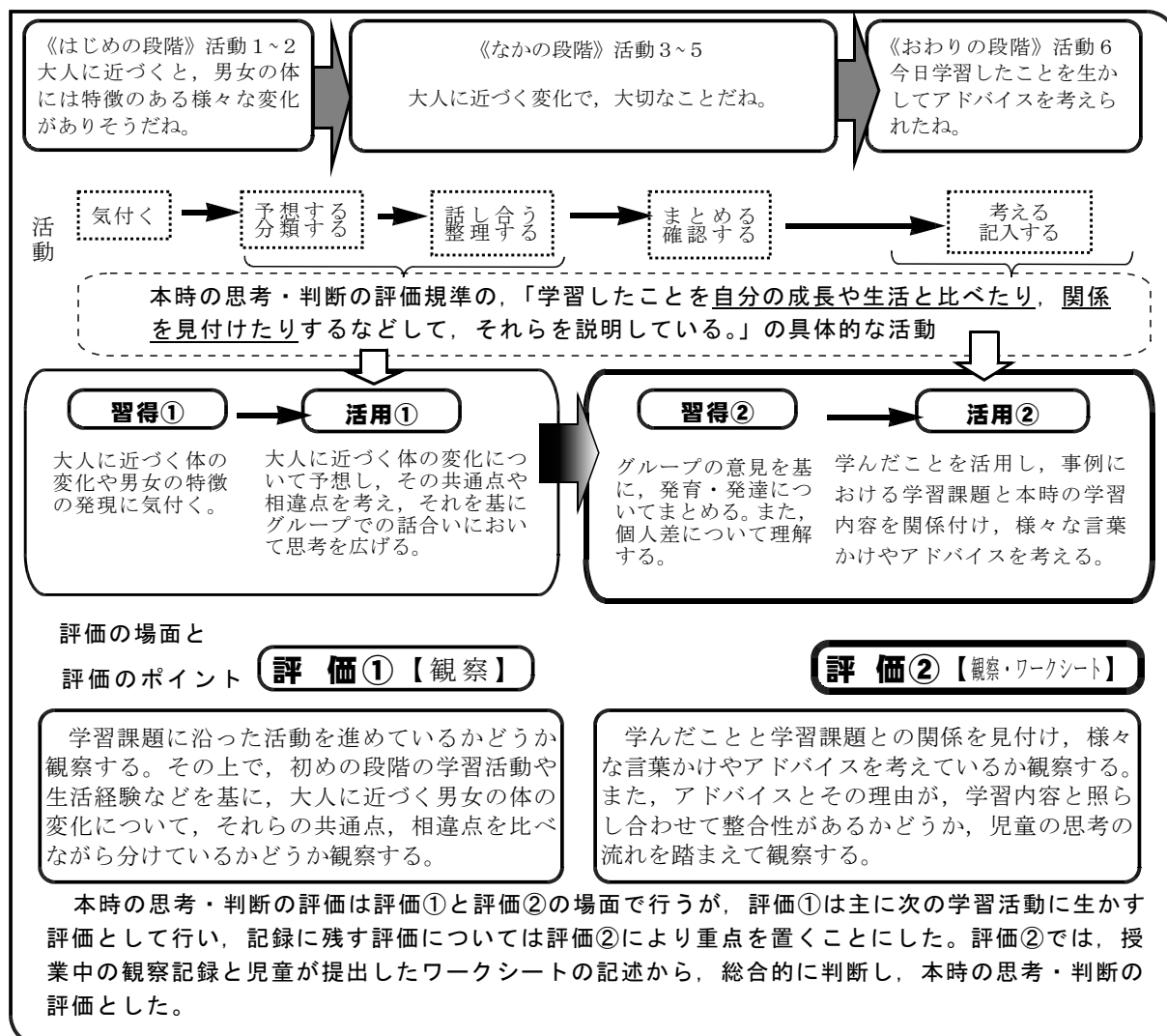
(1) 本時の授業づくりの意図と評価の場面

本時の内容は、大人に近づくとき起こる男女の体つきの変化について取り上げる。体つきに変化が現れていない児童には実感がなく、変化し始めている時期の児童には恥ずかしいと思いがちなものである。したがって、思春期の体の変化を単に覚えるだけの学習とするのではなく、児童がそれらを自分のこととして主体的に受け止められるようにし、実生活に生かせるような思考力・判断力等を育成する学習を展開したいと考えた。

そこで、思春期の体の変化について学習したことと自分の成長や生活とを、比べたり関係を見付けたりすることができるように、下の構造図に示すような授業を仕組んだ。ここでは、思春期の体の変化について、クイズやグループでの話し合いなどを通して知識を習得する活動と、そこで得た知識を活用して思考・判断する活動のまとまり（「習得－活用」）を繰り返して行った。これによって、学んだことがそれぞれの学習活動で活用されるように意図した。

そして、学んだことを活用する2つの場面において、思考・判断の評価を行うこととした。

《第2時の学習活動の構造》



(2)「おおむね満足できる」「十分満足できる」状況判断のポイント

評価 ①

1 大人の体に近づくところの男女の体の変化について、声当てクイズ・シルエットクイズを参考にしたり、これまでの生活でのできごとなどを振り返りして、整理してみよう。

	自分で考えたこと	つけたし・なおし
男子に近づく体の変化	【活用①】 はじめの段階の学習や生活経験などを基に、男女の体の変化について考え、体の変化を「付箋紙」に書き、それらをワークシートに男女に分けて貼っていく活動。	
女子に近づく体の変化		
共通している体の変化		

評価

- はじめの段階の学習であ挙げられた意見を根拠として、それらを書いている。
- 親子でお風呂に入った時の様子を想起するなど生活経験を根拠に変化を挙げている。
- 「発毛や変声など、男女どちらに入れてよいか疑問に思い、聞いている。」など、学習課題に沿った活動が進められている様子が現れていれば「おおむね満足できる」状況と判断する。

- ここでは、各自の学習課題に沿った活動がされているか、グループでの活動によって思考が広げられているかどうかを把握し、「おおむね満足できる」状況か、「努力を要する」状況かを判断するにとどめ、次の指導に生かすようにする。

評価 ②

2 次の文は、ある小学校高学年の子どものなやみです。Aさん・Bさんについて、学習したことを生かして、よりよいことはかけアドバイスを考えて書きましょう。また、そう考えた理由も書きましょう。

Aくん：発毛があって、林間学校のお風呂のとき、しるしをみられたり、何か言われたりしたらいやだな。
Bさん：むねが最近ふくらんできて、まわりの目が気になるんだけど、ほかの子もそう考えているのかなあ。

言葉かけやアドバイス	そう考えた理由
つけたし・なおし	【活用②】 学んだことを活用し、事例における学習課題と本時の学習内容とを関係付け、様々な言葉かけやアドバイスを考える活動。

評価

- 「発毛は男女の誰にも起きることだから、心配ない」、「人によって早い遅いがあるから、大丈夫」、「それは、思春期に起きる変化だから、大人に成長している証拠」など、はじめやなかの段階の学習内容を基に理由を挙げて、体の変化を肯定的に捉えたアドバイスを、自分の言葉で書き出している姿が現れていれば「おおむね満足できる」状況と判断する。

【記入の例】

「学んだことが実際自分に起きたら自分も不安を感じると思うけれど、今日勉強したように、男女の見分けがつくような様々な変化が起きてくるし、起こり方は人によって違うから大丈夫。」

(つけたし)

「〇〇さんの言っていたアドバイスはお母さんも言っていたことがあるから、不安に思わないで前向きに考えた方がいいと思うし、自分もそうしたいと思う。」

- 事例を自分のこととして捉えている、仲間の意見と自分の意見を比べたり家族などとの会話を想起したりして学習内容と課題とを関係付け、考えを修正しているなど、自分と他の考え方との共通点や相違点を考えながら、そう考えた根拠を付けて自分の言葉で表していれば「十分満足できる」状況と判断する。

(3) 評価を指導・助言に生かす、「努力を要する」状況と判断した児童への手立て

評価 ①

S 児童の考え

「背が大きくなる」「体重が重くなる」と記入している。

評価

「努力を要する」状況と判断

前時の学習内容にとどまっており、学習課題の把握が不十分で課題と比べることに至っていない。

手立て

はじめの段階での学習活動を振り返らせ、生活経験などから身長や体重以外の変化と比べるように助言する。

評価 ②

K 児童の考え

「じろじろ見ることはよくないことだから、そういうときは注意してあげる」と記入している。

評価

「努力を要する」状況と判断

人間関係の視点から書いている。本時の学習内容との関係を見付けることができていない。

手立て

学習内容を再確認し、それらと結び付けたアドバイスを考えるよう、説明する。

F 児童の考え

「高学年なら遅いくらいだから、そんなことを心配するなんておかしい」と記入している。

評価

「努力を要する」状況と判断

個人差には触れているが、変化の起きる時期を限定的に捉えている。

手立て

変化の起きる時期のグラフや経験談などを示し、「中学生になってからの人もいるね」など助言し、人によって違いがあることを強調する。

(4) 評価にあたっての留意点

授業において、一人一人をより多面的に捉え、より妥当な評価を行うためには、観察やワークシート、児童との対話、ペーパーテストなど多様な評価方法を工夫し、組み合わせていく必要があるが、評価を進める上での留意点として、次の2点を挙げることができる。

一つ目は、観察の視点を明確にすることである。観察による評価を行う際、学習課題について既習の内容や自分の成長、生活経験等と比べている、学習内容との関係を見付けているなど、設定した評価規準に基づいて観察の視点を明確にしておくことが必要である。

二つ目は、ワークシートの項立てを工夫することである。適切に児童の状況が現れるよう、思考の過程が見えるような項立てを工夫したワークシートの作成が必要である。例えば、学習したことと自分の生活のことを記入できる欄を設け、両者を比較して気付いたことを書けるようにしたり、事例を設定し、学習したことを基にアドバイスを書けるようにしたりすることが考えられる。その際、児童が自分の考えをまとめ、ワークシート等に記入する時間を十分に確保する必要があるため、活動を精選することも大切である。

これからの保健学習では、基礎的・基本的な知識を活用し、思考力・判断力等を育むことを重視していることを踏まえ、思考・判断の評価を確実に行うことができるように、知識を活用する学習活動を積極的に取り入れることが求められる。

参 考 資 料

- 1 評価規準，評価方法等の工夫改善に関する調査研究について（平成２２年４月１４日，国立教育政策研究所長裁定）
- 2 評価規準，評価方法等の工夫改善に関する調査研究協力者
- 3 小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（平成２２年５月１１日付け文部科学省初等中等教育局長通知）（抄）

評価規準，評価方法等の工夫改善に関する調査研究について

平成 22 年 4 月 14 日 国立教育政策研究所長裁定
平成 23 年 6 月 1 日 一 部 改 正

1 趣 旨

学習評価については，中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会において「児童生徒の学習評価の在り方について」（平成 22 年 3 月 24 日）の報告がまとめられ，新しい学習指導要領に対応した，各教科等の評価の観点及び評価の観点に関する考え方が示されたところである。

これを踏まえ，各小学校，中学校及び高等学校における児童生徒の学習の効果的，効率的な評価に資するため，教科等（教科並びに小学校及び中学校の特別活動）ごとに，評価規準，評価方法等の工夫改善に関する調査研究を行う。

2 調査研究事項

- （1）評価規準及び当該規準を用いた評価方法に関する参考資料の作成
- （2）学校における学習評価に関する取組についての情報収集
- （3）上記（1）及び（2）に関連する事項

3 実施方法

調査研究に当たっては，教科ごとに教育委員会関係者，教員及び学識経験者等を協力者として委嘱し，2 の事項について調査研究を行う。

4 庶 務

この調査研究にかかる庶務は，教育課程研究センターにおいて処理する。

5 実施期間

平成 22 年 5 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日

評価規準，評価方法等の工夫改善に関する調査研究協力者 小学校 体育（五十音順）
（職名は平成22年5月現在）

青鹿 和裕	東京都世田谷区教育委員会指導主事
加賀美 猛	山梨県甲斐市立竜王北中学校教頭
下村 義夫	上越教育大学大学院教授
杉本眞智子	神奈川県川崎市立王禅寺中央小学校教頭
富岡 寛	神奈川県川崎市立鷺沼小学校教頭
内藤 康司	滋賀県教育委員会指導主事
三田部 勇	茨城県土浦市立土浦小学校教諭
山上 孝	広島県教育委員会指導主事
吉松 英樹	山口県山口市立良城小学校教諭
渡邊 正樹	東京学芸大学教授

国立教育政策研究所及び文部科学省においては，次の関係官が担当した。

白旗 和也	国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官
森 良一	国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官

この他，本書編集の全般にわたり，国立教育政策研究所において以下の者が担当した。

神代 浩	国立教育政策研究所教育課程研究センター長（平成22年7月30日から）
作花 文雄	前国立教育政策研究所教育課程研究センター長（平成22年7月29日まで）
宮内 健二	国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部長 （平成23年4月1日から）
梅澤 敦	前国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部長 （平成23年3月31日まで）
佐瀬 宣次	国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官 （平成23年4月1日から）
本田 史子	前国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官 （平成23年3月31日まで）
大内 克紀	国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部研究開発課長 （平成23年4月1日から）
稲葉 敦	前国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部研究開発課長 （平成23年3月31日まで）
大原 一仁	国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部研究開発課指導係長 （平成23年4月1日から） 前国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部研究開発課指導係専門職 （平成23年3月31日まで）
新堀 栄	前国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部研究開発課指導係長 （平成23年3月31日まで）
岸本 良彦	国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部研究開発課指導係専門職 （平成23年4月1日から）

22文科初第1号
平成22年5月11日

各都道府県教育委員会
各指定都市教育委員会
各都道府県知事
附属学校を置く各国立大学長
構造改革特別区域法第12条第1項の
認定を受けた地方公共団体の長

殿

文部科学省初等中等教育局長

金森越哉

(印影印刷)

小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の
学習評価及び指導要録の改善等について（通知）（抄）

このたび、中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会において、「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」（平成22年3月24日）（以下「報告」という。）がとりまとめられました。

「報告」においては、学習指導要領において示された基礎的・基本的な知識・技能、それらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等及び主体的に学習に取り組む態度の育成が確実に図られるよう、学習評価を通じて、学習指導の在り方を見直すことや個に応じた指導の充実を図ること、学校における教育活動を組織として改善すること等が重要とされています。また、保護者や児童生徒に対して、学習評価に関する仕組み等について事前に説明したり、評価結果の説明を充実したりするなどして学習評価に関する情報をより積極的に提供することも重要とされています。

指導要録は、児童生徒の学籍並びに指導の過程及び結果の要約を記録し、その後の指導及び外部に対する証明等に役立たせるための原簿となるものであり、各学校で学習評価を計画的に進めていく上で重要な表簿です。

文部科学省においては、「報告」を受け、各学校における学習評価が円滑に行われ

るとともに、各設置者による指導要録の様式の決定や各学校における指導要録の作成の参考となるよう、学習評価を行うに当たっての配慮事項、指導要録に記載する事項及び各学校における指導要録の作成に当たっての配慮事項等を別紙１～６のとおりとりまとめました。

ついては、下記に示す学習評価を行うに当たっての配慮事項及び指導要録に記載する事項の見直しの要点並びに別紙について十分に御了知の上、各都道府県教育委員会におかれては、所管の学校及び域内の市町村教育委員会に対し、各指定都市教育委員会におかれては、所管の学校に対し、各都道府県知事及び構造改革特別区域法第１２条第１項の認定を受けた地方公共団体の長におかれては、所轄の学校及び学校法人等に対し、国立大学長におかれては、その管下の学校に対して、「報告」の趣旨も踏まえ、指導要録の様式が適切に設定され、新しい学習指導要領に対応した学習指導と学習評価が行われるよう、これらの十分な周知及び必要な指導等をお願いします。

さらに、幼稚園、特別支援学校幼稚部、保育所及び認定こども園（以下、「幼稚園等」という。）と小学校及び特別支援学校小学部との緊密な連携を図る観点から、幼稚園等においてもこの通知の趣旨の理解が図られるようお願いします。

なお、平成１３年４月２７日付け１３文科初第１９３号「小学校児童指導要録，中学校生徒指導要録，高等学校生徒指導要録，中等教育学校生徒指導要録並びに盲学校，聾学校及び養護学校の小学部児童指導要録，中学部生徒指導要録及び高等部生徒指導要録の改善等について」及び平成２０年１２月２５日付け２０文科初第１０８１号「小学校学習指導要領等に関する移行期間中における小学校児童指導要録等の取扱いについて」のうち、小学校及び特別支援学校小学部に関する部分は平成２３年３月３１日をもって、中学校（中等教育学校の前期課程を含む。以下同じ。）及び特別支援学校中学部に関する部分は平成２４年３月３１日をもって、高等学校（中等教育学校の後期課程を含む。以下同じ。）及び特別支援学校高等部に関する部分は平成２５年３月３１日をもって、それぞれ廃止します。

記

１ 学習評価の改善に関する基本的な考え方について

- (１) 学習評価を通じて、学習指導の在り方を見直すことや個に応じた指導の充実を図ること、学校における教育活動を組織として改善することが重要であること。
その上で、新しい学習指導要領の下における学習評価の改善を図っていくためには以下の基本的な考え方に沿って学習評価を行うことが必要であること。

- ① きめの細かな指導の充実や児童生徒一人一人の学習の確実な定着を図るため、学習指導要領に示す目標に照らしてその実現状況を評価する、目標に準拠した評価を引き続き着実に実施すること。

② 新しい学習指導要領の趣旨や改善事項等を学習評価において適切に反映すること。

③ 学校や設置者の創意工夫を一層生かすこと。

(2) 学習評価における観点については、新しい学習指導要領を踏まえ、「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「技能」及び「知識・理解」に整理し、各教科等の特性に応じて観点を示している。設置者や学校においては、これに基づく適切な観点を設定する必要があること。

(3) 高等学校における学習評価については、引き続き観点別学習状況の評価を実施し、きめの細かい学習指導と生徒一人一人の学習の確実な定着を図っていく必要があること。

(4) 障害のある児童生徒に係る学習評価の考え方は、障害のない児童生徒に対する学習評価の考え方と基本的には変わるものではないが、児童生徒の障害の状態等を十分理解しつつ、様々な方法を用いて、一人一人の学習状況を一層丁寧に把握することが必要であること。また、特別支援学校については、新しい学習指導要領により個別の指導計画の作成が義務付けられたことを踏まえ、当該計画に基づいて行われた学習の状況や学習の結果の評価を行うことが必要であること。

2 効果的・効率的な学習評価の推進について

(1) 学校や設置者においては、学習評価の妥当性、信頼性等を高めるとともに、教師の負担感の軽減を図るため、国等が示す評価に関する資料を参考にしつつ、評価規準や評価方法の一層の共有や教師の力量の向上等を図り、組織的に学習評価に取り組むことが重要であること。

(2) その際、学習評価に関する情報の適切な管理を図りつつ、情報通信技術の活用により指導要録等に係る事務の改善を検討することも重要であること。なお、法令に基づく文書である指導要録について、書面の作成、保存、送付を情報通信技術を活用して行うことは、現行の制度上も可能であること。

(3) 今後、国においても、評価規準等の評価の参考となる資料を作成することとしているが、都道府県等においても、学習評価に関する研究を進め、学習評価に関する参考となる資料を示すとともに、具体的な事例の収集・提示を行うことが重要であること。

3 小・中学校及び特別支援学校小・中学部の指導要録について

(1) 小学校及び特別支援学校小学部の外国語活動について、設置者において、学習指導要領の目標及び具体的な活動等に沿って評価の観点を設定することとし、文章の記述による評価を行うこと。

(2) 特別活動について、学習指導要領の目標及び特別活動の特質等に沿って、各学

校において評価の観点を決めることができるようにすることとし、各活動・学校行事ごとに評価すること。

4 高等学校及び特別支援学校高等部の指導要録について

各教科・科目の評定については、観点別学習状況の評価を引き続き十分踏まえること。

〔別紙 1〕 小学校及び特別支援学校小学部の指導要録に記載する事項等

〔別紙 2〕 中学校及び特別支援学校中学部の指導要録に記載する事項等

〔別紙 3〕 高等学校及び特別支援学校高等部の指導要録に記載する事項等

〔別紙 4〕 各学校における指導要録の保存、送付等に当たっての配慮事項

〔別紙 5〕 各教科等・各学年等の評価の観点等及びその趣旨（小学校及び特別支援学校小学部並びに中学校及び特別支援学校中学部）

〔別紙 6〕 各教科の評価の観点及びその趣旨（高等学校及び特別支援学校高等部）

〔参考 1〕

文部科学省ホームページ 中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」（平成 22 年 3 月 24 日）

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/gaiyou/1292163.htm

〔参考 2〕

各設置者における指導要録の様式の設定に当たっての検討に資するため、別添として指導要録の「参考様式」を示している。

小学校及び特別支援学校小学部の指導要録に記載する事項等

I 学籍に関する記録

学籍に関する記録については，原則として学齢簿の記載に基づき，学年当初及び異動の生じたときに記入する。

- 1 児童の氏名，性別，生年月日及び現住所
- 2 保護者の氏名及び現住所
- 3 入学前の経歴

小学校及び特別支援学校小学部（以下，「小学校等」という。）に入学するまでの教育又は保育関係の略歴（在籍していた幼稚園，特別支援学校幼稚部，保育所又は認定こども園等の名称及び在籍期間等）を記入する。なお，外国において受けた教育の実情なども記入する。

4 入学・編入学等

(1) 入学

児童が第 1 学年に入学した年月日を記入する。

(2) 編入学等

第 1 学年の中途又は第 2 学年以上の学年に，在外教育施設や外国の学校等から編入学した場合，又は就学義務の猶予・免除の事由の消滅により就学義務が発生した場合について，その年月日，学年及び事由等を記入する。

5 転入学

他の小学校等から転入学してきた児童について，転入学年月日，転入学年，前に在学していた学校名，所在地及び転入学の事由等を記入する。

6 転学・退学等

他の小学校等に転学する場合には，転学先の学校が受け入れた日の前日に当たる年月日，転学先の学校名，所在地，転入学年及びその事由等を記入する。また，学校を去った年月日についても併記する。

在外教育施設や外国の学校に入るために退学する場合又は学齢（満 15 歳に達した日の属する学年の終わり）を超過している児童が退学する場合は，校長が退学を認めた年月日及びその事由等を記入する。

なお，就学義務が猶予・免除される場合又は児童の居所が 1 年以上不明である場合は，在学しない者として取り扱い，在学しない者と認めた年月日及びその事由等を記入する。

7 卒業

校長が卒業を認定した年月日を記入する。

8 進学先

進学先の中学校又は特別支援学校中学部の学校名及び所在地を記入する。

9 学校名及び所在地

分校の場合は、本校名及び所在地を記入するとともに、分校名、所在地及び在学した学年を併記する。

10 校長氏名印、学級担任者氏名印

各年度に、校長の氏名、学級担任者の氏名を記入し、それぞれ押印する。
(同一年度内に校長又は学級担任者が代わった場合には、その都度後任者の氏名を併記する。)

なお、氏名の記入及び押印については、電子署名（電子署名及び認証業務に関する法律（平成12年法律第102号）第2条第1項に定義する「電子署名」をいう。）を行うことで替えることも可能である。

II 指導に関する記録

小学校における指導に関する記録については、以下に示す記載することが適当な事項に留意しながら、各教科の学習の記録（観点別学習状況及び評定）、外国語活動の記録、総合的な学習の時間の記録、特別活動の記録、行動の記録、総合所見及び指導上参考となる諸事項並びに出欠の記録について学年ごとに作成する。

特別支援学校（視覚障害、聴覚障害、肢体不自由又は病弱）小学部における指導に関する記録については、小学校における指導に関する記録に記載する事項に加えて、自立活動の記録について学年ごとに作成するほか、入学時の障害の状態について作成する。

特別支援学校（知的障害）小学部における指導に関する記録については、各教科の学習の記録、特別活動の記録、自立活動の記録、行動の記録、総合所見及び指導上参考となる諸事項並びに出欠の記録について学年ごとに作成するほか、入学時の障害の状態について作成する。

特別支援学校小学部に在籍する児童については、個別の指導計画を作成する必要があることから、指導に関する記録を作成するに当たって、個別の指導計画における指導の目標、指導内容等を踏まえた記述となるよう留意する。また、児童の障害の状態等に即して、学校教育法施行規則第130条の規定に基づき各教科の全部若しくは一部について合わせて授業を行った場合又は各教科、道徳、外国語活動、特別活動及び自立活動の全部若しくは一部について合わせて授業を行った場合並びに特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（平成21年文部科学省告示第36号）第1章第2節第5の規定（重複障害者等に関する教育課程の取扱い）を適用した場合にあっては、その教育課程や実際の学習状況を考慮し、各教科等を合わせて記録できるようにするなど、必要に応じて様式等を工夫して、その状況を適切に記入する。

特別支援学級に在籍する児童の指導に関する記録については、必要がある場合、特別支援学校小学部の指導要録に準じて作成する。

1 各教科の学習の記録

小学校及び特別支援学校（視覚障害、聴覚障害、肢体不自由又は病弱）小

学部における各教科の学習の記録については、観点別学習状況及び評定について記入する。

特別支援学校（知的障害）小学部における各教科の学習の記録については、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領に示す小学部の各教科の目標、内容に照らし、具体的に定めた指導内容、実現状況等を文章で記述する。

(1) 観点別学習状況

小学校及び特別支援学校（視覚障害、聴覚障害、肢体不自由又は病弱）小学部における観点別学習状況については、小学校学習指導要領（平成20年文部科学省告示第27号）及び特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（以下、「小学校学習指導要領等」という。）に示す各教科の目標に照らして、その実現状況を観点ごとに評価し記入する。その際、「十分満足できる」状況と判断されるものをA、「おおむね満足できる」状況と判断されるものをB、「努力を要する」状況と判断されるものをCのように区別して評価を記入する。

小学校及び特別支援学校（視覚障害、聴覚障害、肢体不自由又は病弱）小学部における各教科の評価の観点について、設置者は、小学校学習指導要領等を踏まえ、別紙5を参考に設定する。また、各学校において、観点を追加して記入できるようにする。

(2) 評定

小学校及び特別支援学校（視覚障害、聴覚障害、肢体不自由又は病弱）小学部における評定については、第3学年以上の各教科の学習の状況について、小学校学習指導要領等に示す各教科の目標に照らして、その実現状況を総括的に評価し記入する。

各教科の評定は、小学校学習指導要領等に示す各教科の目標に照らして、その実現状況を「十分満足できる」状況と判断されるものを3、「おおむね満足できる」状況と判断されるものを2、「努力を要する」状況と判断されるものを1のように区別して評価を記入する。

評定に当たっては、評定は各教科の学習の状況を総括的に評価するものであり、「(1) 観点別学習状況」において掲げられた観点は、分析的な評価を行うものとして、各教科の評定を行う場合において基本的な要素となるものであることに十分留意する。その際、評定の適切な決定方法等については、各学校において定める。

2 外国語活動の記録

小学校及び特別支援学校（視覚障害、聴覚障害、肢体不自由又は病弱）小学部における外国語活動の記録については、評価の観点を記入した上で、これらの観点到照らして、児童の学習状況に顕著な事項がある場合にその特徴を記入する等、児童にどのような力が身に付いたかを文章で記述する。

評価の観点については、設置者は、小学校学習指導要領等に示す外国語活動の目標を踏まえ、別紙5を参考に設定する。また、各学校において、観点を

を追加して記入できるようにする。

3 総合的な学習の時間の記録

小学校及び特別支援学校（視覚障害，聴覚障害，肢体不自由又は病弱）小学部における総合的な学習の時間の記録については，この時間に行った学習活動及び各学校が自ら定めた評価の観点を記入した上で，それらの観点のうち，児童の学習状況に顕著な事項がある場合などにその特徴を記入する等，児童にどのような力が身に付いたかを文章で記述する。

評価の観点については，小学校学習指導要領等に示す総合的な学習の時間の目標を踏まえ，各学校において具体的に定めた目標，内容に基づいて定める。その際，例えば，「よりよく問題を解決する資質や能力」，「学び方やものの考え方」，「主体的，創造的，協同的に取り組む態度」及び「自己の生き方」等と学習指導要領に示す総合的な学習の時間の目標を踏まえて定めたり，「学習方法に関すること」，「自分自身に関すること」及び「他者や社会とのかかわりに関すること」等の視点に沿って各学校において育てようとする資質や能力等を踏まえて定めたりすることが考えられる。また，教科との関連を明確にし，総合的な学習の時間の学習活動にかかわる「関心・意欲・態度」，「思考・判断・表現」，「技能」及び「知識・理解」等と定めることも考えられる。

4 特別活動の記録

小学校及び特別支援学校（視覚障害，聴覚障害，肢体不自由又は病弱）小学部における特別活動の記録については，各学校が自ら定めた特別活動全体に係る評価の観点を記入した上で，各活動・学校行事ごとに，評価の観点に照らして十分満足できる活動の状況にあると判断される場合に，○印を記入する。

評価の観点については，小学校学習指導要領等に示す特別活動の目標を踏まえ，各学校において別紙5を参考に定める。その際，例えば，「集団の一員としての思考・判断・実践」にかかわる観点について，学校として重点化した内容を踏まえ，育てようとする資質や能力などに即し，より具体的に定めることも考えられる。

特別支援学校（知的障害）小学部における特別活動の記録については，小学校及び特別支援学校（視覚障害，聴覚障害，肢体不自由又は病弱）小学部における特別活動の記録に関する考え方を参考としながら文章で記述する。

5 自立活動の記録

特別支援学校小学部における自立活動の記録については，個別の指導計画を踏まえ，以下の事項等を記入する。

- ① 指導の目標，指導内容，指導の結果の概要に関すること
- ② 障害の状態等に変化が見られた場合，その状況に関すること
- ③ 障害の状態を把握するため又は自立活動の成果を評価するために検査を行った場合，その検査結果に関すること

6 行動の記録

小学校及び特別支援学校（視覚障害，聴覚障害，肢体不自由又は病弱）小学部における行動の記録については，各教科，道徳，外国語活動，総合的な学習の時間，特別活動やその他学校生活全体にわたって認められる児童の行動について，設置者は，小学校学習指導要領等の総則及び道徳の目標や内容，内容の取扱いで重点化を図ることとしている事項等を踏まえて示している別紙5を参考にして，項目を適切に設定する。また，各学校において，自らの教育目標に沿って項目を追加できるようにする。

各学校における評価に当たっては，各項目の趣旨に照らして十分満足できる状況にあると判断される場合に，○印を記入する。

特別支援学校（知的障害）小学部における行動の記録については，小学校及び特別支援学校（視覚障害，聴覚障害，肢体不自由又は病弱）小学部における行動の記録に関する考え方を参考としながら文章で記述する。

7 総合所見及び指導上参考となる諸事項

小学校等における総合所見及び指導上参考となる諸事項については，児童の成長の状況を総合的にとらえるため，以下の事項等を文章で記述する。

- ① 各教科や外国語活動，総合的な学習の時間の学習に関する所見
- ② 特別活動に関する事実及び所見
- ③ 行動に関する所見
- ④ 児童の特徴・特技，学校内外におけるボランティア活動など社会奉仕体験活動，表彰を受けた行為や活動，学力について標準化された検査の結果等指導上参考となる諸事項
- ⑤ 児童の成長の状況にかかわる総合的な所見

記入に際しては，児童の優れている点や長所，進歩の状況などを取り上げることに留意する。ただし，児童の努力を要する点などについても，その後の指導において特に配慮を要するものがあれば記入する。

また，学級・学年など集団の中での相対的な位置付けに関する情報も，必要に応じ，記入する。

さらに，通級による指導を受けている児童については，通級による指導を受けた学校名，通級による指導の授業時数，指導期間，指導の内容や結果等を記入する。通級による指導の対象となっていない児童生徒で，教育上特別な支援を必要とする場合については，必要に応じ，効果があったと考えられる指導方法や配慮事項を記入する。

特別支援学校小学部においては，交流及び共同学習を実施している児童について，その相手先の学校名や学級名，実施期間，実施した内容や成果等を記入する。

8 入学時の障害の状態

特別支援学校小学部における入学時の障害の状態について，障害の種類及び程度等を記入する。

9 出欠の記録

以下の事項を記入する。

(1) 授業日数

児童の属する学年について授業を実施した年間の総日数を記入する。学校保健安全法第20条の規定に基づき、臨時に、学校の全部又は学年の全部の休業を行うこととした日数は授業日数には含めない。

この授業日数は、原則として、同一学年のすべての児童につき同日数とすることが適当である。ただし、転学又は退学等をした児童については、転学のため学校を去った日又は退学等をした日までの授業日数を記入し、転入学又は編入学等をした児童については、転入学又は編入学等をした日以後の授業日数を記入する。

(2) 出席停止・忌引等の日数

以下の日数を合算して記入する。

- ① 学校教育法第35条による出席停止日数、学校保健安全法第19条による出席停止日数及び感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第19条、第20条、第26条及び第46条による入院の場合の日数
- ② 学校保健安全法第20条により、臨時に学年の中の一部の休業を行った場合の日数
- ③ 忌引日数
- ④ 非常変災等児童又は保護者の責任に帰すことのできない事由で欠席した場合などで、校長が出席しなくてもよいと認めた日数
- ⑤ その他教育上特に必要な場合で、校長が出席しなくてもよいと認めた日数

(3) 出席しなければならない日数

授業日数から出席停止・忌引等の日数を差し引いた日数を記入する。

(4) 欠席日数

出席しなければならない日数のうち病気又はその他の事故で児童が欠席した日数を記入する。

(5) 出席日数

出席しなければならない日数から欠席日数を差し引いた日数を記入する。

なお、学校の教育活動の一環として児童が運動や文化などにかかわる行事等に参加したものと校長が認める場合には、指導要録の出欠の記録においては出席扱いとすることができる。

また、平成15年5月16日付け15文科初第255号「不登校への対応の在り方について」や平成17年7月6日付け17文科初第437号「不登校児童生徒が自宅においてIT等を活用した学習活動を行った場合の指導要録上の出欠の取扱い等について」に沿って、不登校の児童が適応指導教室等学校外の施設において相談・指導を受け、又は自宅においてI

I T等を活用した学習活動を行ったとき，そのことが当該児童の学校復帰のために適切であると校長が認める場合には，指導要録の出欠の記録においては出席扱いとすることができる。この場合には，出席日数の内数として出席扱いとした日数並びに児童が通所若しくは入所した学校外の施設名又は自宅においてI T等を活用した学習活動によることを記入する。

(6) 備考

出席停止・忌引等の日数に関する特記事項，欠席理由の主なもの，遅刻，早退等の状況その他の出欠に関する特記事項等を記入する。

各学校における指導要録の保存，送付等に当たっての配慮事項

- 1 児童生徒が転学する場合は，学校教育法施行規則第24条第2項に基づいて進学元の校長等から送付を受けた指導要録の抄本又は写しを，同条第3項の規定により転学先の校長へ送付することとされており，この場合において，進学元（小学校にあっては，保育所及び認定こども園を含む。）から送付を受けた指導要録の抄本又は写しについては，進学してきた児童生徒が在学する期間保存すること。
- 2 配偶者からの暴力の被害者と同居する児童生徒については，転学した児童生徒の指導要録の記述を通じて転学先の学校名や所在地等の情報が配偶者（加害者）に伝わることを懸念される場合がある。

このような特別の事情がある場合には，平成21年7月13日付け21生参学第7号「配偶者からの暴力の被害者の子どもの就学について」に沿って，配偶者からの暴力の被害者と同居する児童生徒の転学先や居住地等の情報については，各地方公共団体の個人情報保護条例等に則り，配偶者暴力相談支援センターや福祉部局等との連携を図りながら，厳重に管理すること。

各教科等・各学年等の評価の観点等及びその趣旨

1. 各教科の学習の記録

国 語

(1) 評価の観点及びその趣旨

＜小学校 国語＞

観 点	国語への関心・意 欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知 識・理解・技能
趣 旨	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語に対する関心を深め、国語を尊重しようとする。	相手や目的、意図に応じ、話したり聞いたり話し合ったりし、自分の考えを明確にしている。	相手や目的、意図に応じ、文章を書き、自分の考えを明確にしている。	目的に応じ、内容をとらえながら本や文章を読み、自分の考えを明確にしている。	伝統的な言語文化に触れたり、言葉の特徴やきまり、文字の使い方などについて理解し使ったりするとともに、文字を正しく整えて書いている。

(2) 学年別の評価の観点の趣旨

＜小学校 国語＞

観 点 学年	国語への関心・意 欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知 識・理解・技能
第 1 学 年 及 び 第 2 学 年	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語に対する関心を深め、進んで話したり聞いたり書いたり、楽しんで読書したりしようとする。	相手に応じ、身近なことなどについて、事柄の順序を考えながら話したり、大事なことを落とさないように聞いたり、話題に沿って話し合ったりしている。	経験したことや想像したことなどについて、順序を整理し、簡単な構成を考えて文や文章を書いている。	書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりして本や文章を読んでいる。	伝統的な言語文化に触れたり、言葉の特徴やきまり、文字の使い方などについて理解し使ったりするとともに、文字を正しく丁寧に書いている。
第 3 学 年 及 び 第 4 学 年	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語に対する関心を深め、工夫をしながら話したり聞いたり書いたり、幅広く読書したりしようとする。	相手や目的に応じ、調べたことなどについて、筋道を立てて話したり、話の中心に気を付けて聞いたり、進行に沿って話し合ったりしている。	相手や目的に応じ、調べたことなどが伝わるように、段落相互の関係などに注意して文章を書いている。	目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら本や文章を読んでいる。	伝統的な言語文化に触れたり、言葉の特徴やきまり、文字の使い方などについて理解し使ったりするとともに、文字を形や大きさ、配列、筆圧などに注意して書いている。
第 5 学 年 及 び 第 6 学 年	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語に対する関心を深め、適切に話したり聞いたり書いたり、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする。	目的や意図に応じ、考えたことや伝えたいことなどについて、的確に話したり、相手の意図をつかみながら聞いたり、計画的に話し合ったりしている。	目的や意図に応じ、考えたことなどを文章全体の構成の効果を考えて文章に書いている。	目的に応じ、内容や要旨をとらえながら本や文章を読んでいる。	伝統的な言語文化に触れたり、言葉の特徴やきまり、文字の使い方などについて理解し使ったりするとともに、文字を書く目的や用紙全体との関係、点画のつながりなどに注意して書いている。

社会

(1) 評価の観点及びその趣旨

<小学校 社会>

観点	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
趣旨	社会的事象に関心を持ち、それを意欲的に調べ、社会の一員として自覚をもってよりよい社会を考えようとする。	社会的事象から学習問題を見いだして追究し、社会的事象の意味について思考・判断したことを適切に表現している。	社会的事象を的確に観察、調査したり、各種の資料を効果的に活用したりして、必要な情報をまとめている。	社会的事象の様子や働き、特色及び相互の関連を具体的に理解している。

(2) 学年別の評価の観点の趣旨

<小学校 社会>

観点 学年	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
第3学年及び第4学年	地域における社会的事象に関心を持ち、それを意欲的に調べ、地域社会の一員としての自覚をもつとともに、地域社会に対する誇りと愛情をもとうとする。	地域における社会的事象から学習問題を見いだして追究し、地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて思考・判断したことを適切に表現している。	地域における社会的事象を的確に観察、調査したり、地図や各種の具体的資料を活用したりして、必要な情報を集めて読み取ったりまとめたりしている。	地域の産業や消費生活の様子、人々の健康な生活や良好な生活環境及び安全を守るための諸活動、地域の地理的環境、人々の生活の変化や地域の発展に尽くした先人の働きを理解している。
第5学年	我が国の国土と産業の様子に関する社会的事象に関心を持ち、それを意欲的に調べ、国土の環境の保全と自然災害の防止の重要性、産業の発展や社会の情報化の進展に関心を深めるとともに、国土に対する愛情をもとうとする。	我が国の国土と産業の様子に関する社会的事象から学習問題を見いだして追究し、社会的事象の意味について思考・判断したことを適切に表現している。	我が国の国土と産業の様子に関する社会的事象を的確に調査したり、地図や地球儀、統計などの各種の基礎的資料を活用したりして、必要な情報を集めて読み取ったりまとめたりしている。	我が国の国土と産業の様子、国土の環境や産業と国民生活との関連を理解している。
第6学年	我が国の歴史と政治及び国際社会における我が国の役割に関心を持ち、それを意欲的に調べ、我が国の歴史や伝統を大切にし国を愛する心情をもつとともに、平和を願う日本人として世界の国々の人々と共に生きていくことが大切であることの自覚をもとうとする。	我が国の歴史と政治及び国際理解に関する社会的事象から学習問題を見いだして追究し、社会的事象の意味についてより広い視野から思考・判断したことを適切に表現している。	我が国の歴史と政治及び国際理解に関する社会的事象を的確に調査したり、地図や地球儀、年表などの各種の基礎的資料を活用したりして、必要な情報を集めて読み取ったりまとめたりしている。	国家・社会の発展に大きな働きをした先人の業績や優れた文化遺産、日常生活における政治の働きと我が国の政治の考え方及び我が国と関係の深い国の生活や国際社会における我が国の役割を理解している。

算 数

(1) 評価の観点及びその趣旨

<小学校 算数>

観 点	算数への関心・意欲・ 態度	数学的な考え方	数量や図形についての 技能	数量や図形についての 知識・理解
趣 旨	数理的な事象に関心をもつとともに、算数的活動の楽しさや数理的な処理のよさに気付き、進んで生活や学習に活用しようとする。	日常の事象を数理的にとらえ、見通しをもち筋道立てて考え表現したり、そのことから考えを深めたりするなど、数学的な考え方の基礎を身に付けている。	数量や図形についての数学的な表現や処理にかかわる技能を身に付けている。	数量や図形についての豊かな感覚をもち、それらの意味や性質などについて理解している。

(2) 学年別の評価の観点の趣旨

<小学校 算数>

観 点 学年	算数への関心・意欲・ 態度	数学的な考え方	数量や図形についての 技能	数量や図形についての 知識・理解
第 1 学 年	数量や図形に親しみをもち、それらについて様々な経験をもとうとする。	数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能の習得や活用を通して、数理的な処理に親しみ、考え表現したり工夫したりしている。	整数の計算をしたり、身の回りにある量の大きさを比較したり、図形を構成したり、数量の関係などを表したり読み取ったりするなどの技能を身に付けている。	数量や図形についての感覚を豊かにするとともに、整数の意味と表し方及び整数の計算の意味を理解し、量、図形及び数量の関係についての理解の基礎となる経験を豊かにしている。
第 2 学 年	数量や図形に親しみをもち、それらについて様々な経験をもとうとするとともに、知識や技能などを進んで用いようとする。	数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能の習得や活用を通して、数理的な処理に親しみ、考え表現したり工夫したりしている。	整数の計算をしたり、長さや体積などを測定したり、図形を構成したり、数量の関係などを表したり読み取ったりするなどの技能を身に付けている。	数量や図形についての感覚を豊かにするとともに、整数の意味と表し方、整数の計算の意味、長さや体積などの単位と測定の意味、図形の意味及び数量の関係などについて理解している。
第 3 学 年	数理的な事象に関心をもつとともに、知識や技能などの有用さ及び数量や図形の性質や関係を調べたり筋道を立てて考えたりすることのよさに気付き、進んで生活や学習に活用しようとする。	数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能の習得や活用を通して、日常の事象について見通しをもち筋道を立てて考え表現したり、そのことから考えを深めたりするなど、数学的な考え方の基礎を身に付けている。	整数などの計算をしたり、長さや重さなどを測定したり、図形を構成要素に着目して構成したり、数量の関係などを表したり読み取ったりするなどの技能を身に付けている。	数量や図形についての感覚を豊かにするとともに、整数、小数及び分数の意味と表し方、計算の意味、長さや重さなどの単位と測定の意味、図形の意味及び数量の関係などについて理解している。
第 4 学 年	数理的な事象に関心をもつとともに、知識や技能などの有用さ及び数量や図形の性質や関係を調べたり筋道を立てて考えたりすることのよさに気付き、進んで生活や学習に活用しようとする。	数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能の習得や活用を通して、日常の事象について見通しをもち筋道を立てて考え表現したり、そのことから考えを深めたりするなど、数学的な考え方の基礎を身に付けている。	整数、小数及び分数の計算をしたり、図形の面積を求めたり、図形を構成要素の位置関係に着目して構成したり、数量の関係などを表したり調べたりするなどの技能を身に付けている。	数量や図形についての感覚を豊かにするとともに、整数、小数及び分数の意味と表し方、計算の意味、面積などの単位と測定の意味、図形の意味及び数量の関係などについて理解している。

第5学年	数理的な事象に関心をもつとともに、数量や図形の性質や関係などに着目して考察処理したり、論理的に考えたりすることのよさに気付き、進んで生活や学習に活用しようとする。	数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能の習得や活用を通して、日常の事象について論理的に考え表現したり、そのことを基に発展的、統合的に考えたりするなど、数学的な考え方の基礎を身に付けている。	小数や分数の計算をしたり、図形の面積や体積を求めたり、図形の性質を調べたり、数量の関係などを表したり調べたりするなどの技能を身に付けている。	数量や図形についての感覚を豊かにするとともに、整数の性質、分数の意味、小数や分数の計算の意味、面積の公式、体積の単位と測定の意味、図形の意味や性質及び数量の関係などについて理解している。
第6学年	数理的な事象に関心をもつとともに、数量や図形の性質や関係などに着目して考察処理したり、論理的に考えたりすることのよさに気付き、進んで生活や学習に活用しようとする。	数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能の習得や活用を通して、日常の事象について論理的に考え表現したり、そのことを基に発展的、統合的に考えたりするなど、数学的な考え方の基礎を身に付けている。	分数の計算をしたり、図形の面積や体積を求めたり、図形を構成したり、数量の関係などを表したり調べたりするなどの技能を身に付けている。	数量や図形についての感覚を豊かにするとともに、分数の計算の意味、体積の公式、速さの意味、図形の意味及び数量の関係などについて理解している。

理 科

(1) 評価の観点及びその趣旨

<小学校 理科>

観 点	自然事象への関心・意 欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知 識・理解
趣 旨	自然に親しみ、意欲を もって自然の事物・現 象を調べる活動を行い、 自然を愛するとともに 生活に生かそうとする。	自然の事物・現象から 問題を見だし、見通 しをもって事象を比較 したり、関係付けたり、 条件に着目したり、推 論したりして調べるこ とによって得られた結 果を考察し表現して、 問題を解決している。	自然の事物・現象を観 察し、実験を計画的に 実施し、器具や機器な どを目的に応じて工夫 して扱うとともに、そ れらの過程や結果を的 確に記録している。	自然の事物・現象の性 質や規則性、相互の関 係などについて実感を 伴って理解している。

(2) 学年別の評価の観点の趣旨

<小学校 理科>

観 点 学年	自然事象への関心・意 欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知 識・理解
第 3 学 年	自然の事物・現象に興 味・関心をもって追究 し、生物を愛護すると ともに、見いだした特 性を生活に生かそうと する。	自然の事物・現象を比 較しながら問題を見い だし、差異点や共通点 について考察し表現し て、問題を解決してい る。	簡単な器具や材料を見 付けたり、使ったり、 作ったりして観察、実 験やものづくりを行い、 その過程や結果を分か りやすく記録している。	物の重さ、風やゴムの 力並びに光、磁石の性 質や働き及び電気を働 かせたときの現象や、 生物の成長のきまりや 体のづくり、生物と環 境とのかかわり、太陽 と地面の様子などにつ いて実感を伴って理解 している。
第 4 学 年	自然の事物・現象に興 味・関心をもって追究 し、生物を愛護すると ともに、見いだした特 性を生活に生かそうと する。	自然の事物・現象の変 化とその要因とのかか わりに問題を見だし、 変化と関係する要因に ついて考察し表現して、 問題を解決している。	簡単な器具や材料を見 付けたり、使ったり、 作ったりして観察、実 験やものづくりを行い、 その過程や結果を分か りやすく記録している。	空気や水の性質や働き、 物の状態の変化、電気 による現象や、人の体 のつくりと運動、動物 の活動や植物の成長と 環境とのかかわり、気 象現象、月や星の動き などについて実感を伴 って理解している。
第 5 学 年	自然の事物・現象を意 欲的に追究し、生命を 尊重するとともに、見 いだしたきまりを生活 に当てはめてみよう とする。	自然の事物・現象の変 化とその要因との関係 に問題を見だし、条 件に着目して計画的に 追究し、量的変化や時 間的変化について考察 し表現して、問題を解 決している。	問題解決に適した方法 を工夫し、装置を組み 立てたり使ったりして 観察、実験やものづく りを行い、その過程や 結果を的確に記録して いる。	物の溶け方、振り子の 運動の規則性、電流の 働きや、生命の連続性、 流水の働き、気象現象 の規則性などについて 実感を伴って理解して いる。
第 6 学 年	自然の事物・現象を意 欲的に追究し、生命を 尊重するとともに、見 いだしたきまりを生活 に当てはめてみよう とする。	自然の事物・現象の変 化とその要因との関係 に問題を見だし、推 論しながら追究し、規 則性や相互関係につい て考察し表現して、問 題を解決している。	問題解決に適した方法 を工夫し、装置を組み 立てたり使ったりして 観察、実験やものづく りを行い、その過程や 結果を的確に記録して いる。	燃焼、水溶液の性質、 てこの規則性及び電気 による現象や、生物の 体の働き、生物と環境 とのかかわり、土地の つくりと変化のきまり、 月の位置や特徴などに ついて実感を伴って理 解している。

生 活

(1) 評価の観点及びその趣旨

<小学校 生活>

観 点	生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・ 表現	身近な環境や自分についての 気付き
趣 旨	身近な環境や自分自身に関心をもち、進んでそれらとかかわり、楽しく学習したり、生活したりしようとする。	具体的な活動や体験について、自分なりに考えたり、工夫したりして、それをすなおに表現している。	具体的な活動や体験によって、自分と身近な人、社会、自然とのかかわり及び自分自身のよさなどに気付いている。

(2) 学年別の評価の観点の趣旨

<小学校 生活>

観 点 学年	生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・ 表現	身近な環境や自分についての 気付き
第 1 学 年 及 び 第 2 学 年	身近な人、社会、自然及び自分自身に関心をもち、進んでそれらとかかわり、楽しく意欲的に学習したり、生活したりしようとする。	調べたり、育てたり、作ったりするなどの活動や学校、家庭、地域における自分の生活について、自分なりに考えたり、工夫したり、振り返ったりして、それをすなおに表現している。	具体的な活動や体験によって、学校、家庭、地域、公共物、身近な自然、動植物、自分の成長などの様子、それらと自分とのかかわり及び自分自身のよさに気付いている。

音楽

(1) 評価の観点及びその趣旨

<小学校 音楽>

観 点	音楽への関心・意欲・ 態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
趣 旨	音楽に親しみ、音や音楽に対する関心をもち、音楽表現や鑑賞の学習に自ら取り組もうとする。	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いや意図をもっている。	音楽表現をするための基礎的な技能を身に付け、歌ったり、楽器を演奏したり、音楽をつくったりしている。	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、楽曲の特徴や演奏のよさなどを考え、味わって聴いている。

(2) 学年別の評価の観点の趣旨

<小学校 音楽>

観 点 学 年	音楽への関心・意欲・ 態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
第 1 学 年 及 び 第 2 学 年	楽しく音楽にかかわり、音や音楽に対する関心をもち、音楽表現や鑑賞の学習に自ら取り組もうとする。	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いをもっている。	音楽表現をするための基礎的な技能を身に付け、歌ったり、楽器を演奏したり、音楽をつくったりしている。	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、楽曲や演奏の楽しさに気付き、味わって聴いている。
第 3 学 年 及 び 第 4 学 年	進んで音楽にかかわり、音や音楽に対する関心をもち、音楽表現や鑑賞の学習に自ら取り組もうとする。	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いや意図をもっている。	音楽表現をするための基礎的な技能を伸ばし、歌ったり、楽器を演奏したり、音楽をつくったりしている。	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、楽曲の特徴や演奏のよさに気付き、味わって聴いている。
第 5 学 年 及 び 第 6 学 年	創造的に音楽にかかわり、音や音楽に対する関心をもち、音楽表現や鑑賞の学習に自ら取り組もうとする。	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いや意図をもっている。	音楽表現をするための基礎的な技能を高め、歌ったり、楽器を演奏したり、音楽をつくったりしている。	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、楽曲の特徴や演奏のよさを理解し、味わって聴いている。

図画工作

(1) 評価の観点及びその趣旨

＜小学校 図画工作＞

観 点	造形への関心・意欲・ 態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
趣 旨	自分の思いをもち、進んで表現や鑑賞の活動に取り組み、つくりだす喜びを味わおうとする。	感じたことや材料などを基に表したいことを思い付いたり、形や色、用途などを考えたりしている。	感覚や経験を生かしながら、表したいことに合わせて材料や用具を使い、表し方を工夫している。	作品などの形や色などから、表現の面白さをとらえたり、よさや美しさを感じ取ったりしている。

(2) 学年別の評価の観点の趣旨

＜小学校 図画工作＞

観 点 学年	造形への関心・意欲・ 態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
第1学年及び第2学年	思いのままに表したり、作品などを見たりしながら、つくりだす喜びを味わおうとする。	感じたことや材料などを基に表したいことを思い付いたり、形や色、つくり方などを考えたりしている。	体全体の感覚を働かせながら材料や用具を使い、工夫して表している。	身の回りの作品などの形や色などから、面白さに気付いたり、楽しさを感じたりしている。
第3学年及び第4学年	自分の思いで表現したり、鑑賞したりしながら、つくりだす喜びを味わおうとする。	感じたことや見たこと、材料や場所などを基に表したいことを思い付いたり、形や色、用途などを考えたりしている。	手や体全体の感覚を働かせながら、表したいことに合わせて材料や用具を使い、表し方を工夫している。	身近にある作品などの形や色などから、表現の感じの違いをとらえたり、よさや面白さを感じ取ったりしている。
第5学年及び第6学年	自分の思いをもって表現したり、鑑賞したりしながら、つくりだす喜びを味わおうとする。	感じたことや見たこと、材料や場所などの特徴を基に表したいことを思い付いたり、形や色、用途や構成などを考えたりしている。	感覚を働かせたり経験を生かしたりしながら、表したいことに合わせて材料や用具を使い、様々な表し方を工夫している。	親しみのある作品などの形や色などから、表現の意図や特徴をとらえたり、よさや美しさを感じ取ったりしている。

家 庭

(1) 評価の観点及びその趣旨

<小学校 家庭>

観 点	家庭生活への関心・意 欲・態度	生活を創意工夫する能 力	生活の技能	家庭生活についての知 識・理解
趣 旨	衣食住や家族の生活などについて関心をもち、その大切さに気付き、家庭生活をよりよくするために進んで実践しようとする。	家庭生活について見直し、身近な生活の課題を見付け、その解決を目指して生活をよりよくするために考え自分なりに工夫している。	日常生活に必要な衣食住や家族の生活などに関する基礎的・基本的な技能を身に付けている。	日常生活に必要な衣食住や家族の生活などに関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。

(2) 学年別の評価の観点の趣旨

<小学校 家庭>

観 点 学 年	家庭生活への関心・意 欲・態度	生活を創意工夫する能 力	生活の技能	家庭生活についての知 識・理解
第 5 学 年 及 び 第 6 学 年	自分の成長と衣食住や家族の生活などについて関心をもち、その大切さに気付き、家族の一員として家庭生活をよりよくするために進んで取り組み実践しようとする。	衣食住や家族の生活などについて見直し、課題を見付け、その解決を目指して家庭生活をよりよくするために考えたり自分なりに工夫したりしている。	生活の自立の基礎として日常生活に必要な衣食住や家族の生活などに関する基礎的・基本的な技能を身に付けている。	家庭生活を支えているものや大切さを理解し、日常生活に必要な衣食住や家族の生活などに関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。

体 育

(1) 評価の観点及びその趣旨

<小学校 体育>

観 点	運動や健康・安全への 関心・意欲・態度	運動や健康・安全につ いての思考・判断	運動の技能	健康・安全についての 知識・理解
趣 旨	運動に進んで取り組むとともに、友達と協力し、安全に気を付けようとする。また、身近な生活における健康・安全について関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。	自己の能力に適した課題の解決を目指して、運動の仕方を工夫している。また、身近な生活における健康・安全について、課題の解決を目指して考え、判断し、それらを表している。	運動を楽しく行うための基本的な動きや技能を身に付けている。	身近な生活における健康・安全について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。

(2) 学年別の評価の観点の趣旨

<小学校 体育>

観 点 学年	運動や健康・安全への 関心・意欲・態度	運動や健康・安全につ いての思考・判断	運動の技能	健康・安全についての 知識・理解
第 1 学 年	運動に進んで取り組むとともに、だれとでも仲よく、健康・安全に留意しようとする。	運動の仕方を工夫している。	運動を楽しく行うための基本的な動きを身に付けている。	
第 2 学 年	運動に進んで取り組むとともに、だれとでも仲よく、健康・安全に留意しようとする。	運動の仕方を工夫している。	運動を楽しく行うための基本的な動きを身に付けている。	
第 3 学 年	運動に進んで取り組むとともに、きまりを守り互いに協力し、健康・安全に留意しようとする。さらに、健康な生活について関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。	自己の能力に適した課題をもち、運動の仕方を工夫している。また、健康な生活について、課題の解決を目指して実践的に考え、判断し、それらを表している。	運動を楽しく行うための基本的な動きや技能を身に付けている。	健康な生活について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。
第 4 学 年	運動に進んで取り組むとともに、きまりを守り互いに協力し、健康・安全に留意しようとする。さらに、体の発育・発達について関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。	自己の能力に適した課題をもち、運動の仕方を工夫している。また、体の発育・発達について、課題の解決を目指して実践的に考え、判断し、それらを表している。	運動を楽しく行うための基本的な動きや技能を身に付けている。	体の発育・発達について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。
第 5 学 年	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、進んで運動に取り組むとともに、協力、公正などの態度を身に付け、健康・安全に留意しようとする。さらに、心の健康やけがの防止について関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。	自己の能力に適した課題の解決の仕方や運動の取り組み方を工夫している。また、心の健康やけがの防止について、課題の解決を目指して実践的に考え、判断し、それらを表している。	運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。	心の健康やけがの防止について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。

第6学年	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、進んで運動に取り組むとともに、協力、公正などの態度を身に付け、健康・安全に留意しようとする。さらに、病気の予防について関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとする。	自己の能力に適した課題の解決の仕方や運動の取り組み方を工夫している。また、病気の予防について、課題の解決を目指して実践的に考え、判断し、それらを表している。	運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。	病気の予防について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。
------	---	--	--------------------------	-----------------------------------

2. 外国語活動の記録

(1) 評価の観点及びその趣旨

＜小学校 外国語活動の記録＞

観 点	コミュニケーションへの関心 ・意欲・態度	外国語への慣れ親しみ	言語や文化に関する気づき
趣 旨	コミュニケーションに関心をもち、積極的にコミュニケーションを図ろうとする。	活動で用いている外国語を聞いたり話したりしながら、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しんでいる。	外国語を用いた体験的なコミュニケーション活動を通して、言葉の面白さや豊かさ、多様なものの見方や考え方があることなどに気付いている。

3. 特別活動の記録

(1) 評価の観点及びその趣旨

＜小学校 特別活動の記録＞

観 点	集団活動や生活への関心・意 欲・態度	集団の一員としての思考・判断 ・実践	集団活動や生活についての知 識・理解
趣 旨	学級や学校の集団や自己の生活に関心をもち、望ましい人間関係を築きながら、積極的に集団活動や自己の生活の充実と向上に取り組もうとする。	集団の一員としての役割を自覚し、望ましい人間関係を築きながら、集団活動や自己の生活の充実と向上について考え、判断し、自己を生かして実践している。	集団活動の意義、よりよい生活を築くために集団として意見をまとめる話し合い活動の仕方、自己の健全な生活の在り方などについて理解している。

4. 行動の記録

(1) 評価項目及びその趣旨

＜小学校 行動の記録＞

項 目	学 年	趣 旨
基本的な生活習慣	第1学年及び第2学年	安全に気を付け、時間を守り、物を大切にし、気持ちのよいあいさつを行い、規則正しい生活をする。
	第3学年及び第4学年	安全に努め、物や時間を有効に使い、礼儀正しく節度のある生活をする。
	第5学年及び第6学年	自他の安全に努め、礼儀正しく行動し、節度を守り節制に心掛ける。
健康・体力の向上	第1学年及び第2学年	心身の健康に気を付け、進んで運動をし、元気に生活をする。
	第3学年及び第4学年	心身の健康に気を付け、運動をする習慣を身に付け、元気に生活をする。
	第5学年及び第6学年	心身の健康の保持増進と体力の向上に努め、元気に生活をする。
自主・自律	第1学年及び第2学年	よいと思うことは進んで行い、最後までがんばる。
	第3学年及び第4学年	自らの目標をもって進んで行い、最後までねばり強くやり通す。
	第5学年及び第6学年	夢や希望をもってより高い目標を立て、当面の課題に根気強く取り組み、努力する。
責任感	第1学年及び第2学年	自分でやらなければならないことは、しっかりと行う。
	第3学年及び第4学年	自分の言動に責任をもち、課せられた役割を誠意をもって行う。
	第5学年及び第6学年	自分の役割と責任を自覚し、信頼される行動をする。
創意工夫	第1学年及び第2学年	自分で進んで考え、工夫しながら取り組む。
	第3学年及び第4学年	自分でよく考え、課題意識をもって工夫し取り組む。
	第5学年及び第6学年	進んで新しい考えや方法を求め、工夫して生活をよりよくしようとする。
思いやり・協力	第1学年及び第2学年	身近にいる人々に温かい心で接し、親切にし、助け合う。
	第3学年及び第4学年	相手の気持ちや立場を理解して思いやり、仲よく助け合う。
	第5学年及び第6学年	思いやりと感謝の心をもち、異なる意見や立場を尊重し、力を合わせて集団生活の向上に努める。
生命尊重・自然愛護	第1学年及び第2学年	生きているものに優しく接し、自然に親しむ。
	第3学年及び第4学年	自他の生命を大切にし、生命や自然のすばらしさに感動する。
	第5学年及び第6学年	自他の生命を大切にし、自然を愛護する。
勤労・奉仕	第1学年及び第2学年	手伝いや仕事を進んで行う。
	第3学年及び第4学年	働くことの大切さを知り、進んで働くようにする。
	第5学年及び第6学年	働くことの意義を理解し、人や社会の役に立つことを考え、進んで仕事や奉仕活動をする。
公正・公平	第1学年及び第2学年	自分の好き嫌いや利害にとらわれないで行動する。
	第3学年及び第4学年	相手の立場に立って公正・公平に行動する。
	第5学年及び第6学年	だれに対しても差別をすることや偏見をもつことなく、正義を大切にし、公正・公平に行動する。
公共心・公德心	第1学年及び第2学年	約束やきまりを守って生活し、みんなが使うものを大切に
	第3学年及び第4学年	約束や社会のきまりを守って公德を大切にし、人に迷惑をかけないように心掛け、のびのびと生活する。
	第5学年及び第6学年	規則を尊重し、公德を大切にするとともに、郷土や我が国の伝統と文化を大切にし、学校や人々の役に立つことを進んで行う。

小 学 校 児 童 指 導 要 録（参考様式）

様式1（学籍に関する記録）

区分	学年	1	2	3	4	5	6
学 級							
整理番号							

学 籍 の 記 録						
児 童	ふりがな			性 別	入学・編入学等	平成 年 月 日 第 1 学年 入 学 第 学年編入学
	氏 名					
	生年月日	平成 年 月 日生		転 入 学	平成 年 月 日 第 学年転入学	
	現住所					
保 護 者	ふりがな			転学・退学等	(平成 年 月 日) 平成 年 月 日	
	氏 名					
	現住所			卒 業	平成 年 月 日	
入学前の経歴				進 学 先		
学 校 名 及 び 所 在 地 (分校名・所在地等)						
年 度		平成 年度		平成 年度		平成 年度
区分	学年	1		2		3
校 長 氏 名 印						
学 級 担 任 者 氏 名 印						
年 度		平成 年度		平成 年度		平成 年度
区分	学年	4		5		6
校 長 氏 名 印						
学 級 担 任 者 氏 名 印						

様式2（指導に関する記録）

児 童 氏 名		学 校 名		区分	学年	1	2	3	4	5	6							
				学 級														
				整理番号														
各 教 科 の 学 習 の 記 録											外 国 語 活 動 の 記 録							
I 観 点 別 学 習 状 況											観 点	学 年	5	6				
教科	観 点	学 年	1	2	3	4	5	6										
国 語	国語への関心・意欲・態度								コミュニケーションへの関心・意欲・態度									
	話す・聞く能力																	
	書く能力								外国語への慣れ親しみ									
	読む能力																	
	言語についての知識・理解・技能																	
社 会	社会的事象への関心・意欲・態度								言語や文化に関する気付き									
	社会的な思考・判断・表現																	
	観察・資料活用																	
	社会的事象についての知識・理解																	
算 数	算数への関心・意欲・態度								総 合 的 な 学 習 の 時 間 の 記 録									
	数学的な考え方								学年	学 習 活 動	観 点	評 価						
	数量や図形についての技能								3									
	数量や図形についての知識・理解																	
理 科	自然事象への関心・意欲・態度								4									
	科学的な思考・表現																	
	観察・実験の技能																	
	自然事象についての知識・理解																	
生 活	生活への関心・意欲・態度								5									
	活動や体験についての思考・表現																	
	身近な環境や自分についての気付き																	
音 楽	音楽への関心・意欲・態度								6									
	音楽表現の創意工夫																	
	音楽表現の技能																	
	鑑賞の能力																	
図 画 工 作	造形への関心・意欲・態度																	
	発想や構想の能力																	
	創造的な技能																	
	鑑賞の能力																	
家 庭	家庭生活への関心・意欲・態度																	
	生活を創意工夫する能力																	
	生活の技能																	
	家庭生活についての知識・理解																	
体 育	運動や健康・安全への関心・意欲・態度								特 別 活 動 の 記 録									
	運動や健康・安全についての思考・判断								内 容	観 点	学 年	1	2	3	4	5	6	
	運動の技能								学級活動									
	健康・安全についての知識・理解								児童会活動									
II 評 定																		
学年	教科	国語	社会	算数	理科	音楽	図画工作	家庭	体育									
3																		
4																		
5																		
6																		

児 童 氏 名

行 動 の 記 録															
項 目	学 年	1	2	3	4	5	6	項 目	学 年	1	2	3	4	5	6
基本的な生活習慣								思いやり・協力							
健康・体力の向上								生命尊重・自然愛護							
自主・自律								勤労・奉仕							
責任感								公正・公平							
創意工夫								公共心・公德心							

総 合 所 見 及 び 指 導 上 参 考 と な る 諸 事 項											
第 1 学 年							第 4 学 年				
第 2 学 年							第 5 学 年				
第 3 学 年							第 6 学 年				

出 欠 の 記 録							備 考
区分	授業日数	出席停止・ 忌引等の日数	出席しなければ ならない日数	欠席日数	出席日数		
学年							
1							
2							
3							
4							
5							
6							